犬山北小学校研究発表大会 大会委員長 大澤 実行委員長 加地

平成18年度 犬山北小学校研究発表大会のご案内 -第38回全国協同学習研究大会・第2回子育て教育フォーラムー

寒冷の候、貴台におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。 さて、子どもたちを取り巻く環境には、学力問題、いじめ・不登校、小中高生の犯罪、 幼児・児童への虐待、拉致殺害等の喫緊の課題が山積しています。こうした社会において、 一人一人が個性を発揮し、困難な場面に出会ってもそれを乗り越え、未来を切り開いていく力が求められています。今、学校教育では、「自ら学び・自ら考える力」を培うため、生きる力の育成を図ることを、目指しています。

本校では、協同的な学び合いから生まれる豊かな同時学習を展開することにより、将来 社会の中で直面する幾多の困難や課題に対し、主体的に対応できる人格と能力の育成に努 めてきました。さらに、今日的課題である特別支援を必要とする子への教育についても、 学び合いの授業の中でどのように個々のニーズに応えて活動できるかその可能性をさぐっ

てきました。

これらの取り組みを通し、学校、家庭、地域社会が役割分担をし、三者一体となった協力連携のもとで子育てをする必要性を強く感じています。

全国協同学習研究大会では、協同学習の豊かな実践と研究の積み重ねを、公開授業と実践発表によって分かち合い、子どもの学びを高める機会にしていきます。

また、昨年度、第1回教育フォーラムの開催によって、子育て機関相互の協力が深まり、 特に犬山市役所子ども未来課と学校現場との連携が密になって、その成果が現れています。 そこで、子育てフォーラムでは、その実践を中心に報告し、子育ての在り方を方向づけて いきます。

記

共に学び 共に育つ

平成19年2月16日(金)~17日(土) 帮

2 愛知県犬山市立犬山北小学校

犬山福祉会館

3 主催 犬山市立犬山北小学校 全国協同学習研究会

犬山市役所子ども未来課

H 程 犬山市・犬山市教育委員会

. (1) 第1日目

第38回全国協同学習研究大会

平成19年2月16日(金)

《学び合いの授業が目指すものは!》

公開授業 1限 2限	受付	公開授業研究 及び公開授業 3限・4限	昼食	開会行事	講	演	分科会 第1~第5	懇親会
:50 10:3		0:50 (放課10分) 12	2:30 1:		:50	14		<u>L</u>

(会場 犬山北小学校) ——

(会場 犬山市福祉会館)

① 公開授業研究(犬山市立犬山北小学校)10:50~12:30

学年	組	教	科	授業者
1	2	算	数	大倉・近藤
2	1	算	数	長屋・大澤
2	4	生	活	松山
3	1	国	語	奥村有
4	2	算	数	小松・加藤
4	3	围	語	平松
5	1	家	庭	若原
5	3	社	会	滝
4 5 5 6 6	2	算	数	間瀬・氷室
6	3	国	語	松浦

<u>《4</u> 学年	根組	教	科	授業者
1	1	国	語語	浅輪
1	3233	国	語	大島
2	2	田	語	荒木
2	3	算	数	村瀬・大澤
3		国	語	吉田
3 3	3	国	語	石田
	1	体	育	木島・小倉
<u>4</u> 5	2	玉	語語語言語会当	奥村
6	1	社	会	橋本
仲よし	1	生	単	高木・NPO
仲よし	2	算	数	佐光

② 開会行事(犬山市福祉会館)

13:30~13:50

③ 講 演(犬山市福祉会館)

13:50~14:50

講師 犬山市教育長 瀬見井 演題 「 犬山の教育改革 」

④ 分科会(犬山市福祉会館)

14:50~16:50

久

分科会	助言者1	助言者2	助言者3	司会者	発表
1	中村 安志 (犬山 犬山西小)	高島 雅展 (小松 今江小)	石田勢津子 (名古屋外大)	中野 太四 (犬山 犬山南小)	犬山北小(犬山市) つつじが丘小 (名張市)
2	有本 高尉 (犬山 楽田小)	荒木 正志 (東京 練馬第三小)	伊藤 篤 (神戸大)	水谷 茂 (犬山 城東小)	羽黒小(犬山市) 山崎小(野田市)
3	須賀 陽子 (犬山 城東小)	山本 美一 (名張 つつじ丘小)	小石 寛文 (神戸学院大)	市原 尊光 (犬山 東小)	犬山西小(犬山市) 今江小(小松市)
4	大矢 恵一 (犬山 南部中)	大関 健道 (野田 市教委)	宇田 光 (南山大)	河村 雅之 (犬山 南部中)	城東中(犬山市) 南部中(野田市)
5	奥村 英俊 (犬山 犬山中)	小栗 祥吾 (土岐 泉中)	伊藤 康児 (名城大)	小川 仁史 (犬山 東部中)	東部中(犬山市) 丸内中(小松市)

(2) 第2日目

第2回子育て教育フォーラム 《今、子育てに大切なものは!》

平成19年2月17日(土)

基調	講	演	分 科 会	
報告			第1~第4	**
(315.0			····	

915 930 1030 1215 (会場 犬山市福祉会館) ———

① 基調報告(犬山市福祉会館) 報告 母子生活支援施設長

9:15~9:30 色川 美鈴

② 講 演(犬山市福祉会館)

9:30~10:30

講師 矢野 きよ実 演題 「,地域の子育て支援 」

③ 分科会 (犬山市福祉会館)

10:30~12:15

第1分科会

73 17177	\	
	犬山市役所子ども未来課関係	犬山北小学校関係
テーマ	要保護対策における学校・ 行政の連携	開かれた学校運営機構 〜学校・家庭・地域社会 による連携協力〜
発表者	地域支援者など	飯田 勝己 (犬山北小教頭)
発表内容	・要保護児童対策の現状 ・地域にもある通告義務の確認 ・子どもの居場所としての家庭の 危機や子どもの状態を注意深く 見守る体制 ・我が子は一人の人格を持った人 間であり、親の所有物ではない という意識	・学校公開日を毎日設定し、学びの姿を通しての学校、家庭、地域との選携 ・職員一人一役制と外部支援者との選集

第2分科会

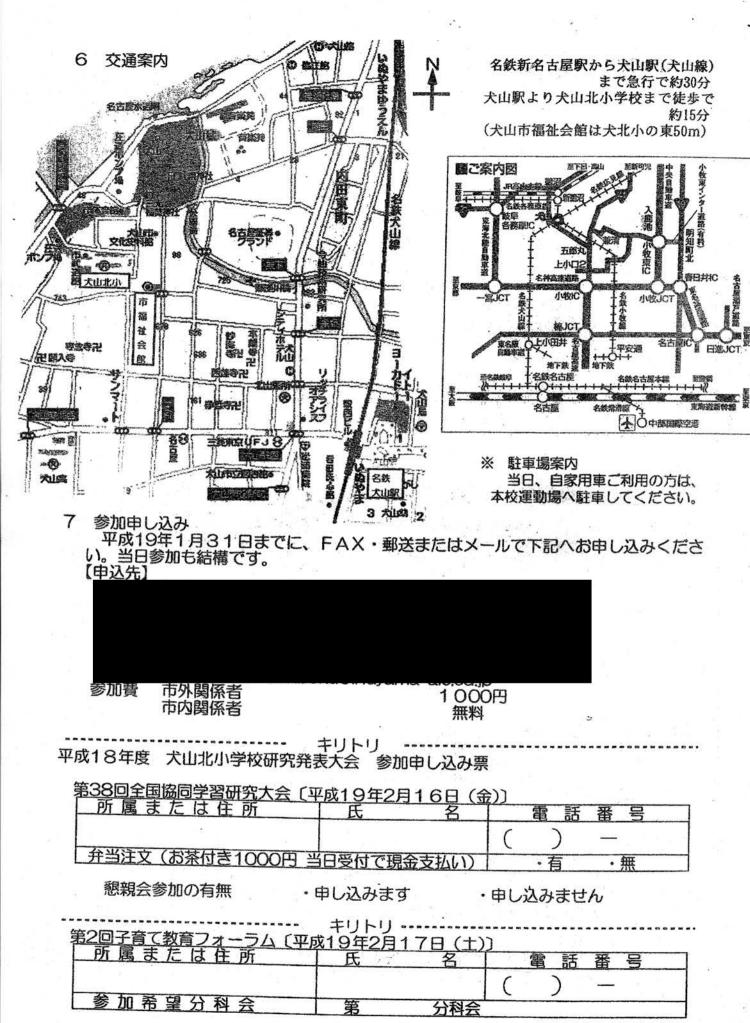
30 Z JJ14Z	大山市役所子ども未来課関係	犬山北小学校関係
テーマ	障害児支援を地域で考える	特別支援教育
発表者	障害児の支援団体など	NPOによる支援体制~ NPOポンポコネットワーク
発表内容	・発達障害の子どもの教育機関に おける受け入れ態勢の実態 ・健常児と障害児がともに育ちあ	の支援活動
	う視点・地域支援団体の状況	・特別支援推進委員会に加わり、特別 支援教育のコーディネータとしての 活動

第3分科会

	大山市役所子ども未来課関係	犬山北小学校関係
テーマ	中学校の子育て体験から見える次	親の願いや地域の期待に応える学校つ
	代の親育で	~評価活動のあり方を求めて~
発表者	上子育て支援センター関係者など	浅輪 郁代 (犬山北小教諭)
発表内容	・中学生の子育て体験の報告(アンケートなどから見える問題点) ・子どもたちが育つ過程での異年齢の関わりの少なさ、体験不足・中学生の実態	・保護者との連携協力を重視した評価活動

第4分科会

大山市役所子ども未来課関係	犬山北小学校関係
子育でに係わるボランティアの連	町づくりに位置づけた学校経営
」	~地域社会への参加~
地域ボランティア関係者など	松山 昌司(犬山北小教諭)
	・ふれあい農園や花まつりの踊りなど
	学校の教育活動で地域に参加
・地域での子育て支援団体の児童	・町の中に、学校の情報発信と交流の
」 館を軸とした活動状況	場としての「学び庵」の設置と運営
	大山市役所子ども未来課関係 子育てに係わるボランティアの連携 地域ボランティア関係者など ・地域の安全に関わるボランティア組織 ・地域での子育て支援団体の児童館を軸とした活動状況



第38回 全国協同学習研究大会

共に学び 共に育つ



期日 平成19年2月16日(金)

会場 犬山市立犬山北小学校 犬山市福祉会館

主催 犬山市立犬山北小学校 全国協同学習研究会

後援 犬山市・犬山市教育委員会

第38回全国協同学習研究大会をむかえて

全国協同学習研究会会長 杉江 修治

大山市の授業改革の取り組みは 2001 年度から始まり、市内 14 の小、中学校が、いずれも学び合いを軸とした実践を広げ深めてきています。学び合いの授業の背景には、教師主導ではなく、子どもが主役となる授業をいかに設計していくかという考えがあり、その手立ての発想の背景には、「自ら学び、自ら考える」力を備えた子どもを育てたいという教育目標があります。授業改善を、めざす学力の実現にしっかりと方向づけた試みといえるでしょう。また、そのような挑戦を、市をあげて行っていることは、新しい時代の新しい教育を追求する、あるべき方向を示す重要な事例として評価できるのではないかと思います。

子どもたちが共に育ち合う教育は、協同学習の基本理念です。国内各地の最近の授業改善のさまざまな事例に、この協同の考え方が次々に入り込んできています。協同学習の実践校も増えてきています。子どもの違いのみを個性と捉え、それに着目することが子どもを育てることだといった、おとなの論理による指導という視点の誤りが、教育現場で実感を持って認識されてきていることによるのだろうと考えます。

実践に協同、学び合いの導入が相次ぎ、確実にこの領域への関心が高まってきていることは、日本協同教育学会のワークショップの人気にもうかがうことができます。2007年はアメリカの代表的な協同学習研究者であるジョンソン兄弟の講演や協同学習関連の出版も予定されており、協同学習がより大きな広がりを見せるステップの年になるでしょう。日本の今後の教育への有効な視点が広がろうとしています。

第38回をむかえた、この全国協同学習研究会大会に、多忙な時間を割き、発表に、討議にご参加くださった多くの方々に心より御礼申し上げます。このような、インフォーマルな研究会への自由な参加が、日本の学校現場にもっと定着することが本当に必要だと思います。また、大会を引き受けてくださった犬山市立犬山北小学校の加地健校長先生をはじめ教職員、保護者の皆様に深く感謝いたします。犬山北小学校は、この大会の翌日には「子育てフォーラム」を引き続き開催されることから分かるように、「共に学び、共に育つ」ことを学校内の学習指導の原理にとどめるのでなく、地域、家庭との連携による、子どもの育ちのよりよい環境づくりに生かそうと取り組んでいる学校です。子どものために学校ができる思いつく限りのよいことに挑戦しているということができるでしょう。学校は子どもに何ができるか、その可能性を知る機会としての意義も、この大会にあるといえます。

子どもたちのよりよい学びと育ちへの、大人の適切な支援を生み出すための情報にある れた研究大会になると確信いたします。

目 次

第38回全国協同学習研究大会をむかえて 全国協同学習研究会会長 杉江 修治

目 次

タイムテーブル

第1分科会

- ① 特殊学級と地域の方との協同学習の試み 自分らしさを発揮し、地域で生きていく力を育む実践
- ② 学び合う人間関係を日常生活に生かしながら、主体的に学び続ける子どもの育成をめざす

第2分科会

- ① 心をあわせ、力をあわせ、共に学ぶ子の育成 米調査隊「米作りから学ぼう 広げよう 深めよう」の授業 実践を通して
- ② 分かる喜びを味わえる算数科学習

第3分科会

- ① 「ことばが心をつなぐ、未来を作る」 一確かな読解力と豊かなコミュニケーション能力の 育成をめざしてー
- ② 「やる気満々,のびのび表現」できる城山っ子をめざして ~学びの自立を育む授業の創造~

第4分科会

- ① 豊かで潤いのある学びの追求
- ② 実践から見えてきたもの ~豊かな学び合いをめざして~

第5分科会

- ① "学び合い"を生かす総合的な学習 ~東中グリーンマップ作りを通して~
- ② 『確かな学力を育む指導の研究』 ~学ぶ意欲を高める授業をめざして~

タイムテーブル

会場: 犬山市立犬山北小学校

10:30~

受付開始

10:50~12:30

公開授業

公開授業研究 犬山市立犬山北小学校

《3	限》			
学年	組	教	科	授業者
1	2	算	数	大倉・近藤
2	1	算	数	長屋・大澤
2	4	生	活	松山
3	1	王	語	奥村有
4	2	算	数	小松・加藤
4	3	王	語	平松
_5	2	算	数	奥村・有賀
5	3	社	会	滝
5 6 6	2	算	数	間頼・氷室
6	3	玉	語	松浦

《 4	限》			
学年	組	教	科	授業者
1	1	玉	語	浅輪
1	3	玉	語	大島
2	2	王	語	荒木
2	3	算	数	村瀬・大澤
3	2	国	語	吉田
3	3	国	語	石田
4	1	体	育	木島・小倉
5	1	家	庭	若原
6	1	社	会	橋本
仲よし	1	生	単	高木・NPO
仲よし	2	算	数	佐光

会場: 犬山市福祉会館

12:30~13:30

昼食・休憩

(昼食場所:福祉会館4階中ホール)

13:30~13:50

開会行事

(福祉会館 大ホール)

13:50~14:50

講演

(福祉会館 大ホール)

『犬山の教育改革』

犬山市教育長 瀬見井 久

14:50~16:50 分科会

第1分科会(福祉会館 4階中ホール)

第2分科会(福祉会館 4階 401)

第3分科会(福祉会館 4階 402)

第4分科会(福祉会館 5階 501)

第5分科会(福祉会館 5階 502)

* 分科会ごとで解散となります

第1分科会 14:50~16:50

会 場 福祉会館 4階 中ホール

助言者 犬山市立犬山西小学校 中村 安志

小松市立今江小学校 高島 雅展

名古屋外国語大学 石田 勢津子

司会者 犬山市立犬山南小学校 中野 太四

発表 ① 特殊学級と地域の方との協同学習の試み 自分らしさを発揮し、地域で生きていく力を育む実践 犬山市立犬山北小学校 高木 真由美

② 学び合う人間関係を日常生活に生かしながら、主体的に学び続ける子どもの育成をめざす

名張市立つつじが丘小学校 岩森 進

特殊学級と地域の方との協同学習の試み 自分らしさを発揮し、地域で生きていく力を育む実践

犬山北小学校 高木 真由美

1 はじめに

児童が将来自立して生きていけるようにコミュニケーション能力を育成しているが、障害を持っていても、快く支援し合える関係があれば生活の質は向上する。障害を理解し支援してくださる地域の方を増やしておくことも必要だと考え、地域の方との協同学習の取り組みをしている。地域の方との交流を通して、自分らしさを発揮し、地域で生きていく力を育む実践を述べたい。

2 研究の構想

特殊学級児童は抽象的な説明より、 実際に体験し、具体的に学習すること が効果的である。より多様な人と多様 な場において交流することがコミュニ ケーション能力を高めると考え、資料 1のように地域の方との交流の場を設 定し、意図的なかかわりを持っている。

3 実践

- (1) デイサービスの方との交流
 - ① ねらいと手立て

本年度は、自分の思いを伝えながら、思いやりのある行動がとれるようにしたいと思い、「デイサービスの方と仲良くなる」「デイサービスの方に教えていただく」「デイサービスの方の役に立つ」という目標にした。そして、毎回、体操



を教えていただいた後、お茶出しの手伝いをさせていただいている。 活動の時間は時間割に設定したり、ペアやグループを国宝して活動し

活動の時間は時間割に設定したり、ペアやグループを固定して活動したりしてかかわりが 深くなるようにしている。事前に支援方法等の打ち合わせもしている

② 活動の実際

ア 17年度の活動

ウ シャボン玉遊びを楽しもう

イ 「七夕」を楽しもう

エ 学習を発表しよう

③ 結果と考察

活動内容は、四季の行事やレクリエーション活動と学習の成果が発表できる活動にした。 事前に支援内容などを打ち合わせ、特殊児童とデイサービス利用者が、一緒に活動すること で、より楽しい活動になるよう心掛けた。初めは緊張していた児童もペアを固定したことで 速くうち解けることができた。そして、どの児童も次回の活動を心待ちにするようになった。

担任と少人数で活動することの多い特殊学級では味わえないかかわりが持て、賞賛される時も、「すごい」等とあちこちから声が上がり、一緒に活動することで喜びが倍増したからだと思う。デイサービス職員からも利用者の創作意欲が高まり、活動を楽しみにしていると聞いている。「相手のために」という目的を持って活動し、「喜んでくれた」と実感できたことで、互いの絆が深まった。

デイサービスで劇を上演したり、発表会にお招きしたりして、伝える楽しさや、伝わる喜びが味わえる場の設定に心がけたが、参加してくださる方の理解と優しさが児童の意欲や自信を育んだと思っている。

(2) 学校支援者との交流

① ねらいと手立て

学校支援者に、交流学習に付き添っていただくことで、特殊学級児童が通常学級児童と楽 しくかかわりながら、充実した交流の時間が過ごせるようにしたり、地域の方に学校支援者 として児童にかかわっていただくことで障害を理解していただいたりしている。

保護者、支援者、学校職員が話し合いを持ち、支援計画をたてている。

本年度は、昨年度築いた信頼関係を深め、更に理解し合えるようにするため、交流学級で

の支援の他に、特殊学級での学習に参加していただいている。

② 活動の実際

- ア 交流学習への参加
- イ 特殊学級での習字の学習
- ウ 特殊学級での珠算の学習
- エ 特殊学級での墨絵の学習



ボランティアによる交流学習での付き添いは、昨年度より行っているので、交流学級児童 にも理解されている。支援者と共に特殊学級で行っている学習活動では、写真でも分かるよ うに個別に対応できるので学力は伸びているが、それ以上に信頼関係が深まった。また、墨 絵の学習で支援者も児童と同じ教えてもらう立場で参加することで、学習の場では味わえな 5,25 X 作文2

いかかわりが持て、さらにかかわりが深まっている。

3 2年間の実践の結果と考察

実践を始めてまだ2年目だが、いろいろな方々とかかわることで児童の力 は着実に伸びている。作文2は助言を受けながら平成17年度当初に書いた 作文で、作文3は同じ児童が、平成 18 年度に自分の力だけで書いた作文で ある。「伝えたいこと」があり、「伝えたい人」がいて、「伝える楽しさ」「伝 わる喜び」を実感すれば自分の思いを伝える力は育つことを確信した。

資料3は、保護者が連絡帳に書かれた文章である。自分で考え、行動する ことが難しく、力を付けるのに時間が掛かる児童だからこそ、何が必要なの か、そのためにはどうすればよいのかということをしっかり見極め、楽しく 活動することが大切だと改めて思った。

資料4は、学習の成果を知らせる「すく すくだより」の返信欄に同じ保護者が書か れた文章である。いろいろな方といろいろ な場でかかわることでコミュニケーション 能力が伸びていることが分かる。

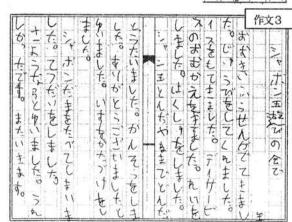
地域の方と交流し、学び合う体験をする ことは、将来、地域でいろいろな年齢層の 方とかかわり豊かな社会生活を営む時の財 産になると確信した。

4 おわりに

障害者と健常者が理解し合うには時間が

かかるからこそ、地域の方と 学び合う機会を設定する必要 を痛感している。

社会全体が偏見のない、誰 にとっても住みよい社会にな ることを願って、地道に活動 を継続していきたい。



高本美生をはじめとして多くの先生ろ、ほんほでの皆さんは子後達にさせえ て頂いて的で考えて行動するような自主性か見られるようになった ように感じています。多くの体験とませて頂き、一歩一歩着実に成長に いってもらいたいです。 資料3 保護者からの連絡より抜粋

人とのコミュニケーションかてないたないたように風じます。人か好きでした 対する気持ちからあるという事は客はしい争です。多くの人、いろいろな 事に関めて経験を積んでいてほいです

資料4 「すくすくだより」の保護欄から抜粋

第1分科会②

学び合う人間関係を日常生活に生かしながら、主体的に学び続ける 子どもの育成をめざす

三重 名張市立つつじが丘小学校 岩森 進

1. 研究課題の設定理由

本校の実態として、対人関係を構築する能力、つまり児童の人間関係の希薄さが挙げられる。 それは、コミュニケーション能力や言語感覚の不足、語彙力の低下から来ていると考えられる。また、教師が、教材や学習内容の認知を前面に押し出そうとする授業パターンへの固執から、なかなか抜け出せないでいる状況にあることも無関係ではない。

そこで、本年度の方向として、次のような仮説を立てた。

語彙力を高めれば、自分の混沌とした内面を意識(言語化、言葉を獲得)することで自我が明確になり、相手とのコミュニケーションが図れ、信頼関係を強められると考える。また、信頼に支えられた人間関係の中で学びあう授業を展開することで、意欲的・主体的な子どもが生まれるのではないか。

国語科の「聞く・話す・書く」活動を通して、

- ・ 言語環境を整え、語彙を増やす。
- 語彙を増やすことで、コミュニケーション能力を高める。
- ・ 書くことを日常化し、定着させ、自己を発見・表現する。
- 学びあう授業を展開していく。

つまり、「聞く」「話す」は人間関係の構築を、「書く」は個人内の自己実現を図る活動と捉え、そこに、他者と関わりながら深めていく学習活動の展開を組み込むことで、本校テーマの主体的に 学び続ける子どもを育てることに迫れると考えた。

2. 研究の概要

主体的に学び続ける子どもの育成をめざす研究の具体的てだてとして、大きく2つに分類できる。

(1) 言語環境を整えるという視点での取り組み

- ・掲示物 教室内や教室前廊下や中央廊下に「声のものさし」「発表のしかた」「学習のながれ」「学びの足跡」作品、学習の成果、ワークシートなど、学習単元全体が見通せたり、他学級や他学年の学びが見えるものを掲示する。
- ・さわやかタイム 朝の会終了後、文字、音読、読書、漢字、詩、読み聞かせなどを行い、語 彙力をつけたり、構成力をつけたりするための日常的・訓練的な取り組みにより語彙力の充実

を図る。

言語環境を整える取り組みは、同時に子どもたち同士がお互いの学びの成長を確かめ合える仕掛けになっている。仲間の良いところを知り、仲間のおかげで伸びていることを実感できる。 全員の伸びが全員の喜びとできる学級・学校づくりに貢献している。その意味で、次の項目とは 車の両輪のような関係にあり、切り離せないものである。

(2)他と関わりながら深めていく学習活動の展開

・ミニ集会 2学年単位の集会を行うことで、学びを表現・発表し、異学年が交流する場を設定し、学年の壁を越えたたてのつながりを強化する。また、本年度は集会以外にも運動会競技や校内作品展、児童会行事でも縦割りを強く意識した企画運営がされた。

・授業の設計 「教材をどう教えるか」ではなく、テーマに迫るための子どもが主体的に学び合う授業を国語科でどう構成するか?学び合う人間関係を日常生活に生かすには?

国語に限らず、さまざまな学習活動の場で、グループの話し合いなど、子ども同士の緊密な 関わり合いを意図的に仕組み、思いを語り合える仲間をつくる。そして、ともに考えたり活動した りする中で、互いを認め合い、学び合い、高め合う共同体的な感覚を身につける。授業で人間 関係を育て、人間関係を育てることで学びも深まる。そのためには、子どもの学びを教師中心の 活動から子ども中心の活動へと転換していかなくてはならない。

そこで、3つのポイントを押さえている。

① 学びの全体図を提示すること

単元の学習に見通しをもち、学習内容の目的やねらいを明確にして、学習課題をつかませる。見通しをもつことで、意欲的に学習に参加するようになる。また、教師の側も、ねらい・学習内容と手順・到達目標を明確にもっておく。

② 子ども同士を横につなぐための仲間との協同

教育の基盤は信頼に支えられた人間関係にあることは言うまでもなく、学級の中に、 自由で多様な発想を発言できる支持的風土があれば、子どもは課題の解決に向けて進 んで取り組む。そうなるためには、従来の一斉指導では難しく、協同学習の考えを取り 入れた小集団学習が有効である。

そのために、場面に合わせて机を配置、話し合いを広げ深めるためにホワイトボードを活用したり、話し合いのルールや役割を作ったりする。こうした他者との対話により関心・意欲・思考・表現力が育成され、仲間との協同により自分が伸び、友だちを自分が伸ばしているという有用感をもつことが、次への意欲につながる。

③ 振り返り活動(自己評価)

学習したことを振り返る活動により、友だちの良いところを発見したり、自分の良さを再認識したりする。また、教師にとってはフィードバック情報として、授業の修正・改善に生かす。なによりも自分の現在の立場を確認する作業は、学びが極めて個人的で、狭く軽くなっている現状を打開する一つの方法ではないかと思う。

実践例

5年2組「伝え合って考えよう」(教材「人と『もの』との付き合い方」)

(1)ねらい「ごみ問題ってなあに」をきっかけに、自分なりの課題をもって調べ、発表して交流し、まとめようとして書くことを通して、自分の生活の中での「もの」との付き合い方を見直す。

本単元は、特に「聞くこと」「書くこと」に焦点が当てられている。テーマをごみ問題や人と「もの」とのかかわりに絞ることで、交流会では友だちの考えと自分の考えとの共通点や違いに気づき、さらに自分の考えを深めていくことをねらっている。自分の考えと照らし合わせながら友だちの考えを「聞くこと」で自己内対話をし、さらに、「書くこと」で自分の考えを確かめたり深めたりすることを大切にしている。これらのことを通して、確かな「聞く力、話す力、書く力」を身につけさせていくことができると考える。

(2)指導計画

第1次 学習の大まかな流れを知り、調査計画を立てる。

第2次 調査活動を行い、交流会を開く。

第3次 深まった自分の考えを書く。

(3)本時の指導

目標・聞き手を意識しながら、自分の考えを伝えることができる。

・自分の考えと照らし合わせながら、相手の考えを聞くことができる。

展開 1、一斉(6分)本時の学習について知る。

2度目の交流会、調査内容が異なること、本時の学習の流れを確認する。

2、グループ(20分)交流会をする。

発表2分、書く1分、交流3分×3セット

3、一斉(15分)感想を発表する。

全体の学習形態(車座)にする。

4、個人(4分)振り返りカードを書く。

事後反省会で

学習課題の提示、学習手順の明示など、十分な時間をかけていた。また、単元の流れを掲示し 見通しをもたせるなど、児童の学びを促す工夫がされていた。車座の形をとり、学習活動に応じた 座席配置になっていた。 話す、聞く、伝え返すという、コミュニケーション技能に関わる目標が明示され、学習後の振り返りでも同様の評価の視点を用意している。このような首尾一貫した計画は大切なこと。一斉形態の交流で、子どもたちの中で話し合いが進んでいた。教師の介入が最小限にとどまり、必要な視点の転換などに支援を限っていた。学級を課題解決で協同する集団として育て上げている成果が垣間見える。

3. 成果と課題

- ・進度のばらつきや活動の意欲を持続させるということから、学習の流れを提示し、見通しをもたせることはよかった。
- ・個人の活動の次にグループで確認し合ったり、考えを出し合ったりする場をもつことで、自分が気づかなかったことを見つけたり、自分の考えに自信をもったりできた。個人の考えをグループや全体で交流し、深まった考えをまとめて書く活動を通して、友だちの考えがあるから自分の考えが深まることに気づかせることができた。
- ・グループでまとめられた意見を発表するだけで、その後の意見交換が不十分で終わる場合が ある。学習課題に有効に働くグループ学習を今後も研究していく必要がある。

第2分科会 14:50~16:50

会 場 福祉会館 4階 401

助言者 犬山市立楽田小学校

有本 高尉

練馬区立第三小学校

荒木 正志

神戸大学

伊藤 篤

司会者 犬山市立城東小学校

水谷 茂

発表 ① 心をあわせ、力をあわせ、共に学ぶ子の育成 米調査隊「米作りから学ぼう 広げよう 深めよう」の授業 実践を通して

犬山市立羽黒小学校

髙木 泰子

② 分かる喜びを味わえる算数科学習

野田市立山崎小学校

船橋 高志

第2分科会 ①

心をあわせ、力をあわせ、共に学ぶ子の育成

米調査隊「米作りから学ぼう 広げよう 深めよう」の授業実践を通して

愛知県犬山市立羽黒小学校

髙木 泰子

はじめに

本校では、子どもたちの「自ら学ぶ力」を育む授業づくりをめざしている。総合的な学習の時間の学習においても、毎年、学年当初に子どもたちの実態や願いに合わせたテーマを設定することから始め、子どもたちが友達と協力しながら主体的に学習を進めることができる授業づくりに取り組んでいる。5年生では、社会科学習との関連を考え、米作り体験を含めた「米」に関するテーマを設け、米作りの体験活動を出発点として自分たちの課

題を設定し、それを追究してまとめ、発表するという活動を行っている。今年度は「学び合う」という視点から、特に、学習したことを伝え合う段階を重視したいと考え、発表の場をどのように設定するかについても重点的に考えながら学習を進めてきた。



I 授業の実際 ~総合的な学習の時間 (5年生) の取り組み~

1 子どもたちの姿

大山羽黒地区は、田畑が混在し、米作りや犬山市の特産物である桃作りが行われている。そのような地域で育った子どもたちであるが、地域の社会的事象に対する関心は決して高いとは言えず、学年当初は、身近に見ているはずの米作りに対する知識も乏しかった。しかし、多くの子どもたちは、社会科の学習がきっかけで羽黒の米作りについて関心を持ち始め、「米についてもっと調べてみたい」「自分たちも米作りをしてみたい」「羽黒の米作りについて知りたい」などという気持ちの高まりが見られるようになった。

2 単元「米調査隊」の設定 ※資料1参照

米作りに対する関心が高まった子どもたちに対して、総合的な学習の時間の単元名を「米調査隊」とし、大テーマは、「米作りから学ぼう 広げよう 深めよう」とした。

(1) 単元の目標

・ 米作りの体験を通して、農家の人の苦労や米に対する思いを理解するとともに、 主食である米や "食" そのものに関心を持ち、様々な角度から考えることができる。

(2) めざす子ども像

- ・ 米作りに積極的に関わって活動できる子
- ・ 米作りの体験から、自分なりの課題を見つけ、友達と協力しながら主体的に追 究し、まとめ、表現できる子

- ・ 調査や体験を通して、地域の人たちとの関わりを多く持ち、農家の人の苦労や 米に対する思いが分かり、自分たちの"食"について考える子
- 3 年間計画(46時間完了) ※資料1参照

米作り体験活動と大テーマから予想される子どもたちの活動をもとに年間計画を作成した。田植えを終えた頃から、課題設定、グループごとでの追究活動を行い、稲刈りや脱穀の終了後、まとめ、発表の活動を行っていくよう計画した。特に、まとめの発表については、子どもたち自らの学びを深める大切な交流の場面ととらえ、他の行事との兼ね合いから1月末に計画した。

4 活動経過 ※資料2参照

(1) 友達と話し合い、課題をはっきりさせよう の段階

「米作りから学ぼう」という大きなテーマを提示し、「米」に関することでやって みたいことや知りたいこと、調べてみたいことなどをまず個々に自由に書き出させ た。その後、学級全体で話し合いながら共通するものをグルーピングしていくと本 学級(27名)では、次のような5つのグループ、そして、学年全体では16のグル ープができた。共通課題を持つ友達ができ、自分の課題が明確になったことでどの 子も今後の追究活動に対する意欲を高め、早速、家庭でインターネットを活用して 調べたり、学校や市の図書館で関係のありそうな本を借りてきたりする子の姿が見 られた。

グループの課題 (本学級)	人数
米の秘密をさぐろう ~生長・種類・成分など~	7
米からできる物 大発見!	4
世界の米料理を調べよう	7
すずめよけで稲穂を守ろう	4
かかしで米を守ろう	5

- (2) 友達と協力しながら課題を追究しよう の段階
 - <「米からできる物 大発見!」グループ (4名)の様子 >
 - ① 何をどのように調べていくのか話し合う。
 - ・ 「酒」「せんべい」「酢」「餅」の四つを二つずつに分け、二人ずつで担当し て調べていくことにした。
 - ・ 図書資料,インターネットで調べる。その後,実際に作ってみたり,実際に見学・取材に行ったりすることはできないかを話し合い,教師の支援で酒については,学校の隣の酒造工場に出かけることにした。
 - ② 酒の担当者2名で見学・取材に出かける。他の2名は、学校で他の調べ活動を行う。



「お酒はお米と良質の水、こ: じ、酵母でつくるんだよ。」

③ 取材して分かったことを早速、グループの他の2名に教える。そして、「これをまとめて他のグループの子たちにもぜひ教えたい」と申し出る。

(3) 調べたことをまとめて発表しよう の段階

「調べたことをみんなに発表したい」「お世話になった方々に感謝の気持ちを表したい」という子どもたちの思いから、次に示したような学習計画を立て、学年全体で「米こめフェスティバル」を開催することにした。

表 1 発表会実施学習計画(12時間完了)

	学 習 内 容(形態)	時間
1	発表計画を立てる (グループ)	1
2	発表会の名前や発表会を成功させるために必要な係を考える(全体)	1
3	発表会に向けてグループ発表の準備をする (グループ)	3
4	各係に分かれて発表会の準備をする (グループ)	4
5	発表会「米こめフェスティバル」を開催する(全体,グループ,個)	3

① 発表計画を立てる (グループ)

どのグループも課題追究の段階から、自分たちが調べてきたことをどのような形で発表したいかについて話し合っていたので、ここでは、分かりやすく伝える発表、より注目してもらえる発表をするためには、どのようにしたらよいかをさらに検討する時間になった。その結果、B紙にまとめて説明する以外に、紙芝居にして発表する、せんべい試食コーナーを設ける、わらじ体験コーナーを作る、クイズ形式で発表する、ショートコント風で発表するなどのさまざまなアイディアが出され、具体的な活動にとりかかることにした。

② フェスティバル開催に向けて必要な係を考える(全体)

みんなで話し合い,発表会の名前を「米こめフェスティバル」と決めた後,子 どもたちは、「米こめフェスティバルを成功させよう」という共通テーマのもと, 必要な仕事を考えた上で話し合い,大きく3つの係(会場,運営,宣伝)を作る ことにした(表2)。

表2 米こめフェスティバルの仕事分担

仔	系	担	当	す	る	役	割	人
会	場	会場作り	(発表場所設置,	飾り付け,	照明,	放送,)	案内表示作り	33
運	営	司会進行,	発表に対する表	長彰の考案,	接待			13
宣	伝	校内校外用	月広告作り,広告	后配布, 案P	り状作り	・招待	状作りと発送	34

ここでも、自らの希望で係分担を行い、それぞれの係でフェスティバルを成功 させるにはどうしたらよいかを話し合い、各係内で仕事内容を考えながらさらに 分かれて活動することになった。

③ 発表会に向けてグループ発表の準備をする (グループ)

短時間で能率良く準備するには、グループで仕事の役割分担をいかに行うかが 大切となる。調べたことをB紙にまとめ、発表するグループでは、全体の構成を 考える, 文章を考える, 絵を描く, 文字を書く, 発表原稿を考えるなどの仕事を

分担をし、一人一人が自分の役割を果たしながら活動を進めてきた。また、学級内では、他のグループの進み具合をお互いに見ながら質問したり、発表方法でよいと思われることについては自分たちにも取り入れたりしながら、さらに工夫しようという姿が見られた。



④ 各係に分かれて発表会「米こめフェスティバル」の準備する(係のグループ) フェスティバルの企画から当日の運営まで、できる限り子どもたちのアイディ アを生かし、子どもたち自身の手で進められるよう支援してきた。当日は、これ までお世話になった方を招待して、運営係の司会進行により次のような日程で行 う予定でいる。

<米こめフェスティバル当日の日程>

第一部 「伝えよう!私たちの成果を」

10時40分~12時

第二部 「味わってほしい!ぼくらの感謝の気持ちを」

13時~14時30分

皿 考察

学年全体で実施した米作りとグループごとの課題追究活動、そして、フェスティバルに向けての準備とこれまで長期に渡る活動を行ってきたが、終始、子どもたちの主体的な姿が見られた。これらの活動により、子どもたちは、一人では困難なことも協力すればできることや、友達と話し合うことでよりよい解決方法が見つけられることを体験を通して学んできた。1月30日に実施する「米こめフェスティバル」では、子どもたちが他のグループの発表を聞き、米についての自らの学びをさらに深めることになることを期待している。

おわりに

現在、子どもたちは「米こめフェスティバル」の準備で忙しい毎日を送っている。「自分たちで考えた事を友達と一緒にどんどん調べてまとめていくことができるから総合の学習が一番好き」一そんな声をある子から聞いた。自分たちが設定した課題解決のために自分は何をしたらいいのかをきちんと理解して実践し、できたことを喜び、それを他の人に知らせるためにまとめ、発表するという一連の活動を、友達と一緒に考え、悩みながらも進めていく中で、充実感や学ぶ喜びを味わっている姿がそこにはある。複雑化している社会を子どもたちがたくましく生き抜くためには、このような活動の積み重ねから得られる総合的な力こそ必要なのではなかろうか。これからも子どもたちが友達とうまく関わり合いながら学び合いができる授業づくりに努めたい。

わかる喜びを味わえる算数科学習

千葉 野田市立山崎小学校 船橋 高志

1. はじめに

本校教育目標の「積極的に学習する子」を達成するには、児童の興味関心を高め、「わかる」喜びを体感し、一人一人が充実感を持てるようにすればよいと考えた。、児童が自分の良さを見つけ出し、その力を発揮し、より向上したいという願いを大切にすることにより、学校教育目標の「心豊かでたくましい子」「積極的に学習する子」の育成を図ろうと考えた。

3. 平成18年度の取り組み

(1) 研究の概要

本校は研究主題を昨年度に引き続き、「わかる喜びを味わえる算数科学習」とし、研究主題の中の「わかる喜び」を、次のように定義した。

「わかる喜び」は結果も含め、過程にかかわることが明らかになり、納得した喜びである。

※「できる喜び」はできたという結果が表れた事に対する喜びであり、「わかる喜び とは違う。

研究仮説は「単元の内容に即した指導法を工夫すれば、一人一人がわかる喜びを味わえる算数科学習が行えるだろう。」とした。授業研究を通して明確になった課題を基に、平成18年度は次の点を柱に取り組んだ。

① 「学び合い」を取り入れた学習を行う。

算数の学習の特性として、個別学習の要素が強いが、「教えたい」「教わりたい」「自分で考えたい」といった児童の様々な欲求に即した学習活動を取り入れ、他者との関わりを通してより理解を深めたり、学習への意欲を高めるようにしたい。そのために、どうような「学び合い」が適切か、どの場面や単元のどこで取り入れたらいいかを検証していく。

ア. 学び合いの場面

- ・自分の考えを比較・検討する場
- ・自分の考えが持てない、理解できない時の教え合いの場
 - ・グループで協力して、問題の解決を図る場
- イ. 学び合いの姿を検証し、まとめていく。

(山崎小の学び合い)

子どもたちが、お互いに関わることにより、理解を深めていくことができる、学習方法 の一つ

各学団の学び合う姿

	聞く	書く	話す
低学年	・話す人を見て聞く。	・役割や手順にしたがって考えをボード等に書ける	・人に聞こえる声の大き さで話す。
中学年	・相手の考えに反応しな がら聞く。	自分の考えを文や図などでわかりやすく書ける。	・自分の言葉で自分の考えを話す。
高学年	・話の内容と自分の考えを比べ、違いやおなじところがわかる。	自分の考えをわかりやすく書ける。	・みんなの顔を見てわか りやすく話すことがで きる。

- ウ. 単元計画の中の「学び合い」の反映
- ② 「ふり返りカード」を活用する。

昨年度から取り入れているが、目的をはっきりさせて、よりよいものを作成していく。

- ア. 児童に学習の見通しを持たせるための活用
- イ. 児童が自分の学習をふり返るための活用
- ウ. 教師が児童の学習への取り組みを知る資料としての活用
- ③ 学習の基礎・基本を大切にする。

目に見える学力はもちろん、算数だけでなく全ての教科を通して、小学生として必要な学習態度を身につけさせる。

ア. 基礎的学力の定着

- ・本校自作の「計算プリント」の活用
- ・野田市副読本「マイステップ」の活用
- ・基礎的学力を定着させるための単元計画の中での計画的な取り組み

イ. 学習する上での基本的約束の定着

- ・発表の仕方の定着 指名後の返事、発表する時のことばつかい
- ・友達の意見を聞く時の態度

(2)授業研究

①7月5日 第1回校内研究会

2年「いろいろな形」(T·T指導)

4年「角」 (少人数指導)

今回の2つの授業では、学び合いの姿がどうであったかが、大きなポイントになった。 そのため、「ふり返りカード」にも学び合いの姿を、児童が自己評価できるような項目 を組み入れた。課題として、少人数指導の場合の教師間の違いをどういい方向に持って いくべきか、また、児童に授業1時間だけでなく、単元を通して見通しを持たせること も考えてみてはどうかなどが出された。

②10月31日 第2回校内研究会

3年「わり算」(少人数指導)

5年「図形の面積」(T・T指導)

今回から、「ふり返りカード」の活用の一つとして、単元のはじめにガイダンスの時間を設け、そこで、実態調査のほかに単元の学習の計画を知らせ、毎時の学習問題を確認した。また、ノート指導の試みとして、見開きで1時間使用するようにし、毎時の学習問題を予めガイダンスの際に貼り付けるようにした。課題として子どもの自力解決をどうとらえていくかが話し合われた。

③12月5日 第3回校内研究会

1年「ひき算 (2)」(T・T指導)

6年「比」(少人数指導)

前回に引き続き、単元のはじめにガイダンスを設定し、ノート指導と合わせて単元の計画を知らせた。6年生では今年度から新たに加わった「選択」内容の授業を行った。 選択特有の授業のねらいがあり、それをどうしていくかが課題になった。また、あらためて教材研究の考え方や子どもたちの学びの意味についても話し合われた。

4. 今年度を終えて

今年度を通して、まず、子どもたちが友だちと共に学習していく姿が、あたりまえな光景になりつつあると感じる。また、算数だけでなく、いろいろな教科や領域に「学び合い」は存在していることもわかってきた。学び合いは、学習に対してだけではなく、学級経営にも密接に関係しており、欠かせないものであることも明らかになってきた。そして、学習の基本的な学ぶための姿(しっかり返事をする、大きな声で発表する、など)が重要であることも感じる。今年度は3つの柱について取り組んでみたが、それぞれのことが少しずつ明らかになってきた。来年度は、これらの課題をふまえ、研修を深めていきたい。

第3分科会 14:50~16:50

会 場 福祉会館 4階 402

助言者 犬山市立城東小学校 須賀 陽子

名張市立つつじ丘小学校 山本 美一

神戸学院大学 小石 寛文

司会者 犬山市立東小学校 市原 尊光

発表 ① 「ことばが心をつなぐ、未来を作る」

ー確かな読解力と豊かなコミュニケーション能力の育成をめざしてー 大山市立大山西小学校 長谷川紀美子

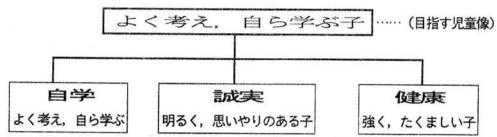
② 「やる気満々,のびのび表現」できる城山っ子をめざして ~学びの自立を育む授業の創造~ 小松市立今江小学校 林 貴子

研究主題「ことばが心をつなぐ、未来を作る」

---確かな読解力と豊かなコミュニケーション能力の育成をめざして---

愛知県犬山市立犬山西小学校 長谷川 紀美子

- 1 研究主題について (略)
- 2 研究の動機
- (1) 本校の教育目標から



「よく考え, 自ら学ぶ子」の実現のためには、自ら学ぶ態度を養い、基礎学力を確かに 身につけさせることが肝要である。国語力(ことばの力)を育てることは、学ぶこと全般 において基礎を支えるという意味で、きわめて重要な意味を持つ。

(2) 児童の実態から

本校の児童は概して明るく元気で、のびのびと学校生活を送っている。活発に活動し、 自己表現する様子を見受けるが、時と場所をわきまえた言動が取れているとは言い難い。 おしゃべり好きの児童は多いのだが、必要なときに的確な表現で自分の思いを伝えること のできる児童は少ない。

学習に向かう姿勢についても、落ち着きや集中力が十分ではない。集会等の際には目的をわきまえて静かにすることができない場面も多い。また、思いやりのない言動から友達とのトラブルも起こりがちである。国語力向上のための手だてを通して、児童の自己実現とあたたかい人間関係の構築を目指す。

(3) 社会的背景から

読解力が低下しているということが、国際的な学力調査の結果から指摘されている。活字離れが叫ばれてからは既に久しいが、携帯電話や IT 機器の発達もめざましく、「対話」も現代人の生活からは離れつつある。メール等によってつながる人間関係は、姿も見えず、実体のない不確かな「もろいもの」に思える。ことばの力を育てることによって、相手に投げかけることばの重さを知り、自分の気持ちを伝え合って、ともに学ぶ教室からあたたかい人間関係を作っていける子どもを育てていきたい。

3 研究の目標

(1) 目標

○国語力を総合的に養い、言語によるコミュニケーション能力を育てる。

- ○国語科と他教科・総合的な学習の時間との関連を図り、感動を大切にした教材の開発や 授業実践を進める。
 - (2) 研究の仮説
- ○国語の授業研究や各教科・様々な活動を通して、言語能力ならびにコミュニケーション 能力を高めることにより、教師が変わり、「ことばが心をつなぎ、未来を創る」明るい笑 顔の満ちた学校が実現するであろう。
 - (3) 研究の方法
- ①国語の授業を中心にして授業研究を進め、総合的に国語力向上を目指す。
- ②読書指導の充実。
- ③「伝え合う力」(コミュニケーション能力)の形成によって「思いやり」の心を育てる。
- ④相手の気持ちを思いやる態度を育てる生活指導を推進する。
- ⑤言語環境の整備を進める。
- (4) 研究の組織

<u>授業研究・ことばを豊かにする研究・読書をすすめる研究</u>を3つの柱として、研究を進めた。

3 授業研究

(1) 国語力

わたしたちの考える国語力とは、**日本語を媒介として読み取り、考え 音声や文字で豊か** に表現し、コミュニケーションする力 である。

- (2) 授業研究の方針
- (ア) 到達点を見通す

木		五	AVV	23		320		=				-		-	10	Parent
求とめをしよう。	どうぶつはかせになる。	②クイズを出し合って、	①どうぶつクイズを作る。	どうぶつクイズ大会をしよう。	ピーパーはかせになる。	②クイズを出し合って	①ピーバークイズを作る。	ピーバータイズを作ろう。	4 みずうみにすを作る。	③ ダムをつくる。	②およぎながら木をはこぶ。	①木をかじってたおす。	ビーバーのひみつを見つけよう	学しゅうを見適そう。	かえり	どうぶつクイズ大会をしよう。
たれないか			大きなのないと	かんそう				かんそう					かんそう		7.00	

児童が自分の学習を見通すこと ができるように,到達点を明確に した。

読解→表現→コミュニケーションの段階に沿って、学習の最終段階までのプロセスをしっかりと理解して学習を進めることができるようにしていくために、単元の構成(単元学習計画)を学習時に常掲して、1時間ごとに自己評価によって学習をふりかえり、次を見

<見通しを持って学習する>

通し. 単元の学習における自分の位置や次の活動をいつも確認できる状態で学習を進めた。

(イ) 書くことを重視して、それぞれの考えを構築することを目標とする

自分の意見を相手に効果的に伝えるためには、まず筋道を立てて自分の考えを述べることができなくてはならない。根拠を明らかにして、自信を持って考えを伝えるために、じ

っくりと書かせた。自分の調べたことや意見を伝え合って、成長する子どもたちの姿を見

たいと願って、ワークシートの様々な様式を工夫 してきた。

(ウ) 学びの協同体作り

「くらしの中の和と洋」チャレンジカードNo.2



<ルーブリックで評価し合う>

同じ課題で調べた児童,異なる課題で調べた児童の交流・学び合いを組織した。説明文の読解で話し合ったり,発表の練習場面で助言し合ったり,

発表を聞いて質問したり、 意見を述べたりする中

<書くことを重視する>

で友だちのよさを認め合い,お互いを高め合う姿を求めてきた。

以上が授業研究で追究してきた3つの柱である。

(3) 単元の構成と具体的な手だて

下のような構成で国語の単元の学習を進めた。

(目的をもって)文章を読み取る。 読み取ったことを生かして、表現活動をする。 (文章表現・音声表現) 作品発表や話し合い活動によって伝え合う。



1.読解段階

コミュニケーション

児童は表現活動を意識して、読解の学習を進める。児童が自分に照らして感想を持ちながら、また、時には批判的な立場から読み取っていけるように、読み取ったことを情報として選択して取り入れることができるように、書くことを重視してきた。文章を読む力をつけることは、考えて自分の思いを伝え合うコミュニケーション能力を高めることにつながる。実現を目指す<u>読解力</u>を下のように定義した。

読解力……活字を読み込む力・資料を読み取る力。受け身になりがちな情報社会で自分で考え、判断するための基礎となる力。

手だて1 学びを見通す単元学習計画

手だて2 音読重視

2表現段階

壁新聞、紙芝居、劇、スピーチ、新聞、絵本、座談会等様々な表現方法をとりながら、児童が言語

能力を伸長し、創造力を発揮していくことができるように、活動内容や手だてを工夫しながら支援してきた。表現力を下のように定義した。

表現力……取り入れた情報を再構成し、発信していく力。自分の考えや思いを効果的な方法を選んで表現する力。

手だて3 書くこと(リライト)を手がかりとして 手だて4 目的をもって読む

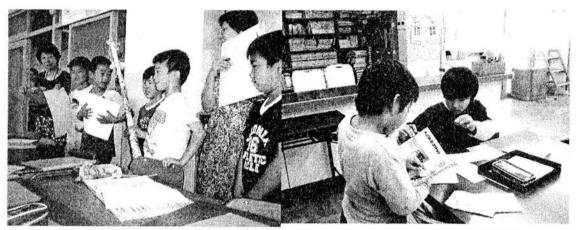
③コミュニケーション段階

形態や方法を工夫しながら、豊かなコミュニケーションを創造していく。<u>コミュニケー</u>ション能力を下のように定義した。

コミュニケーション能力……互いを認め合う豊かな心・思いやりに支えられる情報活用 能力・情報を言語化する能力、情報を発信し、受容し、活用する能力。

手だて5 学び合い、高め合う

手だて6 話し合いのマナーとルール



<発表の練習をする(アドバイスレマね)>



<たが駆けまじょう発表(1年生のみなさい聞いてね)> ればならない。

<どうぶつクイズを出し合う(coatalitations)>

(4) 他教科・総合的な学習と国語力

国語力は、国語科の授業だけで育てるものではない。国語以外の学習においても、国語力向上のための手だてを重ねてきた。他教科、総合的な学習や行事の折にも、様々な場面で国語力は育っていく。また、本研究でも、ことばを豊かにする研究・読書をすすめる研究を並行して進めてきている。学校生活・家庭や社会生活全体で子どもたちの国語力向上を支えていかなけ

4 成果と課題

授業研究においては単元学習計画の常掲によって、見通しを持った学習が進められるようになってきた。話を聞くことの大切さを強く自覚できてきた様子を見受ける。教師の同僚性も高まってきている。書く力はついてきた反面話し合いの場面では、まだ、自分の考えを出し合って、対話できるレベルには達していない。今後追究していきたい。

「やる気満々、のびのび表現」できる城山っ子をめざして ~学びの自立を育む授業の創造~

石川県小松市立今江小学校

林 貴子

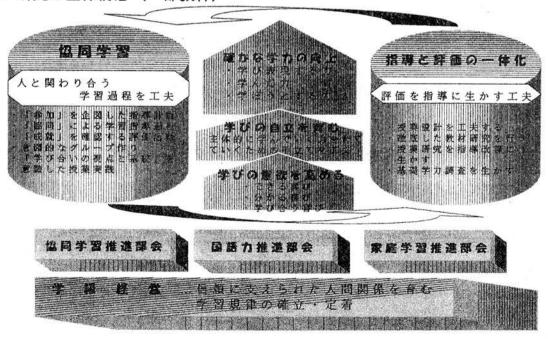
1. 主題設定の理由

本校では、平成15年度より「やる気満々、のびのび表現」を主題に掲げ、自ら課題に取り組み自分の思いを表現できる子に育てたいという願いから、「国語科」、「算数科」、「情報」、「道徳」、「総合的な学習の時間および生活科」の5分野で研究を進めてきた。平成16・17年度は、特に、算数科において「指導と評価の一体化を図る授業実践の工夫」をテーマとし、一人一人に「確かな学力」をつけることを目指して授業改善に取り組んできた。その結果、すべての児童が「できる・分かる」ようになるために、事前に個に応じた支援を準備し、事後には補充的な指導を行うなど、評価を次の指導に生かす学習過程を組み立てることが学習内容の定着につながることを再確認できた。また、協同学習に取り組んだことで、「自己の学習に責任を持つことの大切さ」を知り、「友だちと関わり、学び合う楽しさを感じる」児童が増え、学習への参加度が上がった。しかしながら、一方で以下のような課題も残っている。

- ・基礎・基本の力を生かし、新たな問題解決に取り組む力が十分ではない。
- ・基礎学力調査では学力がまだ十分についていないと見られる領域がある。
- ・人と積極的に関わり合いながら学びを深めていく力が十分ではない。
- ・自ら進んで意欲的に課題を追求し、解決していく力が育っていない。

そこで本年度は、これまでの取り組みを基盤としながら上記の課題を改善し、さらに主体的に学んでいく力を育てていくための手だてを工夫することで、研究主題に迫ろうと考え、副題を『学びの自立を育む授業の創造』とした。「学び」の手ごたえのある授業づくり、学習の流れを教師と児童が共有し、ねらいが明確な単元構想及び授業設計など、学びの自立を育むための授業改善にさらに取り組んでいきたいと考えた。

2. 研究の全体構想 (一部抜粋)



3. 研究の方法

<学びの自立を育むために>

児童が、生涯にわたって自ら学び続ける姿勢を育むためには、授業に主体的に取り組む経験を積んでいくことが大切である。そのためには、教師主導の「教え込む授業」から児童主体となって取り組む「学びの授業」への転換が必要である。そこで、次のように指導方法の工夫を試みた。

- ・「学び」の手ごたえある授業作り
- ・児童に学習を任せられる教材準備
- ・個別の学習・協同の学習を通して身につける学習態度の育成
- ・学びの自立を育む授業モデルとしての「単元見通し学習」を実施
- ① 指導と評価の一体化を図る授業実践の工夫
 - ア. 授業設計を工夫する
 - イ. 徹底した教材研究を行う
 - ウ. 授業研究を指導改善に生かす
 - エ. 基礎学力調査を生かす
- ② 協同学習の推進
 - ア. 協同学習の有効性を生かし、教科をはじめさまざまな教育活動の場に取り入れ学 習に対する主体性を高める
 - イ. グループづくりを工夫する
 - ウ. ねらいにあった活動形態を工夫する
 - エ. 「算数科における学び合いの視点と系統表」に基づき、系統立てて学び合う姿勢 を育む

4. 研究の成果と課題

- ◇ 関わり学び合う学習過程をより多く取り入れてきたことで、児童の中に励まし合い・助け合い・高まり合おうとする人間関係が生まれ、授業の基盤である安定した学級づくりができた。
- ◇ 「本時のねらい」、「評価規準」、「学習課題」の整合性を高めることで、子どもと教師がねらいを共有し、同じゴールを目指して質の高い授業を行えるようになってきた。
- ◇ 研究の進め方や授業研究の行い方にも協同学習の理念を生かし、学習会を計画的に設定したり少人数によるグループで研修を深めたりした結果、教師の授業改善に対する意識が向上した。
- ◇ 毎時間の学習過程において形成的評価を重視してきた結果、個のつまずきを量的・質的の二面から捉え、より個に応じた支援ができるようになってきた。
- ◆ 児童の自力解決に向かおうとする意欲を高め、「助け合い、励まし合い、高め合う」ことで得た成就感や満足感が持てるよう協同学習を取り入れた授業改善に工夫を凝らしていく。
- ◆ 子どもたちが見通しを持ち、主体的に取り組むことができるように教材研究を一層深め、学習課題の設定についてさらに工夫していく。
- ◆ 基礎的・基本的な内容の定着を図るために家庭との連携をさらに進め、個に応じた支援計画を立てて、学びの自立をめざしていく。

第4分科会 14:50~16:50

福祉会館 5階 501 会 場

助言者 犬山市立南部中学校

大矢 恵一

野田市教育委員会

大関 健道

南山大学

宇田 光

司会者 犬山市立南部中学校

河村 雅之

発表 ① 豊かで潤いのある学びの追求

犬山市立城東中学校 岩田 和敬

② 実践から見えてきたもの ~豊かな学び合いをめざして~

野田市立南部中学校

梅 健

豊かで潤いのある学びの追究

愛知県犬山市立城東中学校 岩田 和敬

1 城東中学校のめざす「学びの学校づくり」

豊かで、潤いのある学びの追究 ・・豊かで潤いのある人間関係が、学びの力や意欲の源・・

生徒同士や生徒と教師の「豊かで潤いのある」人間関係が、学びの力や意欲の 基礎と考え、積極的に人間関係能力を育成することを通して、教育力の向上や学 校改善に努める。

(1)「かかわり合い」、「支え合い」、「認め合い」、「高め合う」学級環境・学習環境の育成 ・安心感と帰属意識が活動効果・学習効果を高める。

* 学級やグループで、誰からも非難や無視をされず、失敗をしても受け入れて もらえるという安心感。

学級やグループで自分は、周りにいる人と「つながっている」、周りの人から「支えられている」、周りの人の「役に立っている」、と感じる帰属意識。つまり、生徒が脅威を感じることなく、周りから自分の考えを受け入れられたり、支持されたり、建設的な感想や足りない点を教えてもらえたりするような環境づくりに努めている。

(2)質の高い「学級集団」、「学習集団」づくり

・集団づくりの視点

*人間関係・信頼関係の育成:心が通い合う人間関係・信頼関係は、集団生活を

生き生きと送るための基本。

*ルール・マナーの定着 : 安心して心地よく生活し、学習できる環境の基本

には、ルールやマナーの定着が必要。

*具体的な目標の設定 : 目標を具体的に設定し、個々がそれを十分理解す

ることで、集団がその目標に向かってまとまるこ

とができる。

*役割の明確化 : 生徒個々の役割を明確化することで、活動・学習

の動機付けができ、学級やグループに貢献し、共 に活動・学習し、自分の力を発揮できる機会がで

きる。また、個人の責任感を養うことができる。

協同学習の定義(日本協同教育学会の定義から)

- 1 互恵的相互依存関係が成立している
- 2 学習目標の達成とグループの成功に関する学習者自身の責任が明確になっている
- 3 促進的相互交流の機会が保障され、実際に相互交流が活発に行われている
- 4 「協同」の体験的理解が促進されている

(3) 城東中学校集団育成のモデル

君羊

他との関わりを持とうとしない集団

*集団づくりの視点

*集団づくりの方法

1 人間関係の育成

体験的な学習(特に、グループアプローチの導入)

2 ルール・マナーの定着 1 グループワークトレーニング (GWT)

3 具体的な目標の設定

2 構成的グループエンカウンター (SGE)

4 役割の明確化

3 特別活動(生徒会活動)

4 部活動

*集団状態の把握・・・QU(楽しい学校生活を送るためのアンケート)

お互いを認め合うことができる集団 (信頼関係ができている集団)

生活集団

*授業や様々な活動で活用できる指導・学習形態

- 1 生徒同士がかかわる活動
- 2 班・グループ活動
- 3 話し合い・ディスカッション活動
 - 4 教え合う活動
 - 5 聴き合う活動
 - 6 役割行動の多様化(いろいろな役割を経験する)
- *学びを深めるための授業や活動場面での学習モデル

個人の思考:個人でじっくり考える場面

班・グループ、クラス全体の思考

- ・個人の考えの発表
- ・他の考えの吸収
- ・比較・吟味
- ・新しい、質の高い考え・アイデアの創造

個人の再思考:個人で再度考える場面

学習集団

「学び合い」・「高め合い」ができる集団

2 実践事例

- (1) 上級生が下級生を指導する活動(「橋渡し集会」に向けての活動)を通して 卒業式前に3年生と、1・2年生との「橋渡し集会」(本年度は2月26日) を毎年実施している。そこで、1・2年生は「よさこいソーラン」を踊るのが伝 統になっている。 その踊りの振り付けを2年生が、1年生に指導している。 この活動には、「集団づくり」の4つの視点が組み込まれている。
 - ア 体育大会や合唱発表会で培った人間関係・信頼関係(注:参照)をベースに して
 - イ 活動の時間を厳守したり、指導する・指導してもらう時のマナーやスキルを 意識たりすることを通して、ルールやマナーを自然と身につけ
 - ウ 『「橋渡し集会」で3年生を気持ちよく送りだし、感謝の気持ちを示す』ことが目標であることを全員で理解して、
 - エ 2年生が1年生一人一人を担当して踊りの振り付けを教えるという役割を 担う

という4つのねらいが自然と(意図的に)身に付くように仕掛けがしてある。 教師は、裏方に徹して、生徒を全面に押し出すようにする。活動を通して、 集団の質が高まれば、学習目標(振り付けを教える)の質も高まる。また、 達成感や充実感、責任感、自己効力感も増し、さらに集団の質も高まる。

- 注)本校では、体育大会の応援や競遊種目に縦割りを活用している。その練習には、3年生が中心になり、企画や練習で1・2年生の指導をする。また、合唱発表会では、体育大会時の縦割りクラスを生かして、合唱交流を行い、上級生が下級生の合唱のアドバイスを行っている。
- (2) グループワークトレーニング (GWT) の活用
 - ・学級集団・学習集団づくりための方法として、グループ・アプローチの一つであるグループワークトレーニング (ラボラトリーメソッドによる体験学習) の活用している。
 - *学級集団づくりでは、特に、人間関係づくり・人間関係能力の育成。 学習集団づくりでは、特に、力の合わせ方・協力の仕方、役割の意識の育成。
- (3) 道徳の授業を通して
 - ・現在の道徳授業の4つの主な指導方法
 - ア 価値の内面化方式
 - イ モラルジレンマ授業方式
 - ウ 値の授業方式
 - エ 価値の明確化方式

- ・「価値の明確化方式」の道徳授業とは (価値の明確化方式の道徳授業で身につけさせたい力)
 - ア 「自分づくり」の力
 - *「自分の生き方を自分で選び取る力」「自分の人生を自分で創り上げる力」 価値が多様化した今の世の中、もっと多様化するであろうこれからの世 の中では、昔と比べて、「どのように生きるべきか」を社会からは提示し てくれなくなってしまった。従って、多様な選択肢の中から「自分の生き 方」を自分で選び、創り上げていく力を育てる必要がでてきている。
- イ 自分で問題を発見し解決する力
 - *「問題発見」と「問題解決」の力

今の社会が直面している多くの問題、例えば、環境問題、人権問題、生命問題は、一定の答えのない、多様な考えが衝突する問題である。従って、子どもたちは、これらの問題については「自分で」考え「自分なりの」答えを出していかなければならない。そのための力。

・「価値の明確化方式」の授業展開

*基本的な授業の流れ(「自分づくり」の力を培うための授業展開の方法)

導入	写真、新聞記事、教師の自己開示による思考の活性化
	「個人学習 · · · 個人でじっくり「価値シート」に取り組む。 (自分を見つめる時間)
展開	グリレープで・・個人学習での自分の考えをもとにしながら、 耳恵 き あし、活動 グループで発表する。他のメンバーの考え
	を十分聞く。他の意見を認め合うことに重
	点を置く。自分と、他のメンバーの考えの 違いに注目する。
	*発表タイム・・他のメンバーの意見を聴く。
	*質問タイム・・否定的な質問ではなく、
	他のメンバーの考えでよ
	くわからなかったところ
	学級全体での・・グループ内での聴きあい活動で出た意
	見を全体で聴きあったり、焦点を絞っ
	た話し合いを聴きあったりすることで
	新しい考えや選択枝に気づき、自分の 考えを深めていく。
	(15 人学習)・・・・・もう一度自分の選択した価値とその選択 理由とを改めて点検し直す。
終末	【個人学習 ・・・・・感想用紙に気づいたこと、感じたことを書きながら、主体的な価値選択を行う。

実践から見えてきたもの

-豊かな学び合いをめざして-

千葉県野田市立南部中学校 梅 建

1.本校の研究主題

たしかな学力を身につけ、主体的に学ぶ生徒の育成 〜協同学習をとおして〜

- 2. 「『学び合い』って何だ?
 - ①「学び合い(協同学習)」の定義って何?
 - ②本当に効果があるのか?
 - ③本校で出来るの?

3.授業(生徒の見方)が変わった

- ①「生徒のつぶやきを拾って組み立てる授業」が容易に実践できる。
- ②できない生徒も豊かな発想をもっている
- ③教師と生徒の人間関係が豊になる
- ④「子どもに任せる」発想
- 4.生徒はこう変わった
 - ①先生に質問に来ない
 - ②豊かな「つぶやき」

③多くの生徒が主役に

- 5.実践から明らかになったこと
 - ①全教科で実践する意味
 - ②グループ編成、多様なメンバーなど「しかけ」の必要性
 - ③教師の役割が明確になった

6.今後の課題

- ①生徒の自己評価と教師の自己評価 生徒の、意義のある「振り返り」はどうあるべきか。 教師の自己評価、生徒評価を変える必要がある。
- ②教師の「問いかけ」の大切さ 「問いかけ」の研修を行いたい。

7.参考文献

- ①塩田芳久「授業活性化の『バズ学習』入門」(1989) 明治図書
- ②塩田芳久「バズ学習のめざす教育 塩田芳久講演集」(2000) 揺籃社
- ③ジェニ・ウィルソン&レスリー・ウィング・ジャン 吉田新一郎訳「『考える力』は こうしてつける」(2004) 新評論
- ④ジェイコブス、G「先生のためのアイディアブック」(2005) ナカニシヤ出版
- ⑤ジョンソン,D.W「学習の輪」(1998) 二弊社
- ⑥杉江修治「子どもの学びを育てる少人数授業」(2003) 明治図書
- ⑦望月和三郎「心とこころの格闘技」(2002) 一粒社

第5分科会 14:50~16:50

福祉会館 5階 502 会 場

助言者 犬山市立犬山中学校

奥村 英俊

土岐市立泉中学校

小栗 祥吾

名城大学

伊藤 康児

司会者 犬山市立東部中学校

小川 仁史

発表① "学び合い"を生かす総合的な学習

~東中グリーンマップ作りを通して~

犬山市立東部中学校

鍵野 英夫

『確かな学力を育む指導の研究』 2

~学ぶ意欲を高める授業をめざして~

小松市立丸内中学校 本間 真弓

"学び合い"を活かす総合的な学習 ~東中グリーンマップ作りを通して~

犬山市立東部中学校 鍵 野 英 夫

1 はじめに

"里の学び"が本校の総合的な学習のテーマである。第1学年は校区内の尾張冨士で毎年8月に行われる市の重要無形文化財である石上げ祭りの学習と参加、東中グリーンマップ作り、第2学年は地域の企業を中心にした職場体験活動と1年次からの学習を発展させた琵琶湖総合学習、第3学年は修学旅行での首都圏総合学習と学年のテーマとしている健康と福祉に関わる福祉体験活動やボランティア活動を中心に地域に根ざした幅広い交流体験学習を進めている。

2 総合的な学習でのねらい

(1)教科との関連

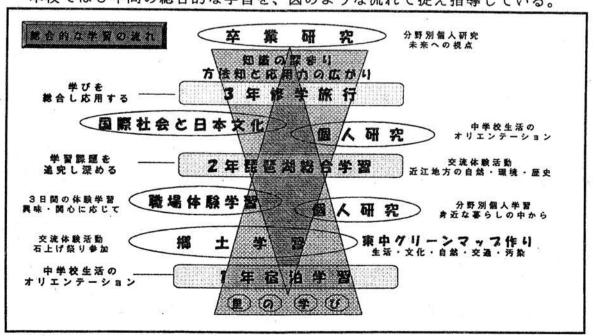
グリーンマップ作りとは、その地域の自然・文化・環境などを、調査・確認して地図にまとめていく取り組みである。1年総合では、校区の自然・文化・環境などを調査・確認して東中グリーンマップ作りを行っている。社会科での「羽黒地区の歴史と文化の調査」や国語科・社会科での「石上げ祭りの伝承と歴史」の学習、理科では、「校内植物図鑑」作りなど、教科での学習が更に深まり、発展していくように計画に入れ教科と総合の学習を絶えずフィードバックさせながらの実践を目指している。

(2) 行事・特別活動との関連

第1学年「郷土学習」の発展として、第2学年では、宿泊行事「琵琶湖総合学習」において、琵琶湖周辺の交通・産業・文化などについて、環境問題を中心に数名の班に分かれて、調査・体験活動を実施している。

(3) 学習系統図

本校では3年間の総合的な学習を、図のような流れで捉え指導している。



(4) 各学年のテーマ

地域に根ざした幅広い交流体験学習を行うために、学校のテーマ『里の学び』 から各学年では次のようなテーマを設定した。

① 1年生『暮らしと郷土』

身近な地域の郷土を知ることを第一と考え、石上げ祭り・東中グリーンマップ 作りにつなげている。

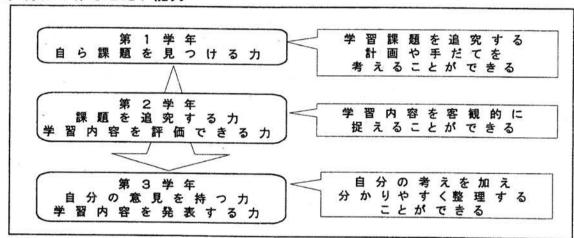
② 2年生『暮らしと環境』

郷土から環境をテーマとして、春の職場体験学習と秋の琵琶湖総合学習につなげている。

③ 3年生『暮らしと健康・福祉』

健康・福祉をテーマとして、国際理解を含めた首都圏総合学習と福祉・実践活動の体験(ボランティア活動等)につなげている。

(5) 身につけさせたい能力



(6)年間計画

年間実践記録を作成し、計画の見直しを年度末に行い、次年度の計画の手直しを確 実にやっていくことが大切である。

-	- B. 440	111		計 画	
_	记号種類 評価額。	_			G=ガイダンス的な内容
	TIMEX	- T	子童の歌子の名詞で、意味・意味は、「ものの見	方・考え方の広がり【日】 まとめと発表の能力【(こ】 コミュニケーションの能力[0]
学期	月	時期	第1学年の学習 【 】内は時数	第2学年の学習 【 】内は特数	第3学年の学習 【 】内は特数
201		-	学 習 類 材	学 習 顯 材	学 習 題 材
- 9		前	前期の取り組みの評価[1]	AB琵琶灣総合学習の準備【1】	C卒業研究の発表準備[2]
- 8	10月	Ф	A郷土学習(Gマップガイダンス)【1】	AB琵琶灣総合学習の準備[1]	C卒業研究の発表準備[2]
		後	A郷土学習(方法の検討と計画)[2]	AB琵琶湖総合学習の準備[2]	C卒業研究の発表準備[3]
彼		*****	A郷土学習(Gマップフィールドワーク)【2】	A日琵琶湖総合学習の準備[2]	C卒業研究発表会(学年)[3]
	11月	中	A郷土学習(Gマップフィールドワーク)【2】	AB琵琶湖総合学習[6]	C卒業研究 まとめと評価[3]
XII		推	A郷土学習(フィールドワークのまとめ)【2】	A日近琵琶湖学習のまとめ[2]	A福祉談話と体験(障害と高齢者介護)[2]
	12月	萷	A脚土学習(Gマッブ製作)【1】	AC琵琶湖総合学習の全体評価[1]	A福祉問題(福祉の現状と今後)[2]
		中	A郷土学習(Gマップ製作)【1】	AC環境学習(個人研究のまとめ)[1]	A健康講話〈受験と健康〉とまとめ【2】
북	林み				
		前	A郷土学習(Gマップ製作)【1】	AC環境学習(発表準備)[1]	A健康実践(食生活・運動・学習と休義)[2]
	1月	Ф	C 樹土学留(製作と発表準備) [2]	AC環境学習(発表準備)[1]	A健康実践(食生活・運動・学習と休養)[2]
後		推	C郷土学習(製作と発表準備)[1]	AC環境学習(発表準備)[1]	A健康講話(性感染症)[2]
		前	C舞土学習(発表準備)[1]	AC環境学習(発表準備)[1]	A卒業事仕活動の検討[2]
朔	2月	中	C脚土学習(発表会)[2]	AC全体発表会[2]	学年集会[2]
		推	C舞士学習の評価【1】	AC環境学習の評価【1】	総合のまとめと評価[2]
	3月	前	総合のまとめと自己評価[1]	総合のまとめと自己評価[1]	

- 3 総合的な学習における学び合い ~東中グリーンマップ作りを例に~ 東中グリーンマップ作りでは、取り組みの中でお互いがかかわりを持てるように 次の点に留意した。
 - ① 実地調査の地域が、身近であること。
 - ② 少人数での実施ができるようなテーマの設定が可能であること。
 - ③ 調査のための意見交換・実地調査・調査内容の整理とまとめ・発表が可能 であること。

以上の点を留意させることから、テーマの選択・調査内容の確認・調査方法・調 査内容のまとめ方など、多くの面で話し合い、考えることが可能となる。 1 年生に とって、「気づき・考え・行動する」総合的な学習に適した題材となると考えた。

4 実践例 ~東中グリーンマップ作りを通して~

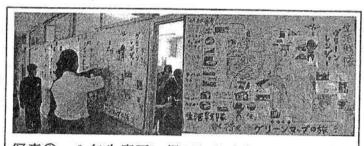
(1) 身近な資料の利用

①興味づけ

東中グリーンマップ作りをスタートさせる前に、昨年度の生徒達が作成したグ リーンマップを廊下に掲示し、自由に見られるようにした。(写真①) グリーン マップとは何かを自然に捉えさせ、実際の活動に入る前に面白そうだなという感 触を持たせることができた。

②資料として

東中グリーンマップは、テ ーマごとに、生活(工場・店) ・文化(文化福祉施設)。環 境(交通・汚染)・自然(動 物・植物)に分けて作成され



ており、自分たちが普段生活 | 写真① 1年生廊下に掲示した昨年度のクリーンマッフ

している地域でも知らなかったことを発見し、「この川には、こんな魚がいたん だ」「あの石(碑)に書いてあった内容は、こんな意味だったのか」と話題にす るよい資料とすることができた。

(2) 学び合いの実際

本年度、文化・自然・生活 ・交通・汚染の5つのテーマ で東中グリーンマップ作りを 行った。生徒の興味・関心に より各テーマに分かれ、3~ 4人の少人数で調査方法や行 | 写真② 少人数の話し合い



動計画を地図上に記入し(写真②)自分たちの実地調査の課題を明確にするため に話し合った。3日間の実地調査で地域をどう調べていくのか、1回目から3回 目までの地域割を検討した。また、調べるポイントは何か、意見を出し合い、自 分たちが調査するべきことを明確にすることができた。自然がテーマのグループ では、隣同士のグループで「川を中心に調べる」「林や田圃・畑を調べる」など

お互いの実地調査の分担をして、限られた時間の中で効率よく調査をすることを考える班も出てきた。事前に掲示してあった昨年の資料を見て、個で温めていた考えを班内で「川に生きている魚や生物を具体的に調べたい」など実地調査で調べたいことを説明する生徒も多くいた。班内では、お互いの考えを出し合い、全員が納得しての調査活動が可能となった。

(3) 実地調査

11 月の3日間を使って、実 地調査を行った。用水や小川 の調査では、中を真剣にのぞ き込む姿や魚の様子を観察 し、メモする姿が見られた。 また、地域の神社や石碑の立



写真③ 実地調査の様子

っているところでは、普段は気にすることもない碑文を写真に撮ったり、相談をして、その内容をメモするなど協力して実地調査を進めることができた。実地調査後には、テーマ別に別れ情報交換をし、次の調査への計画の見直しや準備を行った。1回目より、2回目、そして、3回目と、調査内容も明確になり見落としやミスもなくなり、お互いのかかわりも増え、有益な実地調査を行うことができた。

(4) 東中グリーンマップの作成

調査内容を報告する会をテーマ別の教室で実施した。報告後には、重なりを省き、それぞれの調査内容をどう活かしてまとめるかを話し合った。「テーマに合った資料で



写真④ グリーンマップ作りの様子

あるか」、「グリーンマップに載せることができるか」、お互いの意見交換をする中で、調査内容を整理することができた。さらに、実際の作成では、お互いがかかわりながら絵を描く者、コメントを書く者等の役割を分担し、わかりやすくまとめることができた。

(5) 発表

東中グリーンマップ の完成後、学年で発表 会を実施した。







写真⑤ 学年発表会の様子

5 おわりに

どの子も、興味・関心を持って取り組むため、学習に参加しているという実感を持ちやすい。大切なことは、「実のある話し合いができること」「体験活動が目的にあっていること」「グループ内でお互いにかかわりあった取り組みになっていること」である。

今後もかかわりを深め、高め合える学習になる手だてを考えたい。

『確かな学力を育む指導の研究』

~学ぶ意欲を高める授業をめざして~

本間 真弓 (石川県小松市立丸内中学校)

1. 主題設定の理由と研究の全体構想

(1) 主題設定の理由

確かな学力を育むためには「課題に向かう力」すなわち学ぶ意欲を高めることが 大切なのではないかと考え、思考力、表現力など教科のつけるべき力を大事にしな がら学ぶ意欲に焦点をあて、家庭学習に対しても主体的に取り組める支援を工夫し たいと考えた。

(2) 研究の仮説

授業理解と意欲の相乗効果をねらい次の3つの仮説を設定した。

- ①生徒に単元の学習の見通しを持たせ、ねらいが明確な授業を行っていけば、生徒は意 欲的に授業に参加し、思考力、表現力を含めて学習の理解も高まるだろう。
- ②授業の中に主体的に学習に取り組む場面や、協同して学習する場面をつくり、自分や仲間の成長を感じる評価を工夫すれば、生徒の学習意欲は高まるだろう。
- ③家庭学習(予習・復習)のあり方を工夫すれば、生徒は授業に意欲的に取り組むだろう。

(3) 研究の全体構想

3つの仮説から研究内容を「単元を見通した学習と毎時間の目標を明確に示す工夫」「協同学習を取り入れた授業の工夫、評価の工夫」「家庭学習の指導の工夫」とし、8つの手だて(2.研究の内容と実践にある①~⑧)を考えた。 またこれらの実践をさえるものとして

- ・基礎学力調査を効果的に活用する
- ・授業アンケートや学習意識調査を生かし、生徒の実態を把握する
- ・他教科を交えた授業研究を行い、授業の改善に生かす ことに取り組んだ。

2. 研究の内容と実践

- (1) 単元を見通した学習と毎時間の目標を明確に示す工夫
 - ①単元見通し学習の工夫・・・「学びくん」(シラバス的なもの)の活用と提示、 問題形式
 - ②課題提示の仕方の工夫・・・黒板、ワークシート
 - ③教材研究の充実・・・・・「学びくん」の作成、生徒の実態把握、授業研究

(2) 協同学習を取り入れた授業の工夫・評価の工夫

- ④協同学習を取り入れた授業の工夫
 - ・単元を見通して、主体的に学習する場や学び合いの場を設定する。
 - ・協同して学び合う価値のある課題づくりをする。
 - ・個人思考を大切にし、自分の学習に責任を持たせる。
 - ・生徒に互いに学び高め合うという意識を持たせていく。
 - ・グループ、ペア、一斉など学習内容に応じて活動形態を工夫する。
- ⑤評価方法の工夫・・・・自己評価、教師の評価、相互評価、評価のポートフォリオ
- ⑥より良い学習集団の形成

(3) 家庭学習の指導の工夫

- ⑦「学びくん」の活用
- ⑧自学ノートの工夫

(4) 実践をささえるもの

- ・授業研究会・・他教科との交流、授業参観用紙の活用による授業改善
- ・基礎学力調査の分析・・生徒の力を分析し、自分の授業を見直す機会とする
- ・授業アンケートや学習意識調査の実施・・生徒の意識の形成的変化や、授業の改善 善の様子をつかむ

3. 研究の成果と課題

(1) 研究の成果

生徒の変容・・①基礎学力調査から ②授業アンケートから ③各教科の研究実践から ④学年の取り組みから

教師の変容

- ・「学びくん」作成による教材研究の充実、指導計画の工夫
- ・協同の意識を持って生徒を教えていこうとする姿勢
- ・客観的資料から自分の指導を振り返る
- ・生徒と共有した「ねらい」を常に意識して授業を進める

(2) 今後の課題

- ・「学びくん」の活用や、効果的な単元見通しの方法をさらに工夫していく。
- ・協同学習の基盤となる学習集団作り、課題の作り方、評価の工夫に努める。
- ・学習意識調査、授業アンケート結果の数値目標をどう設定していくか、検討する。
- ・「学びくん」をより家庭学習に利用できるように改善する。



第38回全国協同学習研究大会 学習指導案集 「学び合いの授業が目指すものは!」

平成 19 年 2 月 16 日(金) 犬山市立犬山北小学校



現職教育テーマ「自らの学びを創造する子どもの育成」 〜伝え会う深め会う力を伸ばす指導の工夫〜の指導目標

	到達度目標(目指す学びの姿)	実現する具体的な場面
	課題を理解し、自分の考えを持つことができる。	・分からないことを意思表示できる
低	・自分の意見を伝えることができる。	・「話してもいいですか」などの声をかけ、きちんと伝えようとすることができる
学		・みんなの方を向いて話したり、みんなに聞こえる声の大きさで話すことができる・「どうですか」と聞くことができる
年	・友だちの意見を聞くことができる。・誰とでもグループ学習ができる。・簡単な話し合いを進めることができる。・グループの考えをまとめて発表することができる。	・ハンドサインやうなずきで反応することができる・男女を気にしたり人によって態度を変えたりしない・マニュアルに従って話し合いが進められる・ホワイトボードに考えをまとめて、役割分担をして説明できる
	・力を合わせて、みんなができるようにす ることができる。	・グループで順番に回して答え合わせができる ・どうして間違えたのか話し合って解決することができる ・友だちの手順や操作が合っているか確認し合って、正しく身に つけることができる。 ・自分の学習を振り返ることができる
	・課題を理解し、自分の考えを持つことができる。	・話す人の方に体を向けて話を聞く。
ф		・たくさんの人に聞こえるような方向を向いて自分の意見をわか りやすく話す。
	・自分の考えと比べながら友だちの意見を 聞くことができる。	・みんなに聞こえるような声の大きさで話す。・友達の意見に対して「どうですか。」と意見を求めたり、「〇〇さんは私の意見(考え)をどう思いますか。」と児童が指名して
	 ・互いを認め合いながら、積極的にグループ活動に関わることができる。 ・友だちの意見を受けて、自分の考えを分かりやすく話すことができる。 ・問題解決に向けて、分からないことがあれば、友だちに聞いて分かろうとしたり、困っている友だちにアドバイスをすることができる。 	つないでいく活動を行うことができる。 ・友達の意見を受けて「いいと思います」「付け足しがあります」 「私は、ここが違います」など、自分の意見を言うことができる。 ・ホワイトボードに考えをまとめて、役割分担して説明できる。 ・グループで順番に回して答え合わせができる。 ・どうして間違えたのか話し合って解決することができる。 ・友達の手順や操作が合っているか確認し合って、正しく身につけることができる。 ・自分の学習や友だちのよかったところを振り返ることができる。
高	自分の考えを分かりやすく話すことができる。	・話す人の方に体を向けて話を聞く。 ・たくさんの人に聞こえるような方向を向いて自分の意見をわか りやすく話す。
	自分の考えと比べながら友だちの意見を聞くことができる。	・友達の意見に対して「どうですか。」と意見を求めたり、「〇〇 さんは私の意見 (考え) をどう思いますか。」と児童が指名して
	 互いを認め合いながら、積極的にグループ活動に関わることができる。 友だちの意見を受けて、自分の考えを分かりやすく話すことができる。 問題解決に向けて、分からないことがあれば、友だちに聞いて分かろうとしたり、困っている友だちにアドバイスをするこ 	つないでいく活動を行うことができる。 友達の意見を受けて「いいと思います」「付け足しがあります」「私は、ここが違います」など、自分の意見を言うことができる。 友達の手順や操作が合っているか確認し合って、正しく身につけることができる。 各自の考えを出し合って、考えを深めあうことができる。 自分の学習や学び合いを振り返ることができる。
	とができる。 ・全体の場で話し合いを深めることができ る。	
ょ	自分の考えを伝えようとする。友だちの意見を聞こうとする。	・困ったときは態度で示そうとする。・相手が分かるように話す。・話を聞いてうなずいて答える。・友だちの話を聞いて、順番を守って話す。

公 開 授 業 一 覧 表 第3時限 (10:50~11:35)

学年・組	授業者	場所	教科	単 元 名	1°ージ*
1年2組	大倉美喜子 近藤 真美	1の2教室 1年ワーク	算数	おおいほう すくないほう	1 ~ 3
2年1組	長屋 富子 大澤 宏美	2の1教室 2年ワーク	算数	ちがいをみて	4 ~ 5
2年4組	松山 昌司	2の4教室	生活	あしたへ ジャンプ	6~7
3年1組	奥村有希代	3の1教室	国語	サーカスのライオン	8~9
4年2組	小松 敏朗 加藤 順子	4の2教室 4年ワーク	算数	はしたの大きさの べつの表し方を考えよう	10 ~ 11
4年3組	平松 理穂	4の3教室	国語	ごんぎつね	12 ~ 13
5年2組	奥村 久子 有賀ますみ	5の2教室	算数	くらべ方を考えよう	14 ~ 15
5年3組	滝 茂己	5の3教室	社会	わたしたちの生活と環境	16 ~ 17
6年2組	間瀬千鶴子 氷室 朋子	6の2教室	算数	6年のまとめ	18 ~ 19
6年3組	松浦 圭子	6の3教室	国語	海のいのち	20 ~ 21

第4時限 (11:45~12:30)

学年・組	授業者	場所	教科	単 元 名	1°-9"
1年1組	浅輪 郁代	1の1教室	国語	じゃんけん	22 ~ 24
1年3組	大島奈保美	1の3教室	国語	たぬきの糸車	25 ~ 26
2年2組	荒木 陽子	2の2教室	国語	主語と述語に気をつけよう	27 ~ 29
2年3組	村瀬 秀子 大澤 宏美	2の3教室 2年ワーク	算数	長い長さをはかろう	30 ~ 31
3年2組	吉田 清美	3の2教室	国語	サーカスのライオン	32 ~ 33
3年3組	石田 洋子	3の3教室	国語	サーカスのライオン	34 ~ 36
4年1組	木島美保子 小倉 正愛	体 育 館	体育	跳び箱運動	37 ~ 39
5年1組	若原 公代	5の1教室	家庭	くふうしよう!かしこい生活	40 ~ 42
6年1組	橋本 敦史	6の1教室	社会	日本と関係の深い国々	43 ~ 44
仲よし1	高木真由美 NPO	仲よし1 教室	生活単元	すみえきょうしつ	45 ~ 47
仲よし2	佐光美智子	仲よし2教室	算数	スーパーで買い物をしよう	48 ~ 49

第3時限

第1学年2組 算数科学習指導案

第3時限 1の2教室 指導者 大倉美喜子 1年ワーク 指導者 近藤 真美

- 1 単 元 おおいほう すくないほう
- 2 単元目標
 - 日常の生活場面での求小、求大の問題に興味や関心を持ち、進んで解こうとする。
 - 小さい方の数量と差を知って大きい方の数量を求める問題や、大きい方の数量と差を知って小さい方の数量を求める問題を、図を使ったり数図ブロックを使ったりして考え、問題を解決するための見通しを持ち、解くことができる。
 - 求小、求大のたし算やひき算の意味について理解することができる。
- 3 单元構想(2時間完了)

〈学 習 計 画〉

〈学び合いの場面〉

○日常の生活場面での求大(大きい方を求める)の問題を考える。

(関心・意欲・態度)

○たし算の意味(使い方)について筋道だててグループで話し合う。

(数学的な考え方)

○求大の問題をグループや自分で考えて解くことができるようにする。

(表現・処理)

○求大のたし算の意味について理解する。

(知識・理解) ①

・具体物の操作によって、自分の考え を持ち、グループで話し合って全体に 伝え、みんなで考えを深める。

・自分が考えた説明を分かってもらえるか、友達に聞いてもらって上手に言えるようにする。

○日常の生活場面での求小 (小さい方を求める) の問題を考える。

(関心・意欲・態度)

○ひき算の意味 (使い方) について筋道だ ててグループで話し合う。

(数学的な考え方)

○求小の問題をグループや自分で考えて解くことができるようにする。

(表現・処理)

○求小のひき算の意味について理解する。

(知識・理解)②

\ \fz

- ・具体物の操作によって、自分の考えを持ち、グループで話し合って全体に 伝え、みんなで考えを深める。
- ・自分が考えた説明を分かってもらえるか、友達に聞いてもらって上手に言えるようにする。

4 本時の学習(2/2)

- (1) 本時のねらい
 - ① 学習のねらい
 - 求小(小さい方を求める)の問題を、数図ブロックを使ったり図を使ったりして考え解くことができる。
 - ② 学び合いのねらい
 - 自分の考えをグループの友達にきちんと伝えることができる。
 - 分からない友達に、自分の考えを説明することができる。

(2) 学習の設計

段	2) 子智の設計	·····································	T
階	児童の活 学習活動		教師の働きかけ
-	1 本時は「あき」「ふゆ」	学び合い活動	* II+ O W W 12 12 14 14 - x x 7 70
			・前時の学習が想起できる発
か	の問題を、解くことを理解		問をする。
む	する。		・前時と同じようにグループ
	2 本時のめあてと、学習の		で考えることを確認し、番
	流れを確認する。		号札を配る。
	すくない	L ほうをもとめられるように	しよう。
	<u> </u>		
取	7 - 2 - 1 1 1 0 - 11 1 0		・求答事項や条件を把握しや
り	①問題場面を理解する。		すくするため、「わかって
組			いること」「たずねている
む			こと」にアンダーラインを
			引くよう指示する。
	②グループで数図ブロック	○問題場面を数図ブロ	・前時と比べて、本時は「~
	や○の絵を使って考え	ックや○の絵を使っ	
	る。	て、グループで話し	
		合う。	確認する。
		○分からないことは質	ANTERIOR LINES
		問をして、グループ	
		[1]	・番号札の順番に話すように
		るようにする。	A AND THE CONTRACTOR OF THE PROPERTY OF THE PR
	③グループで考えたことを		する。
	代表児童が発表する。	AND	・はっきりと大きな声で発表
	1、衣允里が完衣する。	て、聞いたことが言	するように呼びかける。
		えるようにする。	
अगर	4 [
深	4 「ふゆ」の問題を解く。		・「あき」の問題と同様に、
め	①個人で考える。		求答事項や条件を把握する
る			ように確認をする。
			・自分の解き方をはっきり話
	ループのみんなに発表す	えるように、数図ブ	すことで互いの学習が深ま
	る。	ロックや○の絵を使	ることを知らせる。
		って説明をする。	
		○友達の発表をしっか	
		り聞く。分からない	
		ことは質問する。	
	③代表児童が発表する。	○説明に困ったら、グ	
	20 700 100000000000000000000000000000000	ループの友達に教え	
	1	てもらう。	=
	5 練習問題をする。	○早く解けた児童は、	・本時の学習内容の類似問題
		教え合って取り組む	を解き、習熟を図るように
	4	ようにする。	を解さ、自然を図るようにする。
- <u>-</u> -	6 本時の学習を振り返る。	A 1 1 9 0 0	
2	0 平時の子目で1版り返る。		・前時の問題との違いに気付
8			き、少ない方を求めたこと
			を確かめるようにする。
る			

- (3) 評 価
 - ① 学習の評価
 - 大きい方の数量と差から小さい方の数量を、具体物を使って求めることができたか。 (ワークシート)
 - 自分の考えを筋道をたてて、答えを説明することができたか。(ワークシート)
 - ② 学び合いの評価
 - 自分の考えを友達に伝えたり、友達の考えを聞いたりして、グループ活動に意 欲的に参加できたか。 (振り返りカード)

メモ

第2学年1組 算数科学習指導案

第3時限 2の1教室 指導者 長屋 富子2年ワーク 指導者 大澤 宏美

- 1 単 元 ちがいをみて
- 2 単元目標
 - 進んで数量の関係をテープ図に書き、違いに着目して問題を解こうとする。
 - 2つの数量があって、一方の数量が多いということは、他方の数量が少ないことであるというように、2つの数量の関係を逆に考えることができる。
 - 2つの数量の違いを比べやすいように、左側をそろえて2本のテープ図に表すことができる。
- 求大・求小の逆思考の場面を知り、2つの数量の違いに着目することを理解する。 3 単元構想 (3時間完了)

〈学 習 計 画〉

〈学び合いの場面〉

○テープ図をもとにして数量の関係をとらえ、グループで話し合いをする。

(関心・意欲・態度)

○テープ図の見方が分かり、説明ができる ようにする。 (知識・理解)①

- ・隣同士で問題の意味の確認ができる。
- ・わからないときは進んで聞いたり教えたりすることができる。
- ・テープ図の説明を友達に聞いてもらって、意見を聞く。

○進んでテープ図に書こうとする。

(関心・意欲・態度)

○テープ図に書いて問題を解く。

(数学的な考え)

○テープ図を使って説明する。

(知識・理解)②

・自分の考えを持ち、グループで話し合って全体に伝えて、みんなで考えを深める。

・自分が書いたテープ図の説明が分かっ てもらえるか、友達に聞いてもらって意

○類似問題を解いたり問題作りをして、問 題を出し合う。

(数学的な考え)(関心・意欲・態度)③

・問題が作れない友達に教えることができる。

・友達と答え合わせをしたりプリントに 励ましのことばを書いたりする。

- 4 本時の学習(1/3)
 - (1) 本時のねらい
 - ① 学習のねらい
 - テープ図の意味を分かりやすく説明することができる。
 - 数量の違いに着目して逆思考で求小の問題を解くことができる。
 - ② 学び合いのねらい
 - 友達の考えをきちんと聞いて、学習内容を共有することができる。

(2) 学習の設計

段	児童の活	動	w
階	学習活動	学び合い活動	教師の働きかけ
つ	1 さし絵を見て、何をして	○隣同士で、今年の運	・魔法使いの玉入れで赤組と
か	いるのか様子を話し合い、	動会はどうだったか	白組の勝敗はどうなるのか、
む	題意をとらえる。	思い出してみる。	問題への関心を高める。
	2 本時のめあてと学習の手		・単元の学習計画の流れにつ
	順を確認する。		いて簡単にふれる。
	ちがいから、数をも	とめる方法のせつめいが	できるようになろう。
取	3 P.64①の問題をテープ		・問題文の意味をもとにじっ
n	図を使って自分で考える。		くり考えるようにさせる。
組	4 グループで答え合わせを	○友達が分かるように	・友達のよいところを見つけ
む	し、説明の練習をする。	図を使って、説明を	て、励ましてあげるよう助
		する。	言する。
		○友達が言葉に詰まっ	・ホワイトボードを活用し、
		たときは言えるまで	全員が言えるようになるま
		待ってあげるか、助	で、説明の練習をするよう
	-	けてあげる。	に促す。
		○説明の仕方のよかっ	・テープ図と数量の関係を正
		たところをほめる。	しくとらえさせる。
	•		・説明のポイントをおさえて
			聞くことを確認する。
広	5 P.64②の問題に取り組		・分かっていること、たずね
げ	t.		ていることをしっかりとつ
る	①自分で考える。		かむことをおさえる。
	②グループで話し合う。	0.4.0.0.0.0.0.0.0.0.0.0.0.0.0.0.0.0.0.0	
	1		・違いに目をつけて説明がで
	とを全体に広げる。	べながらしっかり聞	きているかを評価する。
		き、「どうですか」	
		という友達の言葉に	
		きちんと答えてあげ	かどうか、確かめることを
±	フォ吐の土とはナーフ	る。	つけ加える。
	7 本時のまとめをする。		・「はっけん」できたことの
とめ		ノートにも書き加え	喜びをみんなで称賛する。
める		る。	
(3) 評 価		

(3) 評 価

- ① 学習の評価
 - 一方が多いということは他方が差の分だけ少ないと考えて問題を解くことができたか。 (ノート)
 - テープ図を見て、自分の言葉で分かりやすく説明できたか。

(ノート)

- ② 学び合いの評価
 - 聞いたり伝えたりする活動に意欲的に参加できたか。

第2学年4組 生活科学習指導案 第3時限 2の4教室

L															35	S 0	यु ए	Ę	20) 4	我	至	1	日华	B		IZ U	J		밍	J
() で) の	元自の成き	か景を。そで	成に支友表	長はえ 達現1	に多てのし、	関くく 戊 寺間	かりれ 長め	その人 特合了	ち支に 子う)	、え感	版が謝互と	あっ、ハの	えた 意良	こ飲き	と的、	にき	えづた来	く。	句カ	3	ての	生成	活し長く	しょ	;う)思	と-	する	る こ 自 分	ح	か
	大き〇自	分子分	の) の)	成長	を の	様様	子(子	を関を	振心工	り・夫考	る欲て表	。・ま現	態	න ②	る。 ~(E			\ <u>\</u>	自然を	分の製作いの	振途参の	り返れまにい	り で o で o さ さ と こ	を深 の経 る。	める過ぎ	。 · 発	表し	合(۸,	お	
	○家	、学 :こ	校とやり	ここも均	く 学い で	して(で	て振関き。	かり心る	ら返・よ	でる意う	きる。たな	よ態っ	う度	に:	⑦@ とに	3 [\Rightarrow	でた・ド	に学こと	習をの参	した話して考に	こ合き	とや う。 るよ	学権	交生	てかてった	身よ	につ	(†	
	できつて		る。	よう	に	な	つ	た	3	とを	発。	表		る。	, <i>j</i>	- 11		\Rightarrow	-	ド」	を	もと成長	にに	発表良さ	Lf	計 う	にな 。 的に				Name and Address of the Owner, where
	じぶ 〇 自	ぶん 分	の t	き V 表 長	ちや	よ良	うさ	や。を	よるまる	= X	る	0	める思え					\	E-2 00 2	発表こ気			<u></u> 合い	١,	自分	自身	₹ の1	龙長	[#]	\ \ \	
	あ○持●	長ち	を見を	支え	てる	く手	れ段(た・関・	人方心る	去きもの	考欲を	え・つ	る。態度	。 度)	(12			\Rightarrow	7	を出	出し	合	١,	自分	の	製作	のでは、	Εか	す。		
	あこ	n.	から	5 0	夢	や	(関ル	Ù	・意	欲。		態思					\Rightarrow		(に グ	つい	て	活しで夢	合言	。	を発	あった。表し				

4 本時の学習(10/16)

- (1) 本時のねらい
 - ① 学習のねらい
 - 「できるようになったよカード」をもとに友達の前で発表することができる。 ○ 自分が気づいた友達の成長や良さを積極的に見つけることができる。
 - ② 学び合いのねらい
 - 友達の発表を、真剣に聞こうとする態度を培う。
 - 友達の成長や良さを素直に喜んだり、賞賛できたりする。

(2) 学習の設計

FIL		- FI	
段	児童の活		教師の働きかけ
階	学習活動	学び合い活動	CONTRACTOR DANCE WAS ARRESTED FOR
つかむ	1 本時のめあてと、学習の流れを知る。		・発表を聞く側が重要で、友達だちのすごい所を見つけるよう、指摘する。 ・学習の進め方を黒板に掲示する。
	できるように	なったことを はっぴょ	・「すごいねカード」の記入 の仕方について説明する。 しあおう 。
取	カード」をもとにグループ で発表し合う。	を見つけ、ほめ合う。	・賞賛や励ましの声をかけ、 和やかな雰囲気をつくる。
り組む	①グループで発表の準備を する。 ・机移動、発表順、進行係	○協力して準備する。	・すばやく準備できるよう補 助する。
	②発表する。	○具体物や絵・写真な どを使い、工夫して 発表する。	・声の大きさに注意するよう に呼びかける。・発表に自信のない児童の近
		○友達の発表を聞き、 分からないことは質 問する。	くにいて、困ったり、つま
	③「すごいねカード」に記入する。		・何が、どのようにすごいのか、具体的に書けるように 巡視しながら助言する。
広げ	3 「すごいねカード」を読み合う。	○友達のよいところを 学級全体の場で紹介 し、広める。	・よく書けている児童のカー ドも紹介する。
3	4 「できるようになったよカード」以外のことで、友達のよいところを考え、「友達カード」に記入し、渡す。	○普段の生活から友達 のよいところを考え る。○友達に見つけてもら	・記入が進まない児童には、 過去にあった場面を思い起 こすよう呼びかけ、そので きごとから友達のよいとこ
とめ	5 「友達カード」の感想を 発表する。	った自分のよいとこ ろに気づく。 ○友達に感謝する気持 ちをもつ。	ろを見つけるようにする。 ・次時は、自分の成長や良さ についてまとめることを伝 える。
める) = \tau \tau \tau \tau \tau \tau \tau \tau		

- (3) 評 価
 - ① 学習の評価
 - できるようになったことを友達の前で発表できたか。

(「できるようになったよカード」、観察)

○ 友達の成長や良さを見つけることができたか。

(「すごいねカード」、「友達カード」)

- ② 学び合いの評価
 - 友達の発表を真剣に聞くことができたか。

(観察)

○ 友達の成長や良さを賞賛できたか。

(「すごいねカード」、「友達カード」、発表)

第3学年1組 国語科学習指導案 第3時限 3の1教室 指導者 奥村有希代

- 元 サーカスのライオン
- 単元目標
 - 物語の中心となる人物の気持ちを考えながら読みとることができる。
 - 心に強く残った場面の感想を、自分なりの方法を選んで表現することができる。
- 3 単元構想(15時間完了)

〈学習計画〉

〈学び合いの場面〉

○教材文を通読し物語の大体をとらえる。 初発の感想を書き交流し、今後の学習の 見通しを持つ。 (関心・意欲・態度)①

・初発の感想をペアの友達に見せながら 話し、友達の感想をみんなに紹介する。

○新出漢字や言葉の意味について考える (言語に関する事項)②

画数の多い漢字や間違えやすい漢字の **筆順や意味・使い方などをグループの友** 達と確認しながら進める。

- ○男の子と出会う前のじんざの境遇や気持 ちを読み取る。 (読む)③
- ○男の子とであったじんざの気持ちを読み (読む) ④
- ○男の子がおりをたずねてくるようになっ てからのじんざの気持ちを読み取る。

(読む) ⑤

- ○火事の場面でのじんざの気持ちを読み取 る。 (読む)⑥
- ○サーカスの最後の日の様子や、お客の気 持ちを読み取る。 (読む) ⑦
- ・理由をはっきりさせて、サーカスの中 のじんざの境遇を読み取り、グループで 話し合う
- ・じんざの気持を吹き出しに書き、その 変化を理由を含めてグループでの話し合 いを通して個人の考えを深める。
- ・金色に光ったじんざに手紙を書き、グ ループで互いに発表し合い、表現の仕方 や言葉の使い方を工夫していく。
- ○一番強く心に残った場面を選び、音読発 表会で発表できるよう計画し練習する。 (読む)(関心・意欲・態度)⑧⑨
- ○ペアのグループで中間発表会をし、さら に発表の工夫をする。

(読む)(話す・聞く)⑩⑪

・グループに分かれ、友だちの音読を聞 き、もっとよくなるようにアドバイスし 合う。

・アドバイスシートを使って、互いの音 読について気が付いたことを伝え合う。

○全体の発表会をして、感想を交流したり、 上手に発表できた友達の良いところを 話 し合ったりして、学習のまとめをする。

(読む)(話す・聞く)203

・人物の気持ちが伝わるように工夫して 音読している友だちの姿を認め合い、そ の理由も発表する。

○心のふれあいを描いた他の物語を読む。 (関心・意欲・態度) 405

・今までの読書経験を生かし、心のふれ あいを描いた物語を友だちと紹介し合っ て、選ぶようにする。

- 4 本時の学習(11/15)
 - (1) 本時のねらい

- ① 学習のねらい
 - 心に残った場面の人物の気持ちが伝わるように工夫して音読発表する。
 - 友達の感想から、聞き手に登場人物の気持ちや情景がより伝わる読み方を考える。
- ② 学び合いのねらい
 - 友達の良いところを見つけ、認め合うことができる。
- (2) 学習の設計

段	児童の活	動	数師の働きかは
階	学習活動	学び合い活動	教師の働きかけ
つかむ	 本時のめあてと、学習の 流れを確認し、個々に音読 練習をする。 		
	じんざと男の子の気持ちが表れ	るような音読をするため 	に、自分の課題を見つけよう。
取		[TO AND TO STATE - 1985] - 프라이트 - 1985 - 1	・それぞれの活動時間の割り
り	3	表する側と聞く側に	振りを提示する。
組	・発表する側	分かれ、向かい合う。	
む	自分が選んだ場面の様子		するよう声かけをする。
	や登場人物の気持ちが伝わ	向けて聞く。	・グループを順に回り、発表
	るように読む。	○友達の読み方を参考	[H
	・聞く側	にして、自分の発表	認する。
	友達のよいところやもっ	に生かす。	
	と上手に読むためにはどこ		
	を気をつければよいかチェ		
	ックしながら聞く。		
	3 声の強弱や感情の込め方	○グループ全員が責任	・だれもがアドバイスシート
	など、友達へのアドバイス	を持ってアドバイス	がもらえるよう配慮する。
	シートを書く。	シートを書く。	・時間を意識させる。
	4 発表するグループを交代		
	する。		
深	5 アドバイスシートを交換	○友達がくれたアドバ	・課題を見つけることが困難
80	して、自分の課題について	イスシートの内容を	
る	考える。	参考にして、次の課	
	3 / 2 3 0	題を決める。	ている友達に声をかけるこ
		AS 2 1/2 00 00	とが出来ている児童を賞賛
ま	6 自分の課題について及事	○木吐の学習のウェ	する。 ・今までの学習を生かすこと
と	する。	3	
め	y 0°	良かった点をみんな	사람
る		で出し合う。	する。
2			・次時の学習を伝え、音読練
(3) 評 (価		習の意欲を高める。

(3) 評 価

- ① 学習の評価
 - 登場人物の気持ちを考えて、感情を込めて音読発表することができたか。

(熊度)

- 音読発表をした友達の良いところや直すところを見つけ、アドバイスできたか。 (アドバイスシート)
- 友達にもらったアドバイスを参考にして、自分の課題を見つけることができたか。 (ワークシート)
- ② 学び合いの評価
 - グループの友達と協力して音読発表をしたり、聞いたりする活動に意欲的に参加できたか。 (評価カード・振り返りカード)

第4学年2組 算数科学習指導案

第3時限 4の2教室 指導者 小松 敏朗 4年ワーク 指導者 加藤 順子

- 1 単 元 はしたの大きさのべつの表し方を考えよう
- 2 単元目標
 - 単位分数の何個分という考え方をもとに、分数の大きさの表し方を考えることができる。
 - 分数の大小の判断や、仮分数や帯分数に表すことができる。
 - 分数の表記、数としての分数、連続量としての分数、帯分数や仮分数などの意味が 理解できる。
- 3 単元構想(10時間完了)

〈学 習 計 画〉

〈学び合いの場面〉

○はしたの長さを表す方法を考え、「何分の1」という表現を知る。

(数学的な考え方)(知識・理解)①

- ○分数の意味と表し方を理解する。
 - (知識・理解) ②
- ○1より大きい分数の表し方を考える。
 - (数学的な考え方) ③
- ・分数の書き方について、ペアで確認し 合う。
- ・グループで順番を決め、練習問題を解 き、答え合わせをする。
- ・グループで確認し合って、分数をテープ図に表す練習をする。

〇数直線を使って1より小さい、1に等しい、1より大きい分数を理解する。

(知識・理解) ④

- ○グループで話し合って問題をつくる。また、他のグループがつくった問題を解く。(関心・意欲・態度) ④
- ○同分母分数の大小を比較する。

(表現・処理) ⑤

- ・ペアで確認し合って、数直線に色を塗
- ・グループの算数係が中心になって話し 合いを進め、問題をつくる。
- ・解いた問題が正しいかどうか確かめ合う。

○真分数、仮分数の用語を知り、その意味 を理解する。 (知識・理解)⑥

- ○仮分数を帯分数にしたり、帯分数を仮分 数に直したりする。 (表現・処理) ⑦
- 知り、その意味 知識・理解)⑥ 確認したりする。 ・グループで練習問題に取り組み、分か
 - ・グループで練習問題に取り組み、分からない子には、みんなで理解できるよう に説明する。

○分数ものさしをつくり、いろいろなものの長さを測る。 (関心・意欲・態度)®

- ・グループの中で、自分の考えを分かり やすく伝える。
- ・できたものさしを使ってグループ間で 交流する。

○教科書の練習問題に取り組む。 (関心・意欲・態度)(表現・処理) ⑨⑩

- 4 本時の学習(4/10)
 - (1) 本時のねらい
 - ① 学習のねらい

・解いた問題が正しいかどうか、グループで確認し合う。

- ・答えが間違っていた子には、みんなで その子が理解できるように説明する。
- ・自分の学習についてふり返って、カードに書き、発表する。

- 数直線を使って分数の大きさを考えることができる。
- ② 学び合いのねらい
 - グループで話し合って分数の問題をつくることができる。
 - グループで助け合って、他のグループがつくった問題を解くことができる。

(2) 学習の設計

段	児童の活	動	
階	学習活動	学び合い活動	教師の働きかけ
5	1 前時の学習を振り返り、	701.1127	・テープ図を見せて前時を思
か	本時のめあてを確認する。		い出させ、数直線とつなげ
む			るようにする。
	数直線を使って分数	の大きさを考えられるよ	うにしよう。
取	2 本時の流れを確認する。		・本時の流れを書いた紙を黒
b	2 And South of the late of the second of the		板に提示して説明する。
組	3 数直線に色をぬり、1/5		・数直線を書いたワークシー
む	2/5 について理解する。		トを配布し、色をぬる活動
-	①個人で考える。		を通して、分数の大きさを
	②ペアで確認する。		考えるように促す。
	③全体で確認する。		The state of the s
	多主件で確認する。		・数直線を比較させ、2/5 は 1/5
			を2こ集めた数であること を確認する。
	4 1/5 を3こ、5こ、6こ		・ワークシートの数直線に色
	集めた数を分数で表す。		をぬって考えるように促す。
	・5/5 は 1 であることを知		・1より大きい数も単位分数
	る。		の何こ分の考え方ができる
	~ 0		ことを確認する。
	5 教科書 P.67 ③、④の問	○分からないときけ	・机間指導し、念頭操作しに
	題を考える。	ペアやグループの友	
	①個人で考える。	達に教えてもらう。	いたワークシートを使って
	②グループで確認する。	(単に教えてもう)。	その大きさをとらえるよう
			に助言する。
深	6 グループで話し合って分	○グループの質数係が	
8	数の問題づくりをする。	中心になって話し合	
る	①できた問題をホワイトボ		
	ードに書く。	考えを聞く。	らない適度な大きさの声で
	②黒板にホワイトボードを	37C C [A] ()	話し合うよう促す。
	貼り、問題を提示する。		mod Ja July 8
		○解いた問題が正しい	・きちんと確認している班を
	解く。	かどうかグループで	
	①個人で考える。	確かめ合う。	C 7 60 0 , 12 60 5 6
	②グループで確認する。	-E 4 47 H 7 0	
	8 問題をつくった班が答え		・ホワイトボードに書くよう
	を確認する。		に指示する。
ま	9 振り返りカードを使いな	○上手にグループ活動	・本時の学習を振り返り、次
2	がら、本時のまとめをする。		
め		" CCICN IN JESO	ייס ג די דו דייי
る		= =	Á
(3) 評 価		

- (3) 評 価
 - ① 学習の評価
 - 数直線を使って、分数の大きさを理解することができたか。 (ワークシート)
 - ② 学び合いの評価
 - グループで協力して問題をつくったり、問題を解いたりすることができたか。 (振り返りカード)

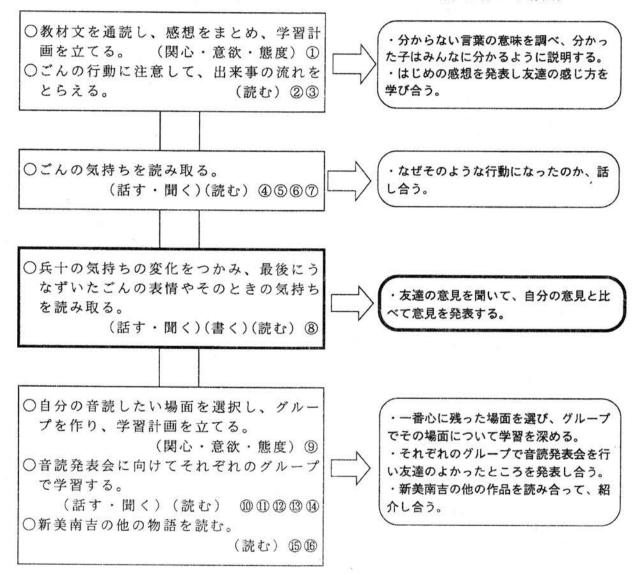
第4学年3組 国語科学習指導案

第3時限 4の3教室 指導者 平松 理穂

- 1 単 元 ごんぎつね
- 2 単元目標
 - 叙述に即して、場面の移り変わりや人物の気持ちの変化を読み取る。
- 物語を読んで強く心に残っている場面を中心に、気持ちを込めて音読発表会を行う。
- 3 単元構想(16時間完了)

〈学 習 計 画〉

〈学び合いの場面〉



- 4 本時の学習(8/16)
 - (1) 本時のねらい
 - ① 学習のねらい
 - 兵十の気持ちの変化をつかみ、最後にうなずいたごんの表情やそのときの気持ちを読み取ることができる。
 - ② 学び合いのねらい
 - 友達の意見を聞いて、自分の意見と比べて発表することができる。

(2) 学習の設計

_	2) 子首の設計		
段	児童の活	動	教師の樹さムル
階	学習活動	学び合い活動	教師の働きかけ
7	1 前時までの学習を振り返		・前時の様子が思い出せるよ
か	る。		うに話をする。
む	2 本時のめあてと、学習の		
	流れを確認する。		
	F上の気性+の旅り	ナヘムス 目体にこれる	
	[をつかみ、最後にうなず	いたこんの表情や
	そのときの気持ちを読	の収つつ。	
取	3 物語の流れをつかむ。		・自分のペースで気持ちを込
b	・登場人物の気持ちになっ		めて音読するように指示す
組	て 6 章を一人で音読する。		る。
む	・分からない言葉や気にな	○互いに質問し合って	
	る言葉がないか書き出して		
	みる。	Section of the sectio	
	4 登場人物の気持ちを読み		・ごんの気持ちや兵十の気持
	取る。		ちに色を変えて線を引き、
	・登場人物の気持ちが表れ		言葉でも付け足しをして書
	ているところに線を引く。		くようにする。
	・線を引いたところに、気		・理由も付け加えて確認し合
	持ちの付け足しをする。		えるようにする。
	5 登場人物の動作や様子か	○全体で確かめ合い。	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,
	ら考えたことを全体に発表	自分の意見と比べて	
	する。	話し合う。	
	・ごんに対する兵十の気持	11 0 1 7 0	・兵十のごんの呼び方が変わ
	ちがどこでどのように変わ		っていることに気付かせる。
	ったか見つける。		, acciexilly e so
	・兵十の驚きが分かる文に		
	注目し、その気持ちを言葉		
	で表現してみる。		
	・ごんのうなずいた時の気		
	持ちを考え、言葉で表現し		
- 1	てみる。		
深	6 話し合って出た内容を取		・自分でまとめられないとき
8	り入れて、自分の言葉でご		は、友達に教えてもらうな
る	んの気持ちをまとめる。		CONTRACTOR
a	100 VIII 25 4 5 00 20		どして解決していくことを
 ま	7 発言において トノボル	○右湊の音目も闘いて	示唆する。 ・どの意見がよかったか、理
と	ばった友達を発表する。	- 10 THE 1917 THE 1918 전 1918 - 1 THE THE THE TOTAL THE	The state of the s
め	はラル及圧で光衣する。	お互いによい点を認	由もつけて発表する。
る		め合う。	
(3 (3) 並 価		

(3) 評 価

- ① 学習の評価
 - 兵十の気持ちの変化をつかみ、最後にうなずいたごんの表情やそのときの気持ちを読み取れたか。 (ワークシート)
- ② 学び合いの評価
 - 友達の意見を聞いて、自分の意見と比べて発表することができたか。(態度)

第5学年2組 算数科学習指導案

第3時限 5の1教室 指導者 奥村 久子 有賀ますみ

	15 5 5 7 7
単元目標	VII. 10 - 10 - 10 - 10 - 10 - 10 - 10 - 10
○2つの量を比べることで、割合の意味と 割合の求め方について理解する。 (関心・意欲・態度)①	多を取り上げて、その表す音味をみん
○割合を使った問題を解くことができる。 ○全体と部分、部分と部分の割合を求める。 ○割合を使って比べる量を求める。 ○割合を使ってもとにする量を求める。 (数学的な考え方)(知識・理解)②~⑤	ープで行い、全体で確かめる。 ・比べる量、もとにする量をしっかり
○百分率の意味を知り、小数と百分率の関係を理解する。 ○百分率を使った問題を解く。 ○百分率を使った問題作りをする。 (数学的な考え方)(知識・理解) ⑥~⑧	・考えたことを、グループで話し合って 全体に伝え、みんなで考えを深める。
○帯グラフ・円グラフの意味を理解し、グラフを読むことができる。○帯グラフ、円グラフを書くことができる。(知識・理解)(表現・処理) ⑨⑩	か、確かめ合う。 ・グラフをかく手順を確認し合いなが
○2つの量の和にあたる大きさを考えて解くことができる。 ○全体を1として割合の積を考えて解くことができる。 (数学的な考え方)(知識・理解) ⑩⑫	・もとにする量がどれなのか、線分図を使って確認し話し合って、問題が解決できるように進める。 ・自分の考えたことが、グループの友達によく分かるように説明する。
○割合を使ってお買い物をする。 ○身の回りの資料をグラフで表す	・割合、比べる器 まとにする器を求

めることができ、友達と話し合って解

決する。

○割合の復習をする。

(数学的な考え方)(知識・理解) ③④

4 本時の学習(11/14)

- (1) 本時のねらい
 - ① 学習のねらい
 - 2つの量の和が、もとにする量の何倍にあたるかを考えて、問題を解くことが できるようにする。
 - ② 学び合いのねらい
 - グループで話し合うことで、学習した内容を正しくノートにまとめたり、相手 に分かりやすく伝えたりすることができる。
- (2) 学習の設計

段	児童の活	動	Milder - Mil > 1 1
階	学習活動	学び合い活動	教師の働きかけ
つかむ	1 本時のめあてと、学習の流れを確認する。		・比べる量、もとにする量の 割合の学習を思い出させ、 本時の学習の内容をつかむ ことができるようにする。
	割合をつかって	、2つの量の和をもとめ	られるようにしよう。
取	2 2本のテープを使って、		・テープを使って既習の内容
り	2本のテープを合わせた長		と本時の違いを確認する。
組	さを考える。		・もとにする道のりを確認す
む	①実際のテープで考える。		る。
	②線分図を考える。		・テープをつないで提示し、
	②関係図を考える。		実物が線分図に移行できる
	④立式をして考える。		ようにする。
			・線分図から関係図に移行で
	A		きるようにする。
	3 P.52 1 を解く。	○線分図の書き方が分	・テープを使って考えた例の
	①個人で考える。	からない時は友達に	ように進めることを、助言
	②グループで考える。	聞く。	する。
	③先生に説明する。	○線分図を使って、話	・グループの話し合いが進ま
		し合って問題を解決	ないときは、教科書の線分
		するようにする。	図や関係図を参考にするよ
		○友達の説明をしっか	うに助言する。
		り聞き、みんなが説	
		明できるようにする。	
	4 P.52 2 を解く。		*
	①個人で考える。		・話し合いが進まなかったグ
	②グループで考える。		ループには、前問より自分
	③先生に説明する。		たちで正答をまとめられる
	5 速くできたグループは、		ように励ます。
	プリントの問題を解く。	l e	・同じ歩調で進めるように声
			を掛ける。
100	6 説明が上手だった友だち		・今までの学習が生かさせて
2	を発表する。	でたたえる。	いるか確かめるようにする。
め	7 振り返りカードに書いて		・次時につながるようにする。
る	本時のまとめをする。 3) 評 価	録する。	

- (3) 評 価
 - ① 学習の評価
 - 問題を線分図や関係図に表して考えることができたか。

(ワークシート・ノート)

- ② 学び合いの評価
 - 説明したり聞いたりする活動に意欲的に参加できたか。
- (振り返りカード)

第5学年3組 社会科学習指導案 第3時限 5の3教室 指導者 滝 茂己

- 1 単 元 わたしたちの生活と環境
- 2 単元目標
 - グラフや統計といった基礎的資料を効果的に活用し、公害など人々の生活における 環境問題について調べることができる。
 - これまでの環境問題について知ることで、人々の健康や生活環境を守ることの大切 さに気付き、今後どうしたらよいか自分なりの意見をもつことができる。
- 3 単元構想 (6時間完了)

〈学 習 計 画〉

〈学び合いの場面〉

- ○人々の生活における環境問題について調べたいテーマを決め、教科書・資料集・ 図書館の本を使って調べる。
 - (関心・意欲・態度) ①
- ○インターネットを使って、補足したい資料を調べ、詳しくまとめる。
 - (関心・意欲・態度) ②
- ○資料やグラフを活用して、画用紙に詳しくまとめる。 (技能・表現)③
- ・グループで協力して調べ学習をし調べ たことをまとめる。
- ①どの資料を選ぶかどの文章を参考にまとめるか相談しながら進める。
- ②役割分担をし、自分がまとめるところ は、**責**任もって調べる。

○環境問題について調べているテーマと同じグループ(ペアのグループ)と交流し、 自分たちの調べた内容をより詳しくまと め、環境問題に対する理解を深める。

(思考・判断) ④

○画用紙にまとめた内容を整理し、大きな 声で分かりやすく伝えられるように練習 する。 (関心・意欲・態度)⑤

- ・ペアのグループに対して自分たちのグ ループが調べたことを正確に伝え合う。
- ・ペアのグループの発表を聞いて、改善するとよい点を付箋に記したりアドバイ スをしたりする。
- ・大きな声で相手に分かりやすく発表できているか、グループの仲間で聞き合い ながら練習する。
- ○他のテーマのグループに自分たちが調べ上げたことを発表する。発表を聞いているグループは、発表された内容をまとめ、分からなかったところを質問したりグループの良かった点を話したりする。

(関心・意欲・態度)⑥

・発表を聞いてよかったところを認め、 今後自分たちが取り入れたいと思うこと を感想に書く。

- 4 本時の学習 (4/6)
 - (1) 本時のねらい
 - ① 学習のねらい
 - 環境問題について調べているテーマと同じグループ (ペアのグループ)と交流 し、自分たちの調べた内容をより詳しくまとめ、環境問題に対する理解を深める。
 - ② 学び合いのねらい
 - ペアのグループに対して、自分たちのグループが調べたことを正確に伝えることができる。
 - ペアのグループの発表を聞いて、改善するとよい点を付箋に記したりアドバイスをしたりすることができる。

(2) 学習の設計

段	児童の活	動	
階	学習活動	学び合い活動	教師の働きかけ
つかむ	1 本時のめあてを確認し、調べた内容が発表できるよう練習する。2 学習の流れを理解する。それぞれのテーマごとで交流	○しっかりと発表する ことができるか、互 いに確認し合う。 ※会をし、調べた環境問題	・大きな声で分かりやすく話す練習をしているか確認する。 ・環境問題についてまとめた内容や発表の仕方をみるときのポイントを黒板に具体的に示す。
取り組む	3 同じテーマで調べている ででのの。 でで、でのの。 でで、でのの。 でで、でのの。 でで、でのの。 でで、でででででででででで	ってしまうことがあれば、グループの仲間で教える。 ○相手のグループの発表をきちんと聞き自分なりの意見を考える。	か確認する。 ・付箋に書く内容に困っているというでは、発表のないの体を発力のポインでものがないではないではないではないではないではないではないではないではないではないでである。
深める	てアドバイスをするグループの役割を交代する。 4 付箋に書いてあることや発表を聞いて、意見をいたし合い、意見にりを表とを環境直したり発表の仕方を修正したりする。	容を読み取り、どう 改をしたいいのよい し合う。 〇相手グループの発っ 自動を聞いて、 はたい はたがでする。 のがでする。 のがない ない。 のがない。 のがない。 のがない。	取り上げて話し合っているか机間指導する。 ・グループ全員で話し合われているか確認し、できていないグループには助言する。
まとめる	時につなげる。	なったか確かめなが ら練習する。	・相手のグループにもらった

(3) 評 価

- ① 学習の評価
 - 同じテーマで調べているグループ (ペアのグループ) にもらった付箋の内容や アドバイスを参考して、自分たちの調べた内容をより詳しくまとめることができ たか。 (ポスターセッションの資料)
- ② 学び合いの評価
 - ペアのグループに対して、自分たちのグループが調べたことを正確に伝えることができたか。 (机間指導)
 - ペアのグループの発表を聞いて改善するとよい点について一生懸命考え、付箋 に記したりグループにアドバイスをしたりすることができたか。 (机間指導)

第6学年2組 算数科学習指導案

第3時限 6の2教室 指導者 間瀬千鶴子 氷室 朋子

- 1 単 元 6年のまとめ
- 2 単元目標
 - 小学校で学習したおもな内容について自分から復習し、学習を進めることができる。
 - 小学校で学習したおもな内容について、総合的にまとめることができる。
 - 発展問題に意欲的に取り組むことができる。
- 3 单元構想(17時間完了)

〈学 習 計 画〉

〈学び合いの場面〉

- ○数と量の領域の学習内容をまとめ、復習 する。 (表現・処理)
 - 1)~(3)
- ○計算と見積もりの領域の学習内容をまとめ、復習する。 (表現・処理)
 - (4)~(6)

(7)

- ○平面図形の領域の学習をまとめ、復習する。 (表現・処理)
- ○立体図形の領域の学習内容をまとめ、復習する。 (表現・処理)
- ○数量の関係の領域の学習内容をまとめ、 復習する。 (数学的な考え方)
 - (9)~(12)
- ○問題の見方・考え方の領域の学習内容を まとめ、復習する。(数学的な考え方)
 - $(13) \sim (14)$

- ・分からないところは、友達に聞きながら問題を解く。
- ・できたら答え合わせをして、みんなが できるように説明する。

○単元内容のふり返りをし、発展問題に取り組む。 (関心・意欲・態度) ⑤~⑥

- ・友達と協力しながら発展問題に取り組また。
- ・分からない子は、分かった子の説明を 聞いて自分の考えを深める。

- 4 本時の学習(15/17)
 - (1) 本時のねらい
 - ① 学習のねらい
 - 図形に関心を持ち、面積をいろいろな考え方で求めることができる。
 - ② 学び合いのねらい
 - 自分の考えをグループや全体の場で発表し、みんなで協力し合って考えることができる。

(2) 学習の設計

2)	子首の設計		
段	児童の活	5動	
階	7 日 11 31	学び合い活動	教師の働きかけ
つかむ	1 本時の課題と学習の流れを確認する。		・図形の発展学習をすることを伝える。
ů.	いろいろた	は形の面積を工夫して:	求めよう。
取	2 副教本ワン・ツー・スリ	0-17#3644	
り	- (P.41) の2問から自分	一 八 いろんられな	い・各自の学習方法で進めるが、
組	が解いてみたい方の問題を		- MACALLOA
2	選んで考える。	// // // // // // // // // // // // //	
	・一人で考える	相談したり、ヒン	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
	・相談して考える	カードを利用する。	
	・ヒントカードで考える	○分からない子には	
		えてあげる。	えさせる。
	でグループを作り、答え合	しとのように考えた。	・話し合いの中心になる子を
	わせをする。		1
	①自分の考え方を友達に説	分かりやすく説明す	
	DEL CALL TO	る。	円滑に進むように助言する。
1	②グループで相談する。	○自分の考えと比べた	IE)
1	③担当の先生に説明する。	がら友達の発表を聞	
	30. g	<.	8 988
	4 グループで残りの問題を	○求め方がよく分から	- 10.70 - 10.47
	考える。	ないときは、その問題も知いませば	1 10 00 11 11 00 11
	①自分で考える。	題を解いたグルーフ	
	②グループで相談する。	の子に相談して考え	
	@ #7 X/ = # 1/	る。 ○ ウハパギ mr - トー・	
	②四日の九王に就明する。 (○自分が説明できるよ	
1		うにしっかり聞く。	
		分からないことは質	
6	6 他の問題を解く。	問をする。	
"	TE STILL BE EMP ()	J 早く終わったグルー	・自分だけでなく、まわりの
	1	プは、困っている友	1 2 2 1 1 1 1 2 2 7 1 1
		達に積極的に声をか	1 - 1 - 10 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
0		ける。	かけをする。
		違った解き方があれ	
7	本時の学習の生れられまし	ば報告し合う。	
,	本時の学習の振り返りをでする。		"一"一、"人",于日
	2 0	き、学び合いについ	への意欲が持てるように言
		て自己評価する。	葉がけをする。
3)	評価		

(3) 評 価

- ① 学習の評価
- 図形に関心を持ち、問題を意欲的に解くことができたか。 (ワークシート)
 - 友達に分かりやすく説明したり、友達の説明をしっかり聞くことができたか。

② 学び合いの評価

○ 聞いたり伝えたりする活動に意欲的に参加できたか。

(振り返りカード)

第6学年3組 国語科学習指導案

第3時限 6の3教室 指導者 松浦 丰子

- 海のいのち 元
- 単元目標
 - 物語を読んで、登場人物の生き方を中心に感想をまとめる。
 - 根拠の考えとの関係に注意して話し手の考えを聞き、聞き手を意識して自分の考え を分かりやすく話す。
- 3 単元構想(14時間完了)

〈学 習 計 画〉

〈学び合いの場面〉

- ○全文を通読し、物語を読んだ感想を文章 にまとめる。 (書く)(聞く・話す) ①
- ○難語句を調べ、使い方等を理解する。
- (言語に関する事項)② ○初発の感想や「手引き」を参考に、学習 方法を選択し、学習計画を立てる。
 - (関心・意欲・態度) ③
- ・難語句調べは、言葉に詳しい児童を中 心にグループで進め、教え合ったり調べ たりする。
- 読書会や語りについてイメージが沸か ない児童は、友達と相談しながら選択す ることで見通しを持つ。
- ○物語の設定【時・場所・登場人物】につ いて検討する。 (読む) ④
- ○段落の検討をし、8場面に分け要約する。 (読む) ⑤~⑥
- ○物語のクライマックスを見つけ、「瀬の 主」に対する太一の考えの変化を読み取 (読む) ⑦
- ○主題について考える。
- (読む) ⑧
- ・根拠となる自分の考えを持ち、聞き手 に分かりやすく話す。
- ・グループで互いの意見を出し合うこと で、考えを深め合う。
- ・グループで話し合った意見を全体の場 で検討し合うことで、納得したり共感し たりする。
- ○ポスターセッション・読書会・語り発表 の中から一つを選択し、最も強く心に残 ったことをまとめて紹介する。

(書く)(聞く・話す) ⑨~⑩

○それぞれの発表会を開いて、感想や意見 (聞く・話す) ①~② を伝え合う。

- ・各自が考える「海の命」を聞き合いな がら、自分の考えを深め、まとめる。思 うように考えが出せない児童がいたら、 その児童が何を言おうとしているのかを 周りのみんなで一緒に悩んだり、考えた りする。
- ・選択した学習方法の発表を聞きながら 共感する部分と、自分の考えと違う部分 を感じて聞くようにする。
- ○立松和平の他の本を読み、「海のいのち」 と比較しながら、感想をまとめる。

(書く) ③~④

・互いに感想を伝え合うことで、さらに 自分の考えを深める。

- 4 本時の学習 (7/14)
 - 本時のねらい
 - ① 学習のねらい
 - 会話文や行動に着目して、物語のクライマックスを見つけることができる。
 - ② 学び合いのねらい
 - 自分の意見を意欲的に発表したり、友達の意見を聞いて自分の考えと合わせて 考えたりすることができる。

(2) 学習の設計

段	2) 字省の設計 児童の活	動	
階	学習活動	学び合い活動	教師の働きかけ
つか	1 本時の学習のめあてと学 習の流れを確認する。		
む		ば隣の子に聞いて確 認しながら進める。	った場面であること、そして教科書からその一文を抜き出すことを確認する。
	クライマックスの一	·文を見つけ、自分の考え 	を伝え合おう。
	2 クライマックスを見つける。		・会話文や行動など表現の細部に注意しながら教科書を
取り	①自分で考える。	○隣の子が分からなく て悩んでいるようで	読むようにする。
組む		あれば、声をかけ、 隣同士またはグルー プで話し合いを始め	は一文の意味を確認する。 ・まず自分の考えをもってノ
	②自分が考えたクライマッ	たり、教えたりする。 ○グループで検討する	るよう言葉をかける。 ・分からない言葉は教え合っ
	クスを、グループで検討 する。	ときは互いの考えを しっかり聞き、共感 できるところはない	
		か考えたり、納得できないときは反対意	または話し合いが進まない グループには、教師がグル
		見を伝えたりする。 ○考えがまとまらない 子がいても、グルー	ープの話し合いに加わり、 ヒントを与えながら考える 手がかりを持たせる。
	③グループで出されたクラ	プ全員の意見を言う 場を保障する。 ○隣同十やグループで	・グループの意見が一つにま
	イマックスを短冊黒板に 書く。同じ文が出ていた	相談したり確かめ合 ったりすることで、	[[- [[[[[[[[[[[[[[[[[
深	ら、名前のマグネットを その短冊黒板の下に貼	ようにする。	は短冊黒板に書くことを伝える。
体める	る。 3 グループで見つけたクラ イマックスについて、全体	○出されたクライマッ クスを近くの友だち と検討したりつぶや	た場合は、なぜ変わったか
	で意見交換をする。 ・賛成意見 ・反対意見	いたりしながら、全体での話し合いを進める。	
まとめ	4 話し合いの結果、最終的な考えをまとめる。		・自分の意見として言えるように自分の言葉でまとめさせる
3) Su tuc		せる。

(3) 評 価

- ① 学習の評価
 - 会話文や行動に着目し、太一の気持ちの変化を考えながら、物語のクライマックスを見つけることができたか。 (ノート)
- ② 学び合いの評価
 - 自分の意見を発表したり、友達の意見を聞き自分の考えと合わせて考えたりすることができたか。 (ノート・観察)

第 4 時 限

第1学年1組 国語科学習指導案

第4時限 1の1教室 指導者 浅輪 郁代

- 1 単 元 じゃんけん
- 2 单元目標
 - 教材文からじゃんけんの仕組みを読み取ることができる。
 - いろいろなじゃんけんのやり方の説明ができるようになる。
 - いろいろなじゃんけんのやり方を聞いて、人に伝えられるようになる。
- 3 単元構想(15時間完了)

〈学 習 計 画〉

〈学び合いの場面〉

- ○教材文を通読し、新出漢字や言葉の意味 について考える。(言語に関する事項) ①
- ○じゃんけんの経験について話し合ったり 今後の学習の見通しを持ったりする。

(関心・意欲・態度) ②

- ・新出漢字は隣の友達が正しい筆順で書 けているか確認しながら進める。
- ・言葉の意味については、知っている子 がなるべくみんなに説明をするようにす る。
- ○じゃんけんの勝ち負けの仕組みを読み取る。 (読む)③~⑤
- ・自分で読みとったワークシートの答え 合わせをグループで行い、全体で確かめ る。
- ○インドネシアのじゃんけんを例に、勝ち 負けの理由について話し合う。 (話す)®
- ○説明を文章に表すことができるようにする。 (書く) ⑦
- ・まず自分の考えを持ち、グループで話 し合って全体に伝え、みんなで考えを深 める。
- ・自分が書いた説明が分かりやすいか、 友達に聞いてもらって意見を聞く。
- ○グループでじゃんけんになる組み合わせ を考える。(関心・意欲・態度)(話す)⑧
- ○グループのじゃんけんの組み合わせについて、勝ち負けの説明を考えたり図に表したりして、じゃんけんや説明をする練習をする。(書く)(話す・聞く) ⑨~⑪

・すらすら聞きやすく発表できるか、友 、達に聞いてもらって練習をする。

○他のグループと、自分たちのじゃんけん や他のグループのじゃんけんをやってみ て、勝ち負けの説明をしたり、教えても らったじゃんけんの説明を自分のグルー プに話したりする。(話す・聞く)⑫~⑭

- ・自分のグループのじゃんけんを分かっ てもらえるように説明をする。
- ・自分のグループの友達に、他のグループのじゃんけんを伝えられるように、しっかり聞く。
- ○聞いたじゃんけんの中でおもしろかった ものについて発表したり、上手に説明で きた友達の良いところを話し合ったりし て、学習のまとめをする。

(関心・意欲・態度) ⑮

・ 友達と良かったところを認め合い、 自分たちの力にもなるように取り入れ て、話し方聞き方を工夫できるように 、する。

4 本時の学習(13/15)

- (1) 本時のねらい
 - ① 学習のねらい
 - いろいろなじゃんけんの勝ち負けの説明を分かりやすく話すことができる。
 - 他のグループのじゃんけんの説明を聞いて理解する。
 - ② 学び合いのねらい
 - 他のグループのじゃんけんを自分のグループの友達にきちんと伝える責任を果たすことができる。
- (2) 学習の設計

段	児童の活	動	White a Hill a line
階	学習活動	学び合い活動	教師の働きかけ
つ	1 本時も他のグループとじ		・前時の様子を思い出させる
か	ゃんけんの交換をすること		ようにする。
む	を確認する。		・前時までに確認した、上手
	2 本時のめあてと、学習の		な伝え方のポイントを再確
	流れを確認する。		認する。
	じゃんけんのせつめいる	を正しくはなしたりきいた	さりできるようにしよう。
	3 自分たちのグループの動		・1回目に話しに行くペアと
	きを確認する。		2回目に話しに行くペアを
			確認する。
取	4 じゃんけんの説明をしに		・制限時間を意識するように
り	1回目の移動をする。		させる。
組	教える時は		
t	①じゃんけんをする前に、		・声の大きさに注意するよう
	まず、どんなじゃんけん		に呼びかける。
	か説明をする。		
	②実際にじゃんけんをしな	○相手グループの子が	・相手の子ができるようにな
ā	がら、説明を覚えてもら	きちんと言えるまで	るまで、練習をするように
	えるまでする。	聞いてあげる。	促す。どうしても覚えられ
	教えてもらう時は		ないときは、メモをするよ
	①じゃんけんの説明をきち	○理解できるようにし	うにすすめる。
	んと聞く。	っかり聞く。分から	18 No.
		ないことは質問をす	
		る。	
	②聞いた説明を言えるよう	○じゃんけんをしなが	
	に練習する。	ら、自分で説明がで	
	2	きるように言ってみ	
		て、分からないとき	
		は聞いて教えてもら	
		う。	
広	5 自分のグループにもどっ		・聞いた二人のうち、中心に
げ	て、他グループのじゃんけ		なる子が話し、もう一人は
る	んについて伝え合う。		よく聞いて足りないところ
	教えてもらった子は		を補足するようにすること
	今教えてもらったじゃん	○相手が分かるように	を確認する。
	けんを戻ってきた子に伝え	目を見て、聞きやす	
	て、実際にやってみる。	い速さで話す。	
	数 ラに分っていたでは	200 200000000000	
- 1	教えに行っていた子は	1	

	教えに行った時の気持ち を考えて、きちんと聞く姿 勢を取る。	1 37 27 37 37 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
深	6 教えてもらったじゃんけ	る。
める	んについて内容をまとめ、	
9	自分が受けた説明について 評価をする。	の友達に教えてもら に伝える。 う。
	7 2回目の移動をし、同じ ように繰り返す。教えに行 ったり教えてもらったりす	
まと	8 説明が上手だった友達を 発表する。	○良かった点をみんな ・今までの学習が生かさせて でたたえる。 いるか確かめるようにする。
める	9 自分の話し方、聞き方に	그는 그는 그는 그는 요요. 그는 그들은

- (3) 評 価
 - ① 学習の評価
 - 自分たちのじゃんけんを友達ができるように説明できたか。 (ワークシート)
 - 他のグループのじゃんけんの説明をしっかり聞くことができたか。 (ワークシート)
 - ② 学び合いの評価
 - 聞いたり伝えたりする活動に意欲的に参加できたか。

(評価カード・振り返りカード)

メモ

第1学年3組 国語科学習指導案

第4時限 1の3教室 指導者 大島奈保美

- 1 単 元 「たぬきの糸車」(「はるのゆきだるま」の発展)
- 2 単元目標

「はるのゆきだるま」

○ 様子を思いうかべながらお話の展開を読み取り、おもしろかったところを劇や音読 で発表する。

「たぬきの糸車」

- ほのぼのとした昔話の世界を味わいながら楽しく読む。
- 昔の人々の生活ぶりや、時代を経ても変わらない命に対するやさしい思いを読み取 る。
- 3 単元構想(16時間完了)

〈学 習 計 画〉

〈学び合いの場面〉

・物語の内容を想像して隣の子に話す。

隣同士確認し合う。

・正しい筆順で新出漢字が書けているか

・言葉の意味が分からないときは友達に

質問して、分かる子がみんなに教える。

- ○題名からどんな物語かを予想する。
 - (関心・意欲・態度) ①
- ○教材文を通読し、新出漢字や言葉の意味 について考える。(言語に関する事項)②
- ○登場人物に気をつけて場面分けをし、一から四場面について、人物の会話や行動、場面の様子を想像しながら「はるのゆきだるま」を読む。 (読む)③~⑦
- ・グループで相談しながら場面分けをす る。
- ・人物の気持ちや場面の様子について自分が考えたことをグループで話し合う。
- ・グループで話し合ったことを全体に伝 え、みんなで考えを深める。
- ○お話の好きなところを決め、視写し、そ の理由を書いたり話したりする。

(書く)(話す・聞く)⑧~⑩

・自分が好きな場面について、好きな 理由を友達に話す。

○音読発表会をし、他のグループの発表を聞いて感想をもつ。

(関心・意欲・態度)(話す・聞く)(読む)⑪~⑬

- ・気持ちや場面の様子が表れるように 読めているか聞き合う。
- ・友達と良かったところを認め合い、 自分の力にもなるように取り入れる。

○「たぬきの糸車」を読んで、いいなと思うところについて交流する。

(読む) (話す・聞く) 4015

- ・グループで読むとき、分からないこ とばについて話し合う。(教え合う)
- ・自分がいいなあと思ったところについて、友達と考えを交流する。

○どうぶつ図書館でいろいろな本を読んだ り好きな本を紹介し合ったりする。 (関心・意欲・態度)(読む)(話す・聞く)®

- ・自分が読んで良かったと思う本を、友達に紹介する。
- 教えてもらった本を進んで読む。

- 4 本時の学習(15/16)
- (1) 本時のねらい
 - ① 学習のねらい
 - 自分の思いを言葉で伝える。
 - お話の中のいいなと思うところをたくさん感じ、お話の楽しさを味わうことができる。
 - ② 学び合いのねらい

○ いいなと思うところを交流することによって、自分の気付かなかったお話の よさを知ることができる。

(2) 学習の設計

段	の 子省の設計 児童の活	動	T
階	学習活動	学び合い活動	教師の働きかけ
つかむ	 「たぬきの糸車」は、どんなお話だったかを思い出す。 今日のめあてと学習計画を知る。 	をしらせあって、おはな	・いくつかの質問をして、物語のあらすじを思い出せるようにする。 ・3、4人グループの確認をして、番号札を配る。
取り組む	3 お話を読んで、自分がいいなと思ったところを確認し、隣の友達に話す。 4 自分が特に気に入った箇所を決め、理由とともにワークシートに書く。		[1]
交流する	気に入った箇所と気に入った理由をグループで発表し合う。(3人または4人グループ)	○ お。まとえ っ、と がる、い教 しきた から 方しは。 を 関って入 のいに を で で のいに のいに の で で の で で の で で の で で の で で の で で の で で の で で の で	・気に入った箇所を示しなが ら、聞き手に分かりやすい 声の大きさと速さで、話形 に沿って発表することを確 認する。 ・番号札を付けて、順番に話
	入った箇所と気に入った理 由を発表し合う。	○グループの友達に教 えてもらったことを 生かして発表する。	と励ます。 ・よりよい発表ができるよう
感じる	教えてもらって、気付いたことや感じたことを発表する。 8 本時の学習について振り 返り、「たぬきの糸車」はよいところがたくさ確かめまることを確かめる。	○友達の発表をしっか りと聞き、多様な感 じ方があることを知 る。	具体例を挙げて述べるとよいことを知らせる。

(3) 評 価

- ① 学習の評価
 - 自分が選んだお気に入りの箇所やいいなと思った理由を、友達に上手に話す ことができたか。 (話し合い)
 - 物語のよさを味わいながら楽しく読むことができたか。

(態度)

- ② 学び合いの評価
 - 話したり聞いたりする活動に意欲的に参加できたか。 (ワークシート)

第2学年2組 国語科学習指導案

第4時限 2の2教室 指導者 荒木 陽子

- 1 単 元 主語とじゅつ語に気をつけよう
- 2 単元目標
 - 主語と述語の働きを理解して、主述のそろった正しい文を書くことができる。
- 3 単元構想(5時間完了)
 - 〈学習計画〉 〈学び合いの場面〉 ○教材文を通読し、新出漢字や言葉の意味 ・新出漢字は隣の友達が正しい筆順で書 について考える。 けているか確認しながら進める。 ○主語と述語とはどのようなものであるか ・自分の考えを隣同士で確認することに を理解し、今後の学習の見通しを持つ。 より、文の基本は主語と述語からなるこ ○例文から主語と述語を見つける。 と、主語と述語だけでも文ができること (言語に関する事項)① をおさえる。 ・二つの例文を読み比べ、文の違いをグ 〇教科書 P.61 上段の二つの例文を読み比 ループで考え、全体で確かめる。 べ、文の違いを考える。 ・文の視点を変えて書き換える問題をグ ○例文を使って、視点を変える練習をする。 ループで考え、他のグループと意見交換 (言語に関する事項)② を行い、全体で深める。 ○教科書 P.60 のさし絵から自由に文を作 ・グループで組になる言葉を集めたり分 り、主語と述語を見つける。 類したりする学習を通し、組になる言葉 ○作った文を使って、視点を変える練習を を確かめたり、広げたりして、語彙の拡 する。 (言語に関する事項)③ 充を図る。 自分の選んだ主語で文を作り、グルー プの友達と確かめ合う。 ○教科書 P.61 のさし絵をもとに、主語と
 - ○教科書 P.61 のさし絵をもとに、主語と 述語のそろった文を書く。
 - ○書いた文を発表する。

(書く)④

- · どの言葉が主語で、どの言葉が述語か を説明しながら発表をする。
- ·発表された文を音読し、主語と述語がある文か確認する。
- ○教科書 P.62「ことばの広場」で組になる 言葉を集めて語彙の拡充を図る。
- ○飲食にかかわる動作を表す言葉の使い方を学習する。
- ○組になる言葉に使われる漢字の練習をする。 (言語に関する事項)⑤

・グループで組になる言葉を集めたり分類したりする学習を通し、組になる言葉 を確かめたり広げたりして語彙の拡充を 図る。

4 本時の学習(4/5)

- (1) 本時のねらい
 - ① 学習のねらい
 - 主語と述語のそろった文を正しく書くことができる。
 - 自分が考えて書いた文の主語、述語について説明ができる。
 - ② 学び合いのねらい

○ 自分のグループや他のグループの文を読んで主語と述語が正しく照応しているかを確認し、伝え合う責任を果たすことができる。

(2) 学習の設計

_	2)		1		1) [汉口	11		_										SCALV.			_		_	_	_										
段胜					در	¥ 7	121 \	T	FeL.	児	直重	(の	活	動		227		^		1	art.						孝	女郎	jσ) 働	き	か	17			
階つ	-	-	-4-	- p-t-		学育				. ∌ r :	,	=	4	-		学	び	合	11	活	動	<u> </u>		1				_		100						
かか	0.775											気			+															か	思	. 11	出	せ	る	発
むむ	1		認				. '	E	9	9	_	と	2														す		~	1716	· Arr				40	L.
10	1					-	ぉ	7	ل		144	習	0											١.								にし				
	1					認				•	-1	E	(J																			0)	本	1	V	1
		ווע	. 4 0		щ	יבוים	, ,	۵	•																Z	刊	確	ñĊ	9	ත (0					
						Ì	語	٤	じょ	φ-	つ言	吾の	あ	る	文	ŧΙ	Εl	- <	(11	F∤	る	よ	う	に	な	3 ?	5 。									
取	3		3	ī	総	きを	見	ける	っカ	3 2	·	Ī	だ	Ö	友	達	ع	自	曲	に	意	見	交		<u>+</u>	ī	絵	か	見	7	考	ž	<i>t-</i>	言	華	や
り		n	. (1	可)	が	J	「何	丁を	: 1	7	·	る	J										た	1								い				
組		ſ	2	2	な	様	子	だ	J	を	話	L	合		ŋ	す	る	0														気				
む		う	0																														_			
	4		さ	L	絵	の	中	か	5	主	語	,	述	0	ど	の	言	葉	が	主	語	に	な		さ	L	絵	を	ŧ	2	に	見	つ	け	た	主
		語	に	な	る	言	葉	を	見	つ	け	る。	,		る	か		述	語	は	何	か	を		話	を	板	書	l	7	お	き	,	視	点	を
															話	L	合	い	な	が	5	確	認		変	え	7	言	11	換	え	て	Ł	ょ	V	2
	l														L												確									
																							質	10								る				** D2 **
														1						認	L	な	が									り		し	合	11
	_		24	1.13	~	la.	1	-	⇒x:	•		,	>		5																	える				
	Э	_	チへ	7	5	XL ₹E	にた	土	 一 一 一	の	中文	か	5	0																						2000
		二る		0)	土.	苗	Z	迭	\sim	Ć.	X	を	TF	l									ک €					考	え	る	5	う	に	指:	示	を
		6	0																				認	l lvs		る	- T	4	⇒ F	7"	1.1.		,		,,	
		6													l	15	7),	り;	進	(8)	٥,	0		•								で				200
	ĺ												0.00000																			的				
																																入を記				
																																と説				200
																							- 1									文文				
																											を						/,	11-	16	۵
	6		グ	ル	_	プ	の	友	達	に		L"	න	0	‡	語	や	沭	語	を	綽	で	75										1	H	た	e l
			葉	が	主	語	で	ど	の	言	葉	が	沭										間									速				
												を											7									5.		- 1	ш	1
		る	0												t										er (i		10.77.0 <i>4</i>	(COLUMN)		* .	os 118					
深	7		同	じ	主	語	を	選	6	だ	子	同:	士	0	自	分(2)	乍	つ	た	文	2	比	•	主	語	は	同	じ	で	Ł	,	述	語	かる	变
め		で	,	で	き	あ	が	つ	た	文	を	持	5		ベ	な	が	5	L	つ	か	り	聞									て			99 9	
る		寄	ŋ	意	見	交	換	を	す	る。	0				き、	. }	疑	問	に,	思	う	ح	ا ع		な	文	が	で	き	る	2	ح	を	お	*	2
															は	質	問	を・	\$	3 .	6				る											
														0	自	分(D:	考	え	が	ま	2	ま		主	語	と	述	語	が	あ	る	文	をイ	乍	3
																																の				- 1
															グ	ル・	-	プ	の;	友	達	に	教		長	<	な	<	7	ŧ	ょ	ļ١	Z	٤ :	をも	在
													1		え										認	す	る。	,								
	8	g	で	き	た	文	を	ホ	ワ	1	1	ボ・	-	0										٠	み	6	な	が	見	7	分	か	り・	やっ	すし	1
		K.	に	書	き	•	発	表	す	る。	0												り		書	き	方	が	で	き	7	١V	る	かる	確言	忍
															す								3.		す	る。	0									
															7			で	き	る	よ	う	に													
													ļ		す.	る。							- 1													

		○全員で音読し、主語	・全体での話し合いができる
	*	と述語がある文か確	ように机や体の向きを変え
		認をする。	るように指示をする。
ま	9 できた文を読んだ感想を	○友達の文と読み比べ	・今までの自分の文作りにつ
٤	発表する。	ることで、自分の考	いて振り返るように促す。
め		えを深める。	14
る		meso weeks too 182688	

- (3) 評 価
 - ① 学習の評価
 - 主語と述語のある文を作り、友達に分かりやすく説明できたか。 (ワークシート)
 - 友達や他のグループの説明・意見を聞くことで、文作りの基本を理解できた か。 (話し合い)
 - ② 学び合いの評価
 - 聞いたり伝えたりする活動に意欲的に参加できたか。

(話し合い)

メモ

第2学年3組 算数科学習指導案

第4時限 2の3教室 指導者 村瀬 秀子 2年ワーク 指導者 大澤 宏美

- 1 単 元 長い長さをはかろう
- 2 单元目標
 - 1 mをこえる身近なものの長さを、進んで見当をつけて測ろうとする。
 - 大きな長さの単位の必要性に気づき、1mをこえる長さを1mのいくつ分になるかを考えて数値化できる。
 - 1 mものさしを使って、手際よく長さを測ることができる。
- 長さの単位1mを知り、1mと1cmの単位の相互の関係を理解することができる。
- 3 单元構想 (6時間完了)

〈学 習 計 画〉

〈学び合いの場面〉

 \bigcirc 30cmものさしで測ることによって、 長いものさしの良さに気付き、これから 100cmをこえる長さについて学習す る意欲を持つ。(関心・意欲・態度)①

・両手を広げた長さをグループで一人ず つものさしで測るとき、正しくできてい るか確かめ合う。

○mの単位やmとcmの単位の相互関係が わかり、1mは自分の身長のどのあたり か調べ量感をつかむ。 (知識・理解)②

1 mの長さは、自分の身長のどこになるのかをグループで調べる。

○1 m以上のものの長さを予想し、いろい ろなところの長さの実測をする。

(表現・処理)(関心・意欲・態度)③

・ものの長さをグループで予想して実測 する。

・他のグループが測定した長さを確かめ合い、測定方法を身に付ける。。

- ○長さの単位や相互関係などについて復習 する。 (知識・理解)④
- 〇見当をつけて $1 \cdot 2 \cdot 3$ mのテープを作ったり、5 mのものさしをテープで作ったりして、長さの量感を高める。

(表現・処理)(関心・意欲・態度)⑤⑥

- ・見当をつけて作ったテープの長さをペ アで測る。
- ・5mものさしをテープで作り、いろい ろな長さをグループで測る。

4 本時の学習 (3/6)

- (1) 本時のねらい
 - ① 学習のねらい
 - 1 mを超えるものの長さを見当づけることができる。
 - 1 m以上のものを正しく測ることができる。
 - ② 学び合いのねらい
 - ものの長さをグループで測ったり、他のグループの測った長さを検討したりすることができる。
 - グループで協力して活動ができる。

(2) 学習の設計

選 学習活動	段	1 子自の設計	201	r
1 1 mの長さは、自分の身	5			教師の働きかけ
した しまする。		- Administration of the second		
世	1.550			
2 本時のめあてと、学習の 流れを確認する。	か		を確認し合う。	時につなげる。
 流れを確認する。	む	起する。		
1 mものさしでいろいろなものの長さをはかれるようになろう。 3 無板のたての長さを予想する。 4 代表児童の実測を見ながら、1 mものさしでどのように測るとよいか方法を知る。 5 いろいろな長さをグループで実測する。 「全員が平等に自合う。 6 他のグループに出かけ、正しい測定ができているが確認し合う。 「確認し合う。 6 他のグループに出かけ、正しい測定ができているがの児童は、隣方が正しいとうの別のでに対したの別のの見がしてもらうの児童は、隣方が正しいかどう。 関重し、先生に見てもらう。 「別定の結果をグループで見直し、先生に見てもらう。」 別定してもらうの別童は、検討した。 7 測定の結果をグループで見直し、先生に見てもらう。 「別定してもらうとの別を正しい方が正しいかどらららうの別童は、検討してもらったおららいの別を正したもらうといったもらう。」 別定した見などと思わらないように知らないように知らないように知ららいたがとうかが正しいかどう。 「別定してもらうとの別を強いしてもらったおし、では対してもらった知らがよかららいの別を対してもらった知らがよかららいの別を確かしてもらった知らながよかららいたがよりながないようにする。 「協力してもらったおしてい方法できたかどうかが正しい方法できたが振り返る。 「協力してきたかに対しい方法できたか振り返る。 「協力してきたか振り返る。 「協力してもらか」がよかったないというに対してもらいかららいましてもらいたがよからないようにする。 「協力してきたかが振り返る。 「協力してもいからいた」・振り返りカードに書くポイントについて知らせる。 「協力してきたか振り返る。		2 本時のめあてと、学習の		・本時の流れをカードで提示
		流れを確認する。		する。
# 本		1 mものさしでいろ	いろなものの長さをはか	れるようになろう。
# 本		り、関拓のなての目となる相	O Z # o # L + + L *)	THE STATE OF THE S
確			[- ^ ^ ^] [[[[[]]] [[]] [[]] [[]] [] [] [] [] [] [] [] [] [] [] [[]	All arranged to the transfer of the state of
確か		9 0 0	LOUIS TO THE TOTAL OF THE PARTY	
か			る。	
の うに測るとよいか方法を知る。		S. PERSONAL TRANSPORTER AND PROPERTY OF THE PR		・実測するのを見ながら、留
る。	か	[1]	=	意点に気付くように支援す
取り で実測する。 「で実測する。 「で実測する。」 「で実測する。 「企業のでででででででででででででででででででででででででででででででででででで	8)	うに測るとよいか方法を知		る。
取り で実測する。 ○役割分担して能率よく正確に測る。 ○全員が平等にできる。 ・グループ別に測る場所を指定した用紙を渡す。 ・グループ別に測る場所を指定した用紙を渡す。 ・グループ別に測る場所を指定した用紙を渡す。 ・グループの ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	る	る。		・予想した長さと測定結果を
プで実測する。				比べるように指示する。
日	取		○役割分担して能率よ	・グループ別に測る場所を指
は ように配慮し合う。	り	プで実測する。	く正確に測る。	定した用紙を渡す。
は ように配慮し合う。 定するように指示し、二人で目盛りを読むように伝える。 長さの多少の誤差は出てくる。 長さの多少の誤差は出てくると思われるので、あまりをでは、 測定してもらうで、 測定してもらうでで、 測定の結果をグループでは、 検討してもらう。	組	,Q.)	○全員が平等にできる	・必ず、予想をしてから、測
で 日盛りを読むように伝える。 で 日盛りを読むように伝える。 で 日盛りを読むように伝える。 ・ 長さの多少の誤差は出てくる。 ・ 長さの多少の誤差は出てくると思われるので、あまりでは、横する役に分かれて、測定してもらうでで、測定の結果をグループに測り方が正しいかどうか、確認してもらう。 で 測定の結果を全体にも返し、 で 割定し、先生に見てもらう。 で 測定の結果を全体にも返し、 の 児童は、検討してもらった結果をグループに知らせ、 かどうか確かめる。 を 本時の振り返りをする。	む	8		
で 6 他のグループに出かけ、正しい測定ができているか確認し合う。			TO THE STATE OF TH	で目盛りを読むように伝え
(できているかできているかでは、) 測定してもらう役と 点検する役に分かれて、測定してもらう役を ると思われるので、あまり役の児童は、隣のグループに測り方が正しいかどうか、値記してもらう。 () 測定の結果をグループに しいからう。 () 測定の結果を全体にも返し、見直し、先生に見てもらう。 () 別定は、検討してもらった結果をグループに 知らば、 検討してもらった結果をグループに 知らば、 からの生活に役立てられるようにする。 () 別定がよかったかどうか確かめる。 は 8 本時の振り返りをする。 () 協力して正しい方法で測ることができたか振り返る。			= 14	
正しい測定ができているか	深	6 他のグループに出かけ、	○測定してもらう役と	
ででは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	め		A STATE OF THE PARTY OF THE STATE OF THE STA	[
で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	る	A CONTRACTOR OF THE PROPERTY O		
ループに測り方が正しいかどうか、確認してもらう。				
しいかどうか、確認してもらう。			1 seeman and dispense of the many of the seeman of	2 43 1 6
7 測定の結果をグループで 見直し、先生に見てもらう。 児童は、検討してもらう役の 児童は、検討してもらった結果をグルー プに知らせ、自分たちの測定がよかったかどうか確かめる。 ** 8 本時の振り返りをする。 ○協力して正しい方法・振り返りカードに書くポイで測ることができたかようについて知らせる。 か振り返る。			그 그녀는 그 그런 그리닷터넷에 발탁하셔요 보였는 것들이	
7 測定の結果をグループで 見直し、先生に見てもらう。 児童は、検討しても らった結果をグルー プに知らせ、自分た ちの測定がよかった かどうか確かめる。 *** *** *** *** *** *** *** *** *** **		E)		
見直し、先生に見てもらう。 児童は、検討しても これからの生活に役立てららった結果をグルー プに知らせ、自分たちの測定がよかったかどうか確かめる。 8 本時の振り返りをする。 ○協力して正しい方法・振り返りカードに書くポイで測ることができた ントについて知らせる。 か振り返る。		7 測定の結果をグループで	=2/	御戸の休用な人供はする」
らった結果をグルー プに知らせ、自分た ちの測定がよかった かどうか確かめる。 ま 8 本時の振り返りをする。 ○協力して正しい方法 ・振り返りカードに書くポイ で測ることができた ントについて知らせる。 か振り返る。		0.5		
プに知らせ、自分た ちの測定がよかった かどうか確かめる。 ■ 本時の振り返りをする。 ○協力して正しい方法 ・振り返りカードに書くポイ で測ることができた ントについて知らせる。 か振り返る。		光色し、九主に兄 こもろう。		
ちの測定がよかった かどうか確かめる。 ま 8 本時の振り返りをする。 ○協力して正しい方法 ・振り返りカードに書くポイ で測ることができた ントについて知らせる。 か振り返る。				れるようにする。
かどうか確かめる。 ま 8 本時の振り返りをする。 ○協力して正しい方法 ・振り返りカードに書くポイ で測ることができた ントについて知らせる。 か振り返る。		}		
* 8 本時の振り返りをする。 ○協力して正しい方法 ・振り返りカードに書くポイ で測ることができた ントについて知らせる。 か振り返る。				
で測ることができた ントについて知らせる。 か振り返る。		WITH THE WAS TO SEE THE SEE TH		
か振り返る。	20012.0	8 本時の振り返りをする。	the second account of the second of the seco	・振り返りカードに書くポイ
7.7.2.30	2		1	ントについて知らせる。
5	め		か振り返る。	
	る			

(3) 評 価

- ① 学習の評価
 - いろいろな場所の長さを見当して、留意点に気をつけながら実測できたか。

(ワークシート)

○ 長さを測る活動に意欲的に参加できたか。

(振り返りカード)

- ② 学び合いの評価
 - グループで協力して活動できたか。

(座席表)

第3学年2組 国語科学習指導案 第4時限 3の2教室 指導者 吉田 清美

L 単 元 サーカスのライオン 2 単元目標	
○ 物語の中心となる人物の気持ちを考えた ○ 心に強く残った場面の感想を、自分なる 単元構想(15時間完了) 〈学 習 計 画〉	
○教材文を通読し物語の大体をとらえる。 初発の感想を書き交流し、今後の学習の 見通しを持つ。 (関心・意欲・態度)①	
○新出漢字や言葉の意味について考える。 (言語に関する事項)②	・画数の多い漢字や間違えやすい漢字の 筆順や意味・使い方などをグループの友達と確認しながら進める。
○男の子と出会う前のじんざの境遇や気持ちを読み取る。 (読む)③ ○男の子と出会ったじんざの気持ちを読み取る。 (読む)④ ○男の子がおりをたずねてくるようになってからのじんざの気持ちを読み取る。 (読む)⑤ ○火事の場面でのじんざの気持ちを読み取る。 (読む)⑥ ・サーカスの最後の日の様子や、お客の気持ちを読み取る。 (読む)⑦	・グループで話し合い、じんざの境遇に ついて読み取る。 ・じんざの気持ちを吹き出しに書き、グ ループで話し合って考えを深める。 ・2回目のグループ活動を行い、表現の 良い吹き出しを選ぶ。
○一番強く心に残った場面を選び、音読発表会で発表できるよう計画し練習する。 (関心・意欲・態度)®⑨ ○ペアのグループで中間発表会をし、さらに発表の工夫をする。(話す・聞く)⑩⑪	登場人物の気持ちや様子を想像して読めているか聞き合いながら練習する
○全体の発表会をして、感想を交流したり、 上手に発表できた友達の良いところを話 し合ったりして、学習のまとめをする。 (話す・聞く)⑫⑬	 If a product of the control of the con
○心のふれあいを描いた他の物語を読み、 友達と交流する。 (関心・意欲・態度)⑭⑮	・今までの読書経験を生かし、心のふれ あいを描いた物語を友達と紹介し合い、本を選ぶようにする。

- 4 本時の学習(6/15)
 - (1) 本時のねらい

- ① 学習のねらい
 - 物語の中心となる人物の気持ちを考え、吹き出しに書くことができる。
 - グループで練り上げた吹き出しを、2回目のグループの友達にきちんと伝える ことができる。
- ② 学び合いのねらい
 - 友達の良いところを見つけ、認め合うことができる。
- (2) 学習の設計

段	T	児童の活動	th contract the same of the sa	
階		学習活動	学び合い活動	教師の働きかけ
つ	1	本時のめあてと、学習の		・前時の様子を思い出させる
か		流れを確認する。	の良かったところを	ようにする。
む		主人公の気持ちを想像し	思い出す。	・前時までに確認した2回の
		て吹き出しに書き、発表す	5555750 S XVIIIA 40 900"	グループ活動の流れを再確
		ることを確認する。		認する。
			じんざの気持ちを読み取	- III-
	h	及達の考えを聞くこと	でさらに深く考えられる	ようにしよう。
取	2	火事が起きたときのじん (○ 発表している友達	・じんざの行動に注意して本
n		ざの様子や気持ちが表れて		文を読むように指示する。
組		いるところをさがし発表す	うにする。	
む		る。		
	3	自分の考えをワークシー(○ グループの友達が	・困っている友達に声をかけ
		ト①の吹き出しに書き、グ	聞き取りやすい声の	ている児童を賞賛する。
		ループで互いの考えを発表	大きさで話す。	・時間を意識するようにさせ
		2	○ 自分の考えがよく	る。
	•	文中のどの言葉や文章か	伝わるように、ワー	・注目した言葉や文章をメモ
		ら想像したのかをはっきり	クシートを見せなが	しておくとよいことを伝え
gallet.		させて話すようにする。	ら発表する。	る。
深		友達の発表を参考にし、		・より良い表現にしようと努
め		各自の表現を推敲してワー		力する児童の姿を賞賛する。
る		クシート②に書く。	200 - 80-0 100 1 801 000 U 100 000 1 100 000 U	
		The second secon	〇 じんざの男の子に	・必ず全員の良い所を見つけ
		互いの吹き出しを紹介し、	対する思いがよく伝	附箋をはるようにする。
		グループの中からおすすめ	わってくる吹き出し	・代表が決まったグループか
		の吹き出しを一つ選ぶ。	に附箋をはり、附箋	ら、吹き出しをホワイトボ
			の一番多かった吹き	ードに書き込むようにする。
			出しを代表にする。	
4		AP II — P on / h - t on at - t ii /		
よ	б	クルーフの代表の吹き出 (・今までの学習が生かされて
とし		しを読み、本時のまとめを	をしっかり聞く。	いるか確かめるようにする。
めっ		する。		
る	7	次在 3 元本 1 日 7 3 品 0 1 C	〕 良かった点をみん	
		方、聞き方について振り返	なでたたえる。	1
		3.		
(3)	評 価		

- (3) 評 価
 - ① 学習の評価
 - 物語の中心となる人物の吹き出しを考え、理由をつけて紹介することができたか。 (ワークシート)
 - 友達の意見をしっかり聞き、自分の考えを深めようとすることができたか。
 - (ワークシート)
 - ② 学び合いの評価
 - グループの話し合いで、友達の良いところを見つけることができたか。

(振り返りカード)

第3学年3組 国語科学習指導案

第4時限 3の3教室 指導者 石田 洋子

1	単	元,	サー	力	ス	0	ラ	1	才	2	-
								100			

- 2 単元目標
 - 物語の中心となる人物の気持ちを考えながら読み取ることができる。
 - 心に強く残った場面の感想を、自分なりの方法を選んで表現することができる。
- 3 単元構想(15時間完了)

〈学 習 計 画〉

〈学び合いの場面〉

○教材文を通読し物語の大体をとらえる。 初発の感想を書き交流し、今後の学習の 見通しを持つ。(関心・意欲・態度)①

・初発の感想をペアの友達に見せながら 話し、友達の感想をみんなに紹介する。

○ 新出漢字や言葉の意味について考える。 (言語に関する事項)②

・画数の多い漢字や間違えやすい漢字の **筆順や意味・使い方などをグループの友** 達と確認しながら進める。

- ○男の子と出会う前のじんざの境遇や気持 ちを読み取る。 (読む) ③
- ○男の子と出会ったじんざの気持ちを読み (読む) ④
- ○男の子がおりをたずねてくるようになっ てからのじんざの気持ちを読み取る。

(読む)⑤

- ○火事の場面でのじんざの気持ちを読み取 (読む)⑥
- ○サーカスの最後の日の様子や、お客の気 持ちを読み取る。 (読む) ⑦
- 理由をはっきりさせてサーカスの中の じんざの境遇を読み取り、グループで話 し合う。
- ・じんざの気持ちを行間に書き込み、グ ループで話し合って考えを深める。
- ・グループで話し合った気持ちや考えが よく表れるように読む。
- ○いちばん強く心に残った場面を選び、音 読発表会で発表できるよう計画し練習す (関心・意欲・態度)⑧⑨
- ○ペアのグループで中間発表会をし、さら に発表の工夫をする。(話す・聞く)⑩⑪
- ・グループで印象に残った場面を決め、 登場人物の気持ちや様子を想像して読め ているか聞き合いながら練習する。
- ・友達の音読を聞き、気がついたことを アドバイスし合う。
- ○全体の発表会をして、感想を交流したり、 上手に発表できた友達の良いところを話 し合ったりして、学習のまとめをする。 (話す・聞く) ② ③
- ・人物の気持ちが伝わるように工夫して 音読している友達の姿を認め合い、その 理由も発表する。

○心のふれあいを描いた他の物語を読む。 (関心・意欲・態度)(4)(5)

・今までの読書経験を生かして、心のふ れあいを描いた物語を友達と紹介しあっ て、選ぶようにする。

4 本時の学習 (5/15)

- (1) 本時のねらい
 - ① 学習のねらい
 - 男の子とのふれあいを通して変わっていくじんざと男の子の気持ちを考え、行間に書き込むことができる。
 - じんざと男の子の気持ちをグループで話し合うことができる。
 - ② 学び合いのねらい
 - 友達の良いところを見つけ、互いに認め合うことができる。
- (2) 学習の設計

段	児童の活	# h	
階	70至7日	学び合い活動	教師の働きかけ
_	1 本時までのあら筋を振り		757 1 .bb. 10 1 .b. 10 10 EE .c.
か	返る。	子との出会いの場面	・寂しかったじんざが、男の
む		で、心に残っている	
	L THE OF SOID CE HE DO 9 SO	ことをペアで話し合	を思い出させるように声を
		う。	かける。
		, o	ル· い る。
	じんざと男の子の様	子や気持ちがよく表れ	ている言葉を目つけ
	二人の気持ちを考えよ		ている日来と兄ろけて
	3 学習の流れと自分たちの	•••••••	・前半はペアでじんざと男の
Ä	グループの動きをつかむ。		子の気持ちを考えること、
取	4 じんざと男の子の様子や	○線を引いた言葉をペ	
り	気持ちが表れている言葉を	アで確認し合う。	ことを確認する。
組	見つけ、傍線を引く。	○傍線を引いた理由を	・それぞれの活動時間の割り
む		相手にわかりやすく	振りを提示する。
		説明する。理解でき	・手がかりになる言葉に傍線
		るようにしっかり聞	を引く活動は、まず、個人
-		< 。	で行ってからペアで確認す
		○理由が上手に言えな	ることを指示する。
		いときは、一緒に考	・じんざの気持ちの変化を表
		える。	す言葉に着目するように声
		○分からないことは質	
	と男の子の気持ちを行間に	問してペアで考えを	・じんざの動きを動作化しな
	書き込む。	まとめる。	がら、気持ちをつかむよう
		○違う考えの場合は相	
		手が理解できるよう	・会話文に含まれる「」
		に説明する。	にはどんな気持ちがかくさ
			れているのか考えるよう促
			す。
			・病気で入院していたり退院
			したりするときの気持ちは、
			子どもたちの体験を聞きな
	1		がらふくらませていくよう
深	6 ワークシートに書きコリ	○1、21、2 た気性より	に助言する。
体め	6 ワークシートに書き込んだ内容をグループで話し合	○いろいろな気持ちか 出るようにグループ	
る	た内谷をグループで話し合う。	出るようにクルーソ で話し合う。 -	合いが順調に進んでいるか
٦		○国語のリーダーを中	確認する。
ĺ	1	一 心に話し合いを進め	1
	1	る。	1
ļ	1	0	

広げる	7 気持ちを考えながら第三 場面を読む。	男の子、地の文を読む人の役割分担をす	・とくに会話文に気持ちをこ
	8 代表のグループが音読す る。	る。	・気持ちや様子が分かる読み 方ができたことを賞賛する。
ま	9 課題への取り組みと学び	○自分の振り返りをし	
2	合いについて振り返る。	た後、友達に本時の	こと、分かったことが共に
め	2007 - 1 450 = 4500	感想を伝える。	共有できるような振り返り
る		○良かった点をみんな でたたえる。	にする。

- (3) 評 価
 - ① 学習の評価
 - じんざと男の子の気持ちが分かる言葉に線を引き、行間にその気持ちを書くことができたか。 (ワークシート)
 - グループの話し合いで、自分の意見を進んで言うことができたか。 (観察)
 - ② 学び合いの評価
 - ペアやグループで相談したり音読したりする活動に意欲的に参加できたか。 (観察・振り返りカード)

メモ

第4学年1組 体育科学習指導案

第4時限 体育館

指導者

木島美保子 小倉 正愛

- 1 単 元 跳び箱運動 (器械運動)
- 2 単元目標
 - 跳び箱運動の技の楽しさを求めて、友達と励まし合い、協力し合って、安全に気 をつけて意欲的に取り組もうとする。
 - 自分の力に応じためあてを持ち、その達成のための練習場所や練習の仕方を選び、 計画的に練習することができる。
 - 今できる技のできばえを高めたり、新しい技ができる。
- 3 単元構想(6時間完了)

〈学 習 計 画〉

〈学び合いの場面〉

- ○学習のねらいや進め方を理解し、グループで役割分担をして、学習の見通しを持つ。 (関心・意欲・態度)
- ○3年生での跳び箱遊びをもとに、自分が できるいろいろな跳び越し方を試して、 自分の力を知る。

(思考・判断)(技能) ①

- ・練習の場づくりや片付けなど、安全に 気を付けながら、友達と協力して手際よ く行う。
- ・生活グループのメンバーで、声をかけ 合い、励まし合いながら、楽しく跳び箱 運動をする。
- ○助走・踏み切り・着地までの一連の動作 が調子よくできたかをグループで互いに 見合い、声をかけ合って、楽しく跳ぶ。 (関心・意欲・態度)(技能)
- ○跳び越し方のできばえをよくしたり、がんばれば跳べそうな高さや種目に挑戦したりして、跳び箱運動を楽しむ。

(思考・判断) ②~⑤

- ・授業の前半は、生活グループのメンバーで4種類の跳び方の場を順に回っていく中で、教え合い励まし合う。
- ・授業の後半は、チャレンジグループでペアの友達に見てほしい所を伝え、跳んだ後どうだったか友達に聞いたり、ペアの友達の跳び方をみて、アドバイスしたりして、互いに励まし合う。

○発表会で友達の良いところを見つける。 (関心・意欲・態度)(思考・判断)

○チャレンジして、技能向上した跳び越し 方を発表する。 (技能)⑥ ·学習の成果を発表し、互いの良いところやがんばりを見つけて、発表し合う。

- 4 本時の学習(3/6)
 - (1) 本時のねらい
 - ① 学習のねらい
 - 自分に適した課題を持ち、互いに教えあったり、励まし合ったりしながら、安全に気を付けて跳び箱運動を楽しもうとする。
 - 能力に応じて、自分に合った練習方法を選択し、跳び箱の使い方を工夫して運動できる。
 - 横向き、または縦向きの跳び箱で、助走・踏み切り・着地までの一連の動作が 調子よくできる。
 - ② 学び合いのねらい
 - 友達の演技を見て、アドバイスしたり、賞賛したりすことができる。

(2) 学習の設計

_	一 子自の設計	
段階	児童の活動 学習活動 学び合い活	動教師の働きかけ
つかむ	1 集合、整列、あいさつをする。	・健康観察をし、子どもたちの状況を把握する。 … T1・見学者には、体育メモを配布し、学習内容を記録するように指示をする。 … T2
	2 準備体操をグループごと ・きちんとでき にする。 か見合って声 ・ストレッチ体操 ・補強運動	ている・足打ち、馬跳びなどの補強
	3 本時のめあてを確かめ、 学習の見通しをもつ。	・学習のめあてを確認させ、 学習の進め方をつかませる ようにする。 … T1
	自分の跳べそうな高さや、種目	にチャレンジしよう。
	4 本時の自分のめあてを確認する。	・挑戦する技のところにネー ムプレートが貼付してある ことを確認する。 … T2
取り組む	5 グループごとにそれぞれ の種目の練習する。 (ローテーション) 開脚跳び→下向き横跳び ↑ ↓	試技を 言し合いながら、練習する 切りを よう指示する。 付き方・4 種類の跳び方を順番に跳 地を見 ばせることで、それぞれの 励まし 技について、自分の調子を つかませる。
深める	6 跳びこし方別のグループになり、自分のめあてに向かって練習する。 ・開脚跳び・台上前転・かかえこみ跳び・下向き横跳び 7 簡単な発表会を行う。	・開脚跳び・下向き横跳び … T2 だに気 ・いろいろな場を設定し、各を友達 自が自分のめあてに向けて 挑戦できる場を選ばせるよ
まとめる	8 本時の学習を振り返り、 次時のめあてをつくる。	・めあてが達成できたか話し 合わせ、満足感と次の技へ 挑戦する気持ちを高めれる ようにする。 … T1 ・単に跳びこせる高さのみを

整理運動をする。

10 後片付けをする。

友達と協力して片付 ける。

追求するのではなく、技の できばえもめあてとして持 たせられるようにする。

- ・伸び伸びと行わせ、体をリ ラックスさせる。 … T1
- ○体育係の子を中心に一・安全に気をつけ、手際よく 片付けさせる。

(3) 評 価

- ① 学習の評価
 - 安全を確かめ、友達と協力し合って、跳び箱運動を楽しむことができたか。

(観察)

○ 自分のめあてを持ち、技量に合った練習場所で工夫して練習できたか。

(観察・発表)

○ 助走・踏み切り・着地の一連の動作が、調子よくできたか。

(観察・発表)

- ② 学び合いの評価
 - 友達の演技を見て、アドバイスしたり、励ましたりできたか。 (観察・発表)

メモ

第5学年1組 家庭科学習指導案

第3時限 5の1教室 指導者 若原 公代

1	題	材	くふう	しよう	! か	しこ	い生活
	100000	57.75	90 00 00			_	

- 2 題材目標
 - 身の回りの整理・整とんを通して、物の使い方や買い物に関心をもつことができる。
 - 身の回りを快適に整えたり、地域・環境に配慮した生活の仕方を工夫したりすることができる。
 - 身の回りの整理・整とんやそうじができる。
 - 整理・整とん、そうじの手順、不用品の活用の方法や適切なごみの始末のしかた、 計画的な物の使い方や買い方を理解することができる。
- 3 題材構想(15時間完了)

〈学 習 計 画〉

〈学び合いの場面〉

○快適に生活できる住まいについて話し合い、今後の学習の見通しを持つ。

(関心・意欲・態度) ①

・住まいの問題点を挙げながら、快適な 住まいの条件について考えを出し合う。

・自分の生活を見つめ直し、経験から意 見を言えるようにする。

- ○学校のよごれ調べをする。 (技能)②
- ○そうじの手順や方法を考え、クリーン作 戦の計画を立てる。 (創意工夫)③
- ○家庭科室や教室などでクリーン作戦を実 行する。 (技能) ④⑤
- ○わが家のクリーン作戦を立てる。

(創意工夫)⑥

- ○わが家のクリーン作戦を実行する。
 - 〈家庭〉
- ○わが家のクリーン作戦の結果を発表し合 う。 (創意工夫)(技能)⑦
- ・よりきれいになる掃除の作戦をグループで立て、協力して実践する。
- ・わが家のクリーン作戦の結果をわかり やすく説明し、いろいろな方法をみんな で交流する。

○不用品の活用方法を考え、話し合う。

(創意工夫)⑧

- ○ごみの始末のしかたで工夫していることを調べ、発表する。
 - (関心・意欲・態度) ⑨⑩
- ○学校や家庭で出るごみの適切な始末のし かたを考える。 (創意工夫) ①
- ・自分の考えを持ち、グループで話し合い全体に伝え、みんなで考えを深める。
- ・よいアイディアがあれば、みんなで認 め、たたえあう。
- ○くらしとお金の関係について話し合う。 (関心・意欲・態度) ⑫
- ○購入の意志決定のシミュレーションを行う。 (技能) (3)
- ○商品の情報を集める方法について話し合い買い物計画を立てる。 (創意工夫)⑭
- ・自分の経験を生かしてわかりやすく発 表し、全体に伝える。
- ・友達の発表をしっかり聞いて考えを深め、自分の生活に役立てる。

○学習を振り返り、これからの生活に生か ずことを話し合う。

(関心・意欲・態度) 15



・よいアイディアを取り上げ、実践意欲 を高め合う。

4 本時の学習 (7/15)

- (1) 本時のねらい
 - ① 学習ねらい
 - よごれの種類、クリーン作戦の方法、家庭での実践、家族の反応などを分かり やすく発表することができる。
 - 友達の発表を聞き、自分の家に合ったそうじの方法を見つけることができる。
 - ② 学び合いのねらい
 - それぞれのグループで発表されたそうじの方法を交流し合い、さらによい方法 を考えることができる。
- (2) 学習の設計

段	児童の活	動	#L 155 CD 154 2 1 1 1 1				
階	学習活動	学び合い活動	教師の働きかけ				
見	1 わが家のクリーン作戦を		・それぞれの家庭での実践を				
2	ふり返る。		想起させる。				
め	2 本時のめあてと、学習の		・本時の課題と学習の流れを				
る	流れを確認する。		黒板に明示する。				
		L	L				
	わが家のクリーン作戦の新	5果から、よりよい方法:	を考えられるようにしよう。				
32-							
追	3 わが家のクリーン作戦の						
究	結果をグループで発表し合						
す	う。	Name and the second of the second of					
る	①順番に発表する。	○グループの友達にわ					
	・場所	かりやすく要点をま					
	・よごれの種類	とめて説明する。	く発表するように助言する。				
	・そうじの方法	〇他のグループの友達					
	・工夫した点	にも正しく伝えるこ					
	・家族の反応 など	とができるようにし	の結果を教え合うように促				
	②質疑応答する。	っかり聞き取り、メ	す。				
	③感想を述べ合う。	モを取る。	-				
	4 発表し合ったことを他の						
	グループと交流する。	○聞く人が分かるよう					
	説明する子は	に資料を活用しなが	・他のグループへ取材に出か				
	①まずは自分の実践を説明	らていねいに説明す	ける子と残って説明する子				
	する。	る。	に役割分担をさせる。それ				
	②次に聞き取りメモを参考		ぞれの役割を理解し、責任				
	にしながら、友達の実践		を果たせるように促す。				
	を知らせる。		・移動の仕方のルールを確認				
	③グループの中でお勧めの		する。				
	方法があれば詳しく説明		・制限時間を意識するように				
	する。		呼びかける。				
	取材する子は	○友達の説明を最後ま	_				
	①自分のグループに分かり						
	やすく伝えるためにしっ	らないことは質問す					
	かりメモを取る。	る。	-				
	②分からないことがあれば						
	質問する。	1					
	5 自分のグループにもどっ	1					
	て、他のグループの情報を	_					
	伝え合う。						
	①教えてもらったそうじの		・机間巡視をし、話し合いの				
	方法を分かりやすく説明		様子に応じて助言する。				
	する。	心がける。					
	②感想をワークシートに記	○初めて知った方法に	・これから自分が挑戦してみ				

	入する。 ③教えてもらった方法を参 考にしてさらによい方法 を話し合う。		たいそうじ方法を発見する ように呼びかける。
生かす	6 本時の学習を振り返る。 ①友達のクリーン作戦でよいと思ったことを発表する。 ②これから自分が実践したい方法を発表する。	○よかった点をみんな でたたえる。	・継続していくことができる そうじ方法が大切であるこ とを確認する。 ・今日の学習を今後の生活に 生かしていくことを呼びか ける。

(3) 評 価

- ① 学習の評価
 - わが家のクリーン作戦の結果を友達に分かりやすく説明することができたか。 (話し合い)
 - 友達の発表や話し合いを参考にして、自分に合った方法でそうじをしようという意欲を高めることができたか。 (ワークシート)
- ② 学び合いの評価
 - 聞いたり伝えたりする活動に意欲的に参加できたか。

(振り返りカード)

メモ

第6学年1組 社会科学習指導案

第4時限 6の1教室 指導者 橋本 敦史

- 1 単 元 日本と関係の深い国々
- 2 単元目標
 - 我が国と経済や文化等の面でつながりが深い国の人々の生活の様子に関心を持つ。
 - 外国の人々と共に生きていくためには異なる文化や習慣を理解し合うことが大切で あることが分かる。
 - 友達と協力して諸外国の現状を調べ、グループの友達に伝えることができる。
- 3 単元構想 (6時間完了)

〈学 習 計 画〉

〈学び合いの場面〉

- ○日本と結びつきの深い国を調べる学習の進め方を確認する。○グループでアメリカ・韓国・サウジアラビア・中国ブラジルの中から一人1国選ぶんで分担を決める。
- ○参考になる図書などを調べる。

(関心・意欲・態度) ①

・グループで話し合って5か国に分かれ 同じ国を選んだ友達同士で学習計画を立 てる。

- ○同じ国を選んだ友達といっしょに、インターネットやいろいろなものを使って調べる。
- ○調べたことをワークシートにまとめる。
- ○調べたことを自分のグループの友達に説 明するための練習をする。

(関心・意欲・態度)(技能・判断) (知識・理解)②~④

- ・インターネットを使って見つかった情報は、同じく国のグループ内で共有しながら調べていく。
- ・調べたことを情報交換して、内容を取 捨選択しながらまとめていく。
- ・まとめる段階で、友だちにアドバイスをおくる。
- ・同じ国のグループ内でうまく説明できるように聞き合って練習する。
- ○自分で選んだ国について自分のグループ の友達に説明をする。
- ○友達の説明をしっかり聞いてメモを取る。 (技能・表現)(知識・理解)⑤

・自分で選んだ国について友達に分かってもらえるように説明する。

・友達の説明がよく分かるようにしっか り聞く。

○情報交換で得た内容を基に、5か国と日本との結びつきについて考え、学習のまとめをする。

(関心・意欲・態度)(思考・判断)⑥

・友達から聞いたことを基に、5か国についてまとめていく。

4 本時の学習(5/6)

- (1) 本時のねらい
 - ① 学習のねらい
 - 自分で選んだ国について、グループの友達に分かりやすく説明することができる。
 - グループの友達から聞いた説明をしっかり聞いて理解する。
 - ② 学び合いのねらい
 - 調べたことを、自分のグループの友達に分かりやすく伝えたり、聞き取ること でお互いの学習を深め合う。
- (2) 学習の設計

段	児童の活	動	T
階	学習活動	学び合い活動	教師の働きかけ
2			
か	の国についての情報交換を		
む	를 받는 사람들이 되었다. 그렇게 보고 있는 그는 그렇게 되었다면 보고 있다면 보고 있다면 보다 되었다. 그렇게 되었다면 보다 되었다. 그리고 있다면 보다 되었다면 보다 되었다.		
	2 本時のめあてと、学習の		・前時までの活動を生かすよ
	流れを確認する。	G.	うに指示する。
			7 1 32 3 7 0 0
	外国につい	ての説明をきちんと聞き	取ろう。
取	3 自分のグループの友達と	○友達がワークシート	・制限時間を意識するように
n	各国の情報交換をする。	に確実に書き残せる	
組	①アメリカについて説明を		
む	聞く。	説明をする。	るように指示する。
(500)	☆学校制度	7/	・よく分からないところにつ
	☆食事	きるようにしっかり	1
	☆言語	聞く。	もらうように助言する。
	☆祭や文化	17 T N	
	☆日本との結びつき		
	②メモを取り、分かりづら		・メモを元に学習していくこ
	かったことやもっと知り		とを意識するように声をか
	たいことを質問する。		ける。
	③説明の評価をする。		・聞きやすい説明だったかと
17	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		いう点についてのみに絞る
1			ように、気をつけさせる。
	4 韓国・サウジアラビア・		
	中国・ブラジルと順に説明		
	を聞く。		
ま	5 友達の発表について互い	○ワークシートに書き	
と	に振り返る。	込み、友達に伝える。	
め	6 次時には、情報交換した		・特に日本との結びつきにつ
る	5か国についてまとめるこ		いて考えることを示唆する。
	とを知る。		A STATE OF THE STA
(3) 評 価		

- (3) 評 価
 - ① 学習の評価
 - 外国の国について調べたことをグループの友達に説明できたか。(説明の様子)
 - グループの友達の説明をしっかり聞くことができたか。

(聞く様子・ワークシート)

- ② 学び合いの評価
 - 説明したり聞いたりする活動に意欲的に参加できたか。

(活動の様子)

仲よし1組 生活単元学習指導案 第4時限 仲よし1教室 指導者 高木真由美

- 1 単 元 すみえきょうしつ
- 2 単元設定の理由

本校ではいろいろな方と交流する機会を意図的に設定している。特殊学級では、地域の方を支援者としてお迎えしたり、デイサービスの方と交流したりしている。特殊学級児童が将来地域で生きていく時に障害を理解し支援してくださる地域の方を増やしておくことが必要だと考えているからである。

支援者と特殊学級で墨絵、珠算、習字、手遊びの活動をしたり、交流学習に付き添ってもらい交流学習で楽しく有意義な時間が過ごせるようにしたりしている。老人のデイサービスの方とは、双方が楽しめる活動を計画し定期的に交流している。

本単元の墨絵の授業は、担任や支援者も児童と同じように講師に教えてもらう立場に立ち、サークル活動の疑似体験ができる設定にしている。墨絵が趣味に発展しなくても、将来地域のサークル活動に参加する時に役立つようなコミュニケーションスキルを学ぶことで、将来の有意義な余暇の過ごし方につながって欲しいと考えている。

大人が学び合う姿を見て、子どもが学び、子どもと共に学ぶことで、また大人が学ぶ という学び合いの楽しさを実感し、技能の向上を喜び合える授業を目指している。

- 3 単元のねらい
 - 担任や支援者と共に墨絵を描く学習を通して、異年齢の集団で学び合う楽しさを味 わい、社会性を養う。

4 目指す姿

活動		目指す姿		
場面	A (2年)	B (3年)	C (6年)	D (2年)
準備・片付け	・自分のことは自分でやろうとする。・手伝ってもらったら感謝の気持ちが伝えられる。	にかけ、「手伝いまっ ら手伝いができる。	す。」等と声をかけなが られた時に、言葉や態	・支援を素力
取り組み	・うまく出来たり、失敗 したりした時に、自分 の思いを表情や声で 現する。 ・話しかけられたら、相 手の顔を見る。 ・問いかけられたら動作 や声で応じる。	伝えるだけでなく、 相手の反応を待った り最後まで話を聞い たりしようとする。	したりした時等に、 自分の思いを単語で	直に受けながら楽しく活動して年二月一日転入。
発表・振り返り	・自分の思いを声で表現 しようとする。 ・発表できた喜びが表情 に表れる。 ・他の人の作品を見たり 発表を聞いたりして、 拍手をする。	表現できる。 ・自分が一番になることに執着せず、他の	表現する。 ・他人の作品を見たり 発表を聞いたりしよ うとする。 ・発表を聞いた後に拍	て欲しい。

5	5	活動計画(9時間完了)	
	(1	1) すみで えが かける	よ・・・・・・・・1時間
			2 時間
		3) ねんがじょうを かこ	
		1) なすを えがこう・・	1 NOTE 11 NOTE 1 NOTE 1
		5) けしきを えがこう・	- 11-3 (1-3 - 2) - 2)
6		本時の学習(7/9時間)	
)本時のねらい	
	(1		ちを切り替えて、活動に参加しようと努力する。
			[man company
			品を自力で選び、発表しようとする。
			らなくてもくじけず、助言を素直に聞き入れる。
	/- \		云えながら、最後まで取り組もうとする。
-	(2)		
1	段	講師の活動	・児童の活動 □担任・支援者の活動
-	階	△担任の補助	A (2年) · D (2年) B (3年) C (3年)
	事	△ 協力し合って準備が	・準備をする。 ・各自の準備をし、水黒板や水入れの
1	前	できるように見守る。	□ 正しい手順で 用意をする。
l			準備ができるよ □ 協力し合って準備ができるよう見
1			う手を添えて支 守る。
١	- 1		援する。Aは見
1			守る。
Ī	0	1 教室に入り、挨拶を	・「おねがいします。」と大きな声で挨拶をする。
	か	する。	□ 児童の手本となるように、大きな声で挨拶をし、し
L	む	△ 気持ち良い挨拶がで	[4.88] - 이번에 귀한테, [4.88], [4.88], [4.88], [4.88] - 12.88] - 12.88] - 12.88] - 12.88] - 12.88] - 12.88] - 12.88]
l	_	きるよう援助する。	□ 号令係が姿勢を正していない級友に気づかない時は、 □ マーマー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
ı		2 手本を見せながら、	号令係に声を掛けるように助言する。
	-	課題を伝える。	
l	- 1	☆ 課題を掲示しなが	・課題について思ったことを言葉や表情で表現する。
ĺ		and the same of the first of the state of the same of	□ 課題について児童が思ったことに共感し合う。
١		ら、読み上げる。	□ 講師の話を静かに聞こうとしない級友に気づき、注
l			意ができるよう支援するが、それでも静かにならない
			時は、口に人差し指を当て、静かに聞くよう促す。
	- 1	すみでなる	けをかき、みんなではっぴょうしよう。
		L	
		3 描き順が書かれた手	
			□ 見ることに集中できない時は、講師の方に目を向け
		実演する。	るよう声や手をかけたり、筆の使い方を講師の動作に
1	- 1		* (A) D) 112 (A) 122 (A) 123 (A) 124 (A) 125 (

					: 		क	み	で	な	ने र	2 7	かき	£ ,	ō	41	ω <i>1</i>	2	でに	まっ	57	ه کر	k ?	5 (- 0	t 3	٥,								
3		描	き	順	が	書	か	n	た	手		講	師	の	実	演	を	見	る	0									VER						
																					き	な	い	時	は	,	講	師	の	方	に	目	を	向	け
	実	演	す	る	0							る	ょ	う	声	P	手	を	か	け	た	り	,	筆	0)	使	11	方	を	講	師	の	動	作	K
												合	わ	せ	7	言	葉	で	伝	え	た	n .	す	る。	6										
Δ	,	描	き	方	0	ポ	1	ン	1	2			講	師	0)	代	わ	り	に	実	演	を	L	た	が	る	児	童	が	V	た	場	合	は	,
	な	る	と	-	ろ	を	力		K	で		そ	0	児	童	を	指	名	L	,	講	師	は	支	援	を	L	な	が	5	,	描	き	方	を
	付	け	加	え	る	٥					ĺ	説	明	す	る	0																			
4		正	L	V	描	き	順	を	手	本		描	<	順	番	を	決	8	,	順	番	を	守	2	てま	苗。	< 0								
	で	確	認	す	る	0							自	分	た	ち	で	描	<	順	番	がも	央	め	51	2	5 .	t -	5 1	- 3	支担	受す	- 7		
													筆	0	水	を	取	っ	た	り	,	墨	を	付	け	た	り	す	る	9	1	111	ン	グ	が
												良	<	分	か	る	ょ	う	に	声	を	掛(ナ	る。											
													級	友	が	描	V	7	V	る	時	に	級	友	の	す	る	2	ح	に	目	が	そ	n	る
												ょ	う	な	児	童	に	は		描	<	9	1	3	ン	グ	に	合	わ	せ	7	描	き	方	0
		(%)										ポ	1	ン	1	を	言	葉	で	伝	え	,	描	き	方	の	確	認	が	で	き	る	よ	う	に
												す	る	0																					
5		筆	の	準	備	を	す	る	ょ	う		Ē	筆(カミ	隼	備	Ī	の	表	や	溝	師	の	説	明	を	手	が	か	り	に	筆	の	準	備
	声	を	か	け	る	0						を	す	る	0																				
		筆	の	準	備	0	順	番	が	書			Γ	筆	の	準	備		カネ	長を	三岁	己重	主と	- 10	たみ	よな	っカ	5 5	筆	(0)	準	備	を	L	•

1	かれた用紙を黒板に掲	上手くできない児童には手を貸す。
		□ 友達の様子も気に掛けながら準備をしている児童を
		賞賛しながら準備をする。
取	6 各自で取り組むよう	・手本を写したり、見たりして描き、仕上がった作品は
b	声を掛け、個別に手を	
組	添えて描き方を指導す	
む	る。	心掛ける。
	△ なごやかな雰囲気作	□ 先回より進歩していることを見つけ、互いの良さや
	りに心掛ける。	頑張りが賞賛し合えるよう心掛ける。
	△ 手際よく取り組める	□ 始筆の位置に □ 思い通りに筆 □ 先回より集中
	よう配慮する。	筆が下ろせるよ が運べない様子 して描ける回数
		う手を添えて支 なら、手本を写 が増えるように
		援し、自力でで して描くことを 支援する。
		きた時は賞賛す 提案する。
		る。
片	7 片付けを行うように	・自分の道具を自・自分の道具が片付いたら、筆洗いの
付		分で片づける。 水や敷物を協力しながら片付ける。
け	△ 片付けがしやすいよ	네 경우는 그런데 있는 [12]
	う、事前に箱を用意し	
	ておく。	る。
発	8 「今日の作品」を選	
表	ぶよう声をかける。	作品を選んで、 でなく、支援者 作品を選んで、
	△ 全体の様子を見て声	席に着く。 の作品も一緒に 席に着く。
振	を掛けるタイミングを	□ 「どれが一番 選ぶ。 □ 作品の良いと
n	講師に伝える。	好きかな。」等 □ 児童が迷って ころ等を語り掛
返		と声を掛け、一 いる時は、それ けることで、作
n		人で決めるまで ぞれの作品のよ 品の良さが言葉
		待つ。決められ い点等を尋ね、 で表現できるよ
	*	たら賞賛する。 決める手がかり うに援助する。
		を伝える。
	9 「一番に発表したい	・自分の番がきたら前に出て、作品の発表をする。
	人」と発表意欲を喚起	・級友の発表は静かに聞き、思ったことは挙手をして発
Ì	するように尋ね、挙手	表する。
	した児童を指名する。	□ 一番を譲り合わない時は、じゃんけんにするよう助
	△ 上手く発表できるよ	言する。
	う支援する。	□ A、D、Cが発表者になっても話し出せない時は、
		児童の思いを代弁する。
		・次回の予定を聞き、お礼の言葉を大きな声で伝える。
	終わりの挨拶をする。	□ 次回に対する期待や意欲を言葉で表現しながら、児
	△ 次回の作品を黒板に	童にも語りかける。
	掲示する。	□ 児童の手本となるように、大きな声で挨拶をし、し
		っかり頭を下げながら、挨拶できない児童を支援する。

(3) 評 価

- D···級友の活動を見たり、支援を受けたりして活動に参加したか。(表情)
- A···支援を受けながら、自分で選んだ作品を発表したか。(行動)
- B・・・落ち着いて取り組み、作品を仕上げたか。(作品)
- C・・・他者の問いかけに対して、自分の思いを伝えながら取り組んだか。(会話)

仲よし2組 算数科学習指導案

第4時限 仲よし2教室 指導者 佐光美智子

- 1 単 元 スーパーで買い物をしよう
- 2 単元設定の理由

本学級は、5年女子と1年女子の2名が在籍する。5年Bは、今年度より国語・算数社会の教科のみ基礎学力を身につけるため、5年の教科書を中心に特殊学級で学習している。1年Aは、ひらがなや数字をなぞって覚えている過程である。そのような理由で2人がいっしょに過ごす時間や学習する時間も限られているうえ、学習能力差も大変大きい。このような状況で2人が関わり合うことはなかなか難しい。

そこで、学年も主に生活する教室も異なる2人が、それぞれの能力を生かしながら意欲を持って関わり合うことができる本教材を設定した。一緒に楽しみ学び合いながら活動することで相手を理解し、社会に役立つ経験を身につけることを目指している。

- 3 単元のねらい
 - Aは品物の数量を視覚的に理解し、BはAが購入した品物の代金を計算することにより計算力を高めることにつながって欲しいと考える。
 - スーパーで買い物をすることの楽しさを味わうとともに、異年齢の集団で楽しく社 会生活に役立つ体験を楽しく活動する。

4 目指す姿

学 習		す姿
場面	A(1年生)	B (5 年生)
算	・品物の数量が分かる。・買い物の代金を支払うことができる。	・式(たし算・ひき算・かけ算)を立てることができる。・計算(たし算・ひき算・かけ算)が
数		・支援を受けながら最後まで計算に取り組むことができる。
	・自分の言いたいことを支援を受けながら 恥ずかしがったり泣いたりしゃ がみこんだりしないで短い言葉で話す	・自分の言いたいことをまとめてから 大きな声で話すことができる。・積極的に活動し、Aが困っている場
学	ことができる。 ・Bの発表を 一生懸命見たり聞いたり	合(品物を分けられない時や買う物 が決められない時、お金が分からな
び	することができる。 ・店の人とのコミュニケーションができ	い時など)、Aに進んで教えてあげ ることができる。
合	るように店での言葉をはっきり話す。 ・Bに教えてもらったら感謝の気持ちを	
M	込めて「ありがとう。」と伝えること ができる。 ・Bの発表を静かに聞く。	

- 5 活動計画(7時間完了)
- (1) スーパーでのたし算やひき算の問題をとこう・・・・2時間
- (2) スーパーでのかけ算や順序の問題を考えよう・・・・2時間
- (3) 買い物ごっこをしよう ・・・・・・・・1 時間
- (4) スーパーで買い物をしよう ・・・・・・2時間(本時1/2)
- 6 本時の学習(6/7)
- (1) 本時のねらい
 - ①学習のねらい
 - A・・・品物と対応して数量が分かる。
 - B・・・計算(たし算・ひき算・かけ算)に最後まで根気よく取り組む。
 - ②学び合いのねらい
 - A・・・友達と関わり合い仲良く楽しく活動する。
 - B・・・お互いの頑張りを認めあい仲良く活動する。

(2) 学習の設計

()			
段	学習活動	○学び合い	数師の働きかは
階	A(1年)	B (5年)	教師の働きかけ
つかむ	1 始まりの挨拶をする2 本時のめあてを聞く		・声をかけ合って、良い姿勢で 始まりの挨拶ができるように 見守る。 ・前時までの問題への取り組み を確認する。
	B:式を考え	のやおかねのかずを、かぞえ え、速く計算できるようにな	로 [15] [15] [15] [15] [15] [15] [15] [15]
	3 黒板の写真を見て売	り場や品物を確認する。	
り	10 10 10 00 01		A 大きな声で話すように声を
組	表する。		かける。
む	/	·	
	けて机に並べる。	○静かに見守り、Aが分	
	おかしうりば	からないそぶりを見せ	
	やさいうりば	たら教えてあげる。	
	さかなうりば		
	牛乳・プリンうりば		
	5 買い物ごっこをする		
	①それぞれの持ち場〔	店の人(B)とお客(A)]	
	に分かれることを知	1. T	
	②お店(お客・店の)	() の言葉をはっきり言う	
	ように心がける。		A 大きな声ではっきり言える
	・お客の言葉	・店の人の言葉	ように一緒に復唱しながら支
-	こんにちは	いらっしゃい	援する。
	~をください	どれがいいですか	B 積極的な態度が見られたら
	ありがとうございま	ありがとうございまし	
	した	た	
	③教師が言う数や品物	〇Aが買う品物の数を一	A 正しい数の品物が買えるよ
	を買う。	緒に数えてあげたりし	
		て手助けをする。	
	④買った品物の1つ分	・品物の合計金額やおつ	
	のお金を数えたり並	りを計算する。	B 立式を迷っている時は、掲
	べたりする。		示をヒントにするように声を
			かける。
	⑤代金を払う。		B 品物の合計金額やおつりを
			まちがえないで計算できるか
		1	見守る。
	⑥いろいろな計算に慣	- れるように②~⑤を繰り	A 代金を間違えずに払ったり
	返し練習する。		おつりを受け取ったりするこ
			とができるか見守る。
ま	6 今日の活動の感想を	発表することを知る。	・楽しかったことや困ったこと
2		・自分の考えをまとめ	など、自信を持って発表でき
め	しっかり話す。	てから発表する。	るように児童の側にいて支援
る	W S HH S 0	~ J. K. J. S.	する。
(3) 評 価	I.	7 0 0
	① 学習の評価		

① 学習の評価

A・・・品物の数量が分かったか。

(態度)

B・・・根気よく立式や計算に取り組むことができたか。

(態度)

② 学び合いの評価

A・・・友達と関わり合って楽しく活動できたか。

(態度) (態度)

B・・・お互いの頑張りを認め合い、積極的に活動できたか。

関係機関参加者名簿

第38回共同学習研究大会 平成19年2月16日(金)

番号	### ### ==	3 11 11 1	1	参加			
. 号	施設・機関名	氏名	全日	講演			
1	1000	安藤迪子	ļ .	0			
2	子ども未来課	海川面紀子		0			
3	汽网 产生	一戸まゆみ	0	Ť.			
4	五郎丸保育園	奥村貴美代	0	0			
5.	四月末八四江	板津厚子		0			
6	上木保育園	太田由美	0				
7.		大野康子		0			
8	城東保育園	松浦亜美	0,				
.9	**************************************	加地干年美		0			
X	今井保育園	磯村由紀	0,	. , .			
11.	羽黒保育園	高橋紀美代	. 0	0			
12		若山明美		. 0			
13	楽田保育園	坂井みどり	0	Ó			
14	X3/128	高木光子	0	0			
15	羽黒北保育園	小帽干尋	0	0			
(G)		平井和子	0	. 0			
17	楽田西保育園	本田朋美	%	0			
18		松山陽子		0			
19	丸山保育園	粟津原まゆみ	0	<u>ن</u> ک			
20	, 100, 113, 125	國部博美		0			
21	城東第2保育園	酒向夕夏	0	0			
22		犬飼利枝		0			
23	羽黒南保育園	平松奈緒美	0	0			
24		梶川淑惠		0			
25	楽田東保育園	大塚智美	0.	0			
26		奥村百合江		0			
27	橋爪保育園	宮田亜子	0				
28		小川田子		0			

番号	施設・機関名	55.0	1	€ 00€
3		氏名	全日	講演
29	th th ID attach	神田裕子)	-	0
30	中央児童館	上平川久美子(例》	0
31	楽田児童センター	田中恵子	7.50	0
32	羽黒児童センター	御川干明		0
33	犬山西児童センター	野口美鈴		0
34	東児童センター	後藤尚美	1 5	0
35.	犬山南児童センター	柳生ももよ		0
36		牧野かおり		0
37	こすもす園	大島房代		0
38	子育て支援センター	鈴木園枝		0
39	+11 >1-11	色川美鈴		0
40	キルシェハイム	林ゆかり		0
41)	犬山幼稚園	長谷川由美子	- 1	0
42		木澤和子	7	Ò
43	大山市地域活動連絡協議会	山田順子	5	0
44		伊東優香	16	0

全 日:14名

講演のみ:30名

合 計:44名

たく見をして

0

反全 参加者名簿 市内(教員関係) 番号 氏 名 連 絡 先 参加分科会 弁当 備 考 長瀬 信義 あゆんで 奥村和彦 A 4 A A 占博力 * A 松本 年記 N 00DP 排钞 PRIVIL 地色雄二 A रिक्ष स्टें * カイちはー 内木系系 大山市内の気生)

参加者名簿(市内(保護者)

多则者:		内(保護者				J ~		
番号	氏	名	連	絡	先	参加分科会	色	備考
0	亀井	厚生					1	17 日分科会 1
0	亀井	裕美					1	17日分科会2
\bigcirc	片桐	知代					有	
\bigcirc	松原	明正				· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	有	
0	天池	版子				- ()	何	
6		为文文					10	
					Ψ.			
			8					
i i)							
				<u> </u>				
			1					
\dashv		:-			-	: 6	-	
_			25					3
\dashv						-		
	Φ	32						
+						-	-	
\neg		*					-	
19		14 14	7 8					
-				4. 40	8			
\dashv	7.4							- 8
+								
+						1		W.
+			- (6)		-			
		3						
					g (**)	9 4		
-								
-								*
			7					* I
_					F7			
			×					
				* '				
		*			U S			
				× 2				
	8		341		*V			
	, et : = == <u>===============================</u>		4:				2	

4

图 村人 NOI to the

① 小林 いづみ ② 杉山 農美子 ④ 高梯 公洋 1 (角) ⑤ 小線 光史 ⑤ 中村 扇美 ⑥ 山田 勝裕 (7) 小泉 光史 ⑥ 田中 成子 9 石垣 美智子 ② 野村 鷹樹 (7) 小泉 光史 ⑥ 田中 成子 9 石垣 美智子 ② 野村 鷹市 元 (7) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1	W C	J		1	motor .			· · · ·		NO1	# 5 2
② 海井			名	連	絡	先	参加分科会	弁当	備	考	
② 杉山 貴美子 ④ 高橋 公洋 5 中村 嘉美 ⑥ 山田 勝裕 ⑦ 小泉 光史 ⑧ 田中 成子 9 石垣 画樹 ① 近藤 克也 ② 百合 艮二 ③ 森 文香 一方 ③ 森 文香 一方 ④ 西井 清浩 2 徳 一方 ⑥ 八万 ⑤ 田田 幸嗣 1 7 田田 幸嗣 1 1 日田 中華 1 7 田田 中華 1 1 日田 田田 中華 1 7 田田 田							1	囿			
(4) 高橋 公洋 (5) 中村 嘉美 (6) 山田 勝裕 (7) 小梁 光史 (8) 田中 成子 (7) 野村 直樹 (7) 五垣 美智子 (7) 野村 直樹 (7) 五垣 美智子 (7) 野村 西島 良二 (8) 森 文番 (14) 古井 清浩 (15) 小崎 静雪 (16) 浜辺 即寒 (16) 浜辺 即寒 (16) 浜辺 即寒 (17) 東田 剛昭 (17) 東田 剛昭 (18) 西村 阿昭 (19) 西村 阿昭 (20) 西村 原格 (20) 清水 弘之 (21) 南派 康彦 (22) 清水 弘之 (23) 南派 康彦 (24) 安井 秀臣 (25) 多胡 紀代子 (26) 住本 真弓 (27) 柴田 夢明 (18) 五川 勝美 (19) 公本 東介 (31) 大垣南山 (32) 小古 本市浦 (33) 福名 由起 (33) 村上 はつ子 (34) 北野 真也 (35) 長嶋 照代 (36) 小守林志朗 (18)			The second second				1	愈		*	
 5 中村 嘉美 ⑥ 山田 勝裕 ⑦ 小梁 光史 ⑧ 田中 成子 9 石垣 美智子 欠 元垣 美智子 欠 元垣 美智子 欠 元垣 美智子 欠 元垣 美智子 ② 香夫 文香 ① 古合 良二 ② 奇夫 海浩 ② 小園 静香 1 「旬 2 「旬 1 「旬 2 「旬 1 「旬 2 「旬 1 「旬 2 「旬 3 日 4 日 5 日 5 日 5 日 6 日 7 日 8 日 9 日<							1.	角			
 5 中村 嘉美 ⑥ 山田 勝裕 ⑦ 小梁 光史 ⑧ 田中 成子 9 石垣 美智子 欠 (3) 森 文書 (4) 吉井 清浩 (5) 小関 菜明 (6) 浜辺 静雷 (7) 富 (8) 田世 報告 (9) 西台 良二 (10) 浜辺 静雷 (11) 原田 理察 (12) 吉村 鷹理子 (2) 西台 阿昭 (3) 日産 阿昭 (4) 吉村 鷹理子 (5) 伊藤 格 (2) 清水 弘之 (3) 部譲 康彦 (4) 安井 秀臣 (5) 安田 東明 (6) 日本 東日 (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7)							1	侚			
 ① 小梁 光史 ⑧ 田中 成子 9 石垣 美智子 欠 (2) 野村 直樹 ① 百合 尺二 ① 百合 尺二 ① 古典 東明 ① 古典 東明 ① 自動 ② 古典 東明 ① 古村 阿紀 ② 東田 賈理子 ② 南湖 康彦 ② 南湖 康彦 ② 市湖 原彦 ② 市湖 原彦 ② 市湖 原彦 ② 市湖 藤田 ② 京市 ② 京市 ○ 日東明 ○ 京市 ○ 京市	_										
 ● 田中 成子 9 石垣 美智子 欠 ① 野村 直樹 欠 ① 百合 良二 ② 百合 良二 ② 1			勝裕					匍			
9 石垣 美智子							V	蔔	4,	D.	
(1) 野村 直樹 欠			成子				2				
 近藤 克也 (3) 森 文香 (4) 吉井 清浩 (5) 小関 英明 (6) 日間 中嗣 (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7)		-	美智子				欠				
(2) 百合 良二 (3) 森 文書 (4) 吉井 清浩 (5) 小関 英明 (16) 浜辺 静香 (17) 奥田 理奈 (18) 日置 幸嗣 (19) 吉村 阿紀 (20) 寮田 賈理子 (21) 清水 弘之 (21) 清水 弘之 (22) 清水 弘之 (23) 前瀬 康彦 (24) 安井 秀臣 (25) 多胡 紀代子 (16) 日本 真己 (27) 柴田 孝明 (17) 日本 孝介 (18) 日本 東田 (19) 日本 (19) 日本 東田 (19) 日本 東田 (19) 日本 (1	1	野村	直樹				欠	lio			
(3) 森 文香 (4) 吉井 清浩 (5) 小関 英明 (6) 浜辺 静香 (7) 東田 理奈 (7) 東田 理奈 (7) 東田 東副 (7) 東田 東田子 (7) 東藤 格 (7) 東藤 格 (7) 東藤 格 (7) 東藤 格 (7) 東藤 を (7) 東藤 を (7) 東藤 を (7) 東藤 を (7) 東京 大坂 南 (7) 東京 東京 東京 大坂 市 (7) 東京 東京 東京 大坂 市 (7) 東京			克也								
(4) 古井 清浩 (5) 小脚 英明 (6) 浜辺 静香 (7) 中藤 日間 中部 (7) 中 (7)			良二				· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	匍			
(4) 吉井 清浩 2			文香				ア				
(15) 小関 英明 (16) 浜辺 静香 1			清浩								
1 有 有 有 有 有 有 有 有 有 有 有 有 有 有 有 有 有 有 有	15	小関	英明							***************************************	
17 奥田 理奈 (16) 日曜 幸嗣 (17) 吉村 阿紀 (27) 東田 真理子 (27) 伊藤 格 (22) 清水 弘之 (38) 前瀬 康彦 (24) 安井 秀臣 (25) 多胡 紀代子 (26) 住本 真弓 (27) 柴田 孝明 (28) 石川 勝美 (19) 村上 好生 (10) 松本 泰介 (17) (17) (17) (17) (17) (17) (17) (17)	16	浜辺	静香				1				
13 日置 幸嗣 有		/	理奈								
(19) 吉村 阿紀			幸嗣				10 (0) 40 (40 (0) 40 (0)				
 乗田 真理子 プ 伊藤 格 ② 清水 弘之 ② 前瀬 康彦 ② 安井 秀臣 ② 住本 真己 ② ゲ田 孝明 ② 石川 勝美 ① 松本 泰介 ③ 松本 泰介 ③ 村上 はつ子 ③ 大垣内清広 ③ 大垣 中 ③ 長嶋 照代 ① 小守林志朗 	19	吉村	5米回				欠	-			
2	25	栗田	真理子				欠				
(23) 前瀬 康彦 午後から (24) 安井 秀臣 1 (25) 多胡 紀代子 1 (36) 住本 真弓 3 (37) 柴田 孝明 1 (38) 石川 勝美 1 (39) 村上 好生 1 (30) 松本 泰介 3 (31) 大垣内清広 2 (32) 世名 由起 3 (33) 村上 はつ子 2 (34) 北野 真也 1 (35) 長嶋 照代 1 (36) 小守林志朗 1	27	伊藤	格				欠				
(23) 前瀬 康彦 午後から (24) 安井 秀臣 1 (25) 多胡 紀代子 1 (36) 住本 真弓 3 (37) 柴田 孝明 1 (38) 石川 勝美 1 (39) 村上 好生 1 (30) 松本 泰介 3 (31) 大垣内清広 2 (32) 世名 由起 3 (33) 村上 はつ子 2 (34) 北野 真也 1 (35) 長嶋 照代 1 (36) 小守林志朗 1	22	清水	弘之				欠	角			
2 分 安井 秀臣 2 5 多胡 紀代子 2 6 住本 真弓 2 7 柴田 孝明 2 7 米田 孝明 2 7 米田 孝明 1 7 2 7 米日 野生 3 2 水本 泰介 3 1 大垣内清広 3 2 日本 3 3 村上 はつ子 3 4 北野 真也 3 5 長嶋 照代 3 6 小守林志朗			康彦							午後か	5
② 住本 真弓 3 を 子 ② 特出 孝明 1 信 ② 石川 勝美 1 ② 村上 好生 0 松本 泰介 ③ 松本 泰介 2 有 ③ 古 由起 2 有 ③ 大垣内清広 2 有 ③ 大垣内清広 2 有 ③ 持上 はつ子 2 有 ③ 長嶋 照代 有 ⑥ 小守林志朗 1 有	24	安井	秀臣								
② 住本 真弓 ② 特田 孝明 ② 石川 勝美 ② 村上 好生 ③ 松本 泰介 ③ 松本 泰介 ③ 置名 由起 ③ 村上 はつ子 ③ 大野 真也 ③ トウ林志朗	-		紀代子				1	有)	D3-12 - 92-		
27 柴田 孝明 28 石川 勝美 1 1 29 村上 好生 30 松本 泰介 31 大垣内清広 32 置名 由起 33 村上 はつ子 34 北野 真也 35 長嶋 照代 36 小守林志朗 1 有			真弓				3 🔁				
29 石川 勝美 1 29 村上 好生 30 松本 泰介 31 大垣内清広 32 置名 由起 33 村上 はつ子 34 北野 真也 35 長嶋 照代 36 小守林志朗 1 有	27	柴田	孝明								
② 松本 泰介 ③1 大垣内清広 ③2 置名 由起 33 村上 はつ子 34 北野 真也 ⑤ 長嶋 照代 ① 小守林志朗			勝美				· 1			100	
31 大垣内清広 32 置名 由起 33 村上 はつ子 34 北野 真也 35 長嶋 照代 36 小守林志朗 1 有			好生								
32 置名 由起 33 村上 はつ子 34 北野 真也 35 長嶋 照代 36 小守林志朗 1 有	80	松本	泰介								
33 村上 はつ子 34 北野 真也 35 長嶋 照代 36 小守林志朗 1 有	_		清広								
34 北野 真也 35 長嶋 照代 36 小守林志朗 1 有	(3)	置名	由起				6	20.79			
34 北野 真也 35 長嶋 照代 36 小守林志朗 1 有	33	村上	はつ子				2	1	66		
35 長嶋 照代 36 小守林志朗			真也					有			
36 小守林志朗 1 有	35	長嶋	照代								
	36	小守本	木志朗				1			*	-
	37		恵子					a			

24

1000円

参加者名簿 市外

したた"きます。い

NO2 番号 氏 名 連 絡 先 参加分科会 弁当 備 考 83 夏井 修 欠 有 33 安岡 巌 欠 有 40 西久保信一 欠 有 4) 小泉 雅章 欠 有 辻井 進 欠 有 西田 隆 欠 有 44 西田 日出夫 欠 有 **₹**5 新井 将宏 2 旬 46 桑原 伸幸 正山 孝子 有 菅原 裕子 宇野 豐 1 50 杉野 浩一 1 辻 善嗣 神野 義一 河村 友味子 鈴木 干恵子 55 神谷 美紀子 6 房野 敦子 3 河井 58 林 重男 69 住田 裕子 3 西澤 真由美 愈 植田 量子 1 福島 富美 旬 柴田 民雄 有 64 相澤 一彦 1・2限授業参観 65 町野田 真裕 1・2限授業参観 岩本 義幸 66 67 68 69 70 71 72 73 74

मिनी-एउपस

站

番号	氏 名	連	絡	先	参加分科会	弁当	備	考
/	孫原真治				3	0	уга	
2	飯縣 敬				3	,		•
3	水田忠美子				/			
4	長原 終う				/ -		5	
5	既并杀指于				/			
6	ムキャラ							
7	J. 12 直人				2			15
.8	松山香港							
9	山本和高				5			
10	東色也				<i>†</i> 3	0		
11	竹内基				2	0		
/2	高新里美福井明							
13	福井明							
((4)	加古芳東							
15	冲乐一武							
16:	港上青裕							
17.	如图像一							
18.	南本長號周野美由紀							- K 1
19.	揭田崇晴				81.			
20	岛野美由紀							
2/.	福島丈							
22	秋 南 西南 对							
23	冬场(次公							
24	老上統治						1	
25	尾崎彭一							
26	深田真規子				/	Ø		
2.7	安藤ゆかり					Ø		
2.8	小沃江里				2			
2.9	石井整河野夷行				2			
30	V .							
3.1 32	的用车				7			
14	加藤喜水河							
33 34	24 10				5-406		पंजार है	_
	从在艾子				2	00		
35	/3/801音							
36	四日刊文川崎時義							
37	川崎時载				#			

助言者・司会者・発表者名簿

番号	氏	名	連	絡	先		参加分科会	弁当	備	=
0	中村	安志				-	1分助言者		1/用	考 .
0	高島	雅展					1分助言者	-		
9	石田	勢津子							45.5.4.	想親会出
9	中野	太四					1分助言者		役員会出席	懇親会欠
0	高木	真由美					1分司会者	-		
0	岩森	進					1分発表者			
0	~~~~ 有本	高尉				~	······	~~~		······
0	荒木	正志				-	2分助言者		俊	
0	伊藤	篤						-	12	
6	水谷	茂				-	2分助言者	-	12	-
0	髙木	泰子				-	2分司会者	-		
2	船橋	高志					2分発表者	-		
0	~~~~~ 須賀	~~~~~~ 陽子				~	2分発表者		***************************************	······
0	山本	美一				-	3分助言者	-		
0	小石	寛文				-	3分助言者			
0	市原	 尊光				7	3分助言者		42	
0	長谷)	 紀美子					3分司会者			
0	林	貴子				-	3分発表者			10
0	大矢	~~~~~~ 恵-				^	3分発表者 ~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~		······	想親会出
S	大関	健道				+	4分助言者			
0	宇田	光					4分助言者		12	
0	河村	雅之					4分助言者		1/2	懇親会欠
5	岩田	和敬					4分司会者			
0	梅	建					4分発表者		<u> </u>	-
2	~~~~~ 奥村	~~~~~ 英俊				* ~	4分発表者		······	·····
	小栗					-	5分助言者			
0		康児					分助言者			
0	vaoras vas	仁史				-	5分別言者	* - 1		
Ó	North Control	英夫					分司会者			
Ť	700000	真弓				-	分発表者			
	- 1X, B	0.00	1003-0	7.		5	分発表者	例		懇親会出

参加者名簿 市外教育関係

1 8 11

多川百	口海「	P外教育関	1余						6
番号	氏	名	連	絡	先	参加分科会	弁当	備	考
\mathfrak{O}	佐藤	美子							
2)	驚野	ひとみ							
3	水嶋	純作				4	(有)		
(4)	仲田	一誠				2	有	想親会参加	
(5)	富吉	良文					1	98	8
6	多湖	実松							
7	倉田	侃司							
8	磯貝	あゆみ					旬		
9	高士	雅史							
10)	今盛	和彦							
11)	林	幸範					有	懇親会参加	
13	石橋	裕子				- 12	有	懇親会参加	
*						e(4)	有	慰親会参加	
	山口	1063				1			
	雨冷	岛鲜				1			
				150 	# 8 H				
ā.									6
	* 51	±)			7.3				
				16:					
				E. 1					
		Ç.	8						
	8		A .						
							-		
(6)					*				
	-		i e	8			10		
					a				
									9
				9-					
	-1, 12-4	v							
	1								
-						-			

12

多... 乡名簿 学校関係者

番号 氏 名 連 絡 先 参加分科会 弁当 備 考 付 生島 亜樹子 2 滝 尚文 3 笠井 尚 4 小島 祥美 6 中央 もま 7 8 9 10 11 12 13 14 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15	ē.
2 滝 尚文 3 笠井 尚 4 小島 祥美 5 加藤 千智 6 中央 包美 7 8 9 10 11 12 13 14 15	
3 笠井 尚 4 小島 祥美 5 加藤 干智 6 中央 転送 7 8 9 10 11 12 13 14	I
4 小島 祥美 (5) 加藤 干智 6 中 电关 7 8 9 10 11 12 13 14 15	
(5) 加藤 千智 6 中の 転送 7 8 9 10 11 12 13 14 15	
6 中東美 7 8 9 10 11 12 13 14 15 15 15 16 16 17 17 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18	
7 8 9 10 11 12 13 14 15	
8 9 10 11 12 13 14 15	
9 10 11 12 13 14 15 15 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16	
10 11 12 13 14 15	
12 13 14 15	
12 13 14 15	
13 14 15 <	
14	
15	
	(4
	_
	_
	\dashv
	-
	-
	\dashv
	\dashv
	\dashv
	\neg
	\dashv
	\dashv
	-
	\exists

参加者名簿 事務局

番号	氏	名	連	絡	先	参加分科会	弁当	備 考
0		裕久				2 30,5 114	7	懇親会、宿泊
0		修治						想親会、宿泊
Q		一彦						懇親会、宿泊
								心枕丛、旧心
			*			-		
		_ 0		ř.				
					512			
	(d)			ű.				
			©.		72			
			V = -			8 8		
	-						i i	
								i i
	2	a .						
					2000			āl
					4 5			
						1		
	Ţ.	52 			W			
			a.					
					14			
					7			
		***	(#1			
					6	¥		
			'4'					nge 2 g ta J
						7		- II
								E N
		- 5				:		
	*1							
		000						
i.					: : : : : : : : : : : : : : : : : : :			28
		*			ď.			
						-		
	3			17	¥			
	22				is .	9		W

参加者名簿 事務局

1	752 757575 XX										Γ
細	出	名	刪	粉	先		點	細	مإه	4 6	争
103	4	裕久				12 12				懇親会、宿泊	Ф
104	杉江	修治				1200					
						14.					
参加者名簿		市内(教員関係)	引 孫)								[
細	出	幼	重	絡	先	æ	盟	細	مإه	4 9 4	和
105	長瀬	信義									
参加者名簿		市内 (保護者)	E)								[
細	出	幼	剰	絡	先		品	細	即	4 9	和
106	#	雪井								弁当 17 日分科会1	_
107	鲁井	松美								弁当 17 日分科会2	0
108	片橺	和俊								弁当	
109	片橺	知代								井川	
178	Ħ	子育てフォー	- ラム参加者名簿	姜							
細	出	勾	蓮	絽	先		盟	細	마	4 B	割
~	加古									第2分科会	M
											-

第2分科会	第2分科会	第2分科会	第2分科会	第1分科会	第2分科会	第3分科会	第2分科会	第2分科会	第2分科会	第2分科会	第2分科会	第1分科会	第2分科会
ÿ													
B													
1		実奈子	险	田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田	二	雅史	拱	佳子	智博	義—	敦子	克也	清浩
西保	笠原	水野	₩∏	字野	杉野	自士	上野	上野	瀬上	神野	房野	近藤	二十
N	ო	4	Ŋ	9	7	∞	თ	0	-	12	ر 8	4	15

P. 01/01

		(0)								. 5				4
金()	70	講演	0	0	387		0		0		O			0
6日(金)	参加	全日			0	0		0		0	•	ó	0	
平成19年2月1		历名 人	安藤迪子	第川由紀子	一一一一一一一一一	奥村貴美代	板津厚子	太田由美	大野康子	松浦亜美	加地千年美	磯村由紀	高橋紀美代	若山明美
第38回共同学習研究大会		肺段・機関名	2 P	子ども未来課		工部中位益属	A. Kis 人,不 同 因	十二 安全	工个所目图	地位的	WXKFE	今井保育園	四季公田四	公前不可以
第38	椒	מןם ו	· •	Ø	က	4	5	9	7	8	<u>ග</u>	10	7	12

. DC	講演	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
参加	全日			2			," •						
ļ	况 6	神田裕子	上平川久美子	田中窟子	細川平明	野口美鈴	後藤尚美	値生ももよ	牧野かおり	大島房代	鈴木園枝	色川美鈴	本をから
C 8889 - 12274	加設・機関合	の一日の一日の一日の一日の一日の一日の一日の一日の一日の一日の一日の一日の一日の	十八八里的	楽田児童センター	羽黒児童センター	大山西児童センター	東児童センター	大山南児童センター		国 O O O	子育て支援センター	イン・ジェルナ	カーバナンバト
海	ф	29	30	33.	32	33	34	35	36	37	38	39	40

1. 建筑

参加者名簿 市外

1	200	?								300		
細	細砂	出	名	連	絽	先	點	細	叩	W	6	和
	_	小林	おびい							半	分科会1	/IN
	N	井駅	敦子							井	分科会1	/II
	m	加二	貴美子							井	分科会1	/N
"	4	自橋	公洋							サ	分科会1	ΛΝ -
	2	中村	嘉美									
	9	田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田	勝裕							井		
	7	然	光史							弁		
	∞	0	成子								分科会2	ΔI1
J.	6	石垣	美智子								分科会欠	以
~	0	野村	直樹								分科会欠	以及
	_	近藤	克也							77	分科会一任	中一
_	N	包	E I							サ		
	m	糕	文香							サ		
_	4	井田	清浩							井	分科会2	()()
	2	小馒	英明							サ		
_	9	浜辺	静香							サ	分科会	411
	1 7	田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田	理奈							井		

世 栗 伊	阿紀 真理子 格		
田 攤	真理子格		并当 分科宏汉
伊藤	格		弁当 分科会欠
			弁当 分科会欠
2 清水	342		弁当 分科会欠
3 前瀧	康彦		午後から
4 安井	秀臣		
5 多胡 注	紀代子		弁当 分科会1
6 佳本 〕	真马		分科会1
2	孝明		弁当 分科会1
8 1111	勝美		分科会1
9 村上 3	好生		
0 松本 3	泰介		
1 大垣内清広	清広		
2	由起		
3 村上 (はつ子		弁当 分科会2
4 北野 勇	真也		并
5 辰嶋 6	照代	117	#
6 小守林志朗	志朗		弁当 分科会1
7 後藤 月	惠子	117	弁

参加者名簿 市外

		THE WAY									1
細	出	幼	重	絽	先	呈	舞	巾	2	9	电
ω (2)	夏井	修							弁当	分科会欠	以
39	安岡	嚴							并	分科会欠	以
40	西久保信	宋信—							并	分科会欠	以
4	小泉	雅章							并当	分科会欠	以
42	让井	旗							サ	分科会欠	以
43	西田	隆							并	分科会欠	以
4 4	西田	日出夫							半	分科会欠	以
45	新井	将宏							并	分科会2	VIV.
46	桑原	伸幸							计		
47	田里	孝子							井当		
48	菅原	裕子							井川		
49	宇野	曲							(8 %	分科会1	VIA -
50	杉野	二 二							25/31	分科会1	VIA
5	Ϋ́	電調									
52	神野	禁								分科会?	(r.
53	河村	友味子								分科会?	(r.
54	鈴木	千惠子								分科会?	(r.
55	神	美紀子									

Т-	_	7			_								_	
(N)			割			4 4 4	411412 CA							
分科会3			6			分科会4	分科会2 懇親会							
37			W			并	共	1			無			
* <u></u>						#	#	#			#		1	
			ماه											
			畑											
			础											
			0.000											
			₩ H											
n <u>-</u>														
			光											
			怨											
			뻿											
	ω,,													
			νП		4						7			
數子		市外	幼	美子	ひとみ	純作	一誠	原文	実松	侃司	西的马	雅史	和彦	
房野	河井			佐藤	黨野	水嶋	中田	HD (00)	多温	倉田				
幺	回	5名簿	出	在		火	D	[08]	ВВ	쇹	磯貝	事十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	机網	
56	57	参加者名簿	海	58	59	09	6 1	62	63	64	65	99	67	
1		AVIII		_								-	_5/25	

参加者名簿 学校関係者

番号氏全本大大中大中中中 <t< th=""><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th><th></th></t<>												
無 第 符 十 記 記 報 品	無号	田	名	重	88	先	盟	細	叩	W	6	争
選 会 場 の 機 の 機	89	生島	亜樹子									
0笠井1小島2加藤	69	無	尚文									
1 小島2 加藤	70	松井	ء									
2 加藤	7.1	小島	祥美									
	72	加藤	千智									

助言者・司会者・発表者名簿

の 他	助言者	助言者	助言者	司会者	発表者	発表者	2分 助言者	助言者	助言者	司会者	発表者	発表者
20						· 分						
	1分	1分	1分	1分	1分	13	2分	2分	2分	2分	2分	2分
olto			黑				12%					
細			懇親会欠席									
			熟来						. 500			
显			出						5			
			役員会出席				30	S. C.	0 X			
			钦				14	17	0	- 200		
先												
1												
粉												
1001												
刪												
知		0.0000	<u>H</u>		**							
Αυ	安武	雅展	勢津子	太四	真由美	判	79 有本 高尉	田	鰃	赵	泰子	响
出	中村		石田	中野	恒	株	有本	州	伊藤	水谷	高木	船橋
						JK1	#		15			
細郎	73	74	75	92	17	7.8	7.9	80	8	82	83	8 4

\$ 00	Amman 活型	\$	www.www.ww.ww.ww.ww.ww.ww.ww.ww.ww.ww.w	18	AAAAAAA
0		Nat		33	助言者
86	十二	₩		3分	助言者
87	小石	寬文		3分	助言者
∞	市原	尊光		3分	司会者
89	長谷)	長谷川紀美子		3分	発表者
90	**	林貴子		3分	発表者
91	大	- ■		4 分	助言者
92	大躍	健道		4分	助言者
93	中田	光		4分	助言者
94	河村	雅之		4分	司会者
95	品品	和敬		4 分	発表者
96	申	梅建		4 分	発表者
97	奥村	英俊		5 分	助言者
98	小栗	样吾		5分	助言者
66	伊藤	康児		5分	助言者
100	IIVII	仁史	3	5分	司会者
101	鏈野	英夫	3	5分	発表者
102	本間	真马		5分	発表者

子育てフォーラム

~いま、子育てに大切なものは!~

主催 犬山市

日程 平成19年2月17日(土)AM9:00~12:15 会場 犬山市福祉会館 5階大ホール

◇プログラム◇

9:15 基調報告 「子育て昔と今、そしてこれから…」

キルシェハイム(母子生活支援施設) 施設長色川美鈴氏

9:35 記念講演 「地域の子育て支援」

~地域の一人ひとりができること~

タレント 矢野きよ実氏

10:30 分科会への移動

10:40 分科会

第1分科会 子ども達を近所の目で守ろう

~子どもの危機管理における学校・地域・行政の連携~

話題提供者:主任児童委員・小学校教教論・行政児童担当者

第2分科会 いろんな子どもがいていいよね

~障害児支援を地域で考える~

話題提供者:障害児の支援団体・障害児の保護者

第3分科会 人として生きるために 今、子ども達に大切なもの

~中学生の子育て支援から見える次代の親育て~

話題提供者:中学校教諭・小学校教諭・中学生保護者

第4分科会 みんなの力が集まれば

~子どもにかかわるボランティアの連携~

話題提供者:市子連会長・小学校教諭・児童館長

11:40 大ホールへの移動

11:50 全体会

12:15 終了

◇第1分科会◇

子ども達を近所の目で守ろう

~子どもの危機管理における学校・地域・行政の連携~ 子どもの居場所である家庭・学校・地域それぞれの場で子どもを見守るためにできることを考える。

【司会】

☆小学校教頭

飯田 勝己氏

(北小学校教頭)

【話題提供】

☆主任児童委員

武内たか子氏

(平成13年度12月より羽黒地域の主任児童員として活動中)

- ◎地域の子育て支援を担う主任児童委員の役割
- ・なかなか知られていない主任児童委員の役割について
- ・市内施設の活動や地域の行事に参加し連携を持つことで知る地域の状況

☆小学校教頭

飯田 勝己氏

(北小学校教頭)

- ◎開かれた学校運営について
- ・いつでも誰でも自由に学校に来ていただける体制の効果。
- ・子どもを見守る外部支援者との連携。

☆犬山市子ども未来課 井出 修平氏

- (犬山市役所 民生部 子ども未来課 児童担当)
- ◎子どもの人権を守るための行政としての役割
- 要保護児童対策の現状
- ・危機や子どもの状態を注意深く見守る体制

◇第2分科会◇

いろんな子どもがいていいよね

~障害児支援を地域で考える~

学校を拠点として実践している団体、障害児を持つ親、それぞれの立場から子ども たちが共に育ち合うことを考える。

【司会】

☆ぽんぽこ親の会代表

木村 敏夫氏

【話題提供】

☆ぽんぽこ親の会代表

木村 敏夫氏

平成16年4月障害児を支援する団体としてぽんぽこネットワークを設立。 平成17年度9月より小学校特殊学級児童地域交流支援開始。支援を継続しながら、 空き店舗を拠点とし、障害を持つ親のネットワークづくりを計画中。

保護者・学校・地域の立場を中立に見て、感じたり実践してきたことを報告します。

☆障害児を持つ保護者

山田真由美氏

現在小学校4年生の障害児を持つ親。

障害は不幸ではない、不便なだけ。自分らしく生きていくため、サポートが必要なだけ。この子たちのことを知っていただき、共に生きていく方法を一緒に考えてもらえたらという願いを込め報告します。

☆障害児を持つ保護者

三浦しのぶ氏

養護学校高等部の子を持つ親。

多くの方に支えられ、この子と共に歩んできた道程を報告します。そしてこれから、地域とのかかわりをどうつないでいくか一緒に考えてください。

◇第3分科会◇

人として生きるために 今、子どもたちに大切なもの 〜中学生の子育て体験から見える次代の親育て〜 子どもたちが異年齢のふれあいの中で、人への思いやりを育む機会について考え る。

【司会】

☆中学校教頭 (南部中学校教頭) 河村 雅之氏

【話題提供】

☆中学校養護教諭 (南部中学校養護教諭) 宮地 朝子氏

- ◎子育て体験から見える現代の子育てについて
- ・中学校の子育て体験の報告
- ・アンケートから見える問題点

☆中学生の保護者 鈴木 佳子氏 (東部中学校保護者)

- ◎子どもに託す親の願い
- ・子どもたちが育つ過程での異年齢の関わりについて
- ・中学生の実態

☆小学校教諭 浅輪 郁代氏 (北小学校教諭)

- ◎親の願いや地域の期待に応じる学校づくり
- ・保護者との連携協力を重視した評価活動
- ・学びの学校づくり評議会

◇第4分科会◇

みんなの力が集まれば

~子どもにかかわるボランティアの連携~ 子どもに関わる支援団体のネットワークづくりについて考える。

【司会】

☆犬山市地域活動連絡協議会副会長

山田 順子氏

【話題提供】

☆犬山市子供会育成連絡協議会 会長

丹羽美代子氏

- ◎現在の子ども会活動から見える課題について
- ・親も含めた地域の子育て状況
- ・子供会育成連絡協議会と単位子供会のそれぞれのあり方

☆小学校教諭

松山 昌司氏

(北小学校教諭)

- ◎町づくりに位置づけた学校経営
- ・地域社会への参加
- ・学校を核としての子どもにかかわる団体の連携

☆児童館館長

神田 裕子氏

(犬山市中央児童館館長)

- ◎地域に根ざした児童館運営
- ・地域のお年寄りから学ぶ子育て支援のあり方
- ・児童館事業をとおしてボランティア組織の連携を考える。

子育てフォーラムに関するアンケート

本日は、お忙しい中ご参加いただきありがとうございました。

今後の子育て支援の参考にさせていただきたいと思いますので、次のアンケートにご協力ください。

(該当する番号に○を付けてください)

性 別	① 男 ② 女
年 齢	① 10歳~19歳 ② 20歳~29歳 ③ 30歳~39歳 ④ 40歳~49歳
	⑤ 50歳~59歳 ⑥ 60歳~70歳 ⑦ 70歳以上
お住まいの地域	① 犬山市内 ② 犬山市以外(市・区・町・村)

今日の子育てフォーラムは	どこで知りましたか?		
① 大山市の広報 ② チラシ ③ 所属する団体などからの呼びかけ			
④ その他()		
所属する団体などはありますか?			
① ない	(例:○○小学校、○○保育園、○○協議会、○○会など)		
② ある(↓よろしければ団体名などを記入してください)		
基調報告・記念講演につい			
	まあまあ良かった ③ あまり良くなかった ④良くなかった		
	② 長かった ③ 短かった		
	どがありましたら記入してください		
CONTRACTOR NAME OF STREET AND TO COMMUNICAL MANAGEMENT OF ANY	COUNTRY SERVICE SERVICE SERVICE ALBERT SERVICE		
分科会についてお聞かせく	ださい		
参加された分科会	① ② ③ ④		
内容 ① 良かった ②	まあまあ良かった ③ あまり良くなかった ④良くなかった		
時間 ① ちょうど良い	② 長かった ③ 短かった		
内容についてご意見、ご感想を記入してください。			
	•		
	(a) the product of		
	※ 裏面に続く。		

子育てフォーラム~いま、子育てに大切なものは!~

主催 犬山市

日程 平成19年2月17日(土)AM9:00~12:15 会場 犬山市福祉会館 5階大ホール

◇プログラム◇

9:15 基調報告 「子育て昔と今、そしてこれから…」

キルシェハイム(母子生活支援施設) 施設長色川美鈴氏

9:35 記念講演 「地域の子育て支援」

~地域の一人ひとりができること~

タレント 矢野きよ実氏

10:30 分科会への移動

10:40 分科会

第1分科会 子ども達を近所の目で守ろう

~子どもの危機管理における学校・地域・行政の連携~

話題提供者:主任児童委員·小学校教教諭·行政児童担当者

第2分科会 いろんな子どもがいていいよね

~障害児支援を地域で考える~

話題提供者:障害児の支援団体・障害児の保護者

第3分科会 人として生きるために 今、子ども達に大切なもの

~中学生の子育て支援から見える次代の親育て~

話題提供者:中学校教諭・小学校教諭・中学生保護者

第4分科会 みんなの力が集まれば

~子どもにかかわるボランティアの連携~

話題提供者:市子連会長・小学校教諭・児童館長

11:40 大ホールへの移動

11:50 全体会

12:15 終了

◇第1分科会◇

子ども達を近所の目で守ろう

~子どもの危機管理における学校・地域・行政の連携~ 子どもの居場所である家庭・学校・地域それぞれの場で子どもを見守るためにでき ることを考える。

【司会】

☆小学校教頭

飯田 勝己氏

(北小学校教頭)

【話題提供】

☆主任児童委員

武内たか子氏

(平成13年度12月より羽黒地域の主任児童員として活動中)

- ◎地域の子育て支援を担う主任児童委員の役割
- ・なかなか知られていない主任児童員の役割について
- ・市内施設の活動や地域の行事に参加し連携を持つことで知る地域の状況

☆小学校教頭

飯田 勝己氏

(北小学校教頭)

- ◎開かれた学校運営について
- ・いつでも誰でも自由に学校に来ていただける体制の効果。
- ・子どもを見守る外部支援者との連携。

☆犬山市子ども未来課 井出 修平氏

- (犬山市役所 民生部 子ども未来課 児童担当)
- ◎子どもの人権を守るための行政としての役割
- ・要保護児童対策の現状
- ・危機や子どもの状態を注意深く見守る体制

◇第2分科会◇

いろんな子どもがいていいよね

~障害児支援を地域で考える~

学校を拠点として実践している団体、障害児を持つ親、それぞれの立場から子ども たちが共に育ち合うことを考える。

【司会】

☆ぽんぽこ親の会代表

木村 敏夫氏

【話題提供】

☆ぽんぽこ親の会代表

木村 敏夫氏

平成16年4月障害児を支援する団体としてぽんぽこネットワークを設立。 平成17年度9月より小学校特殊学級児童地域交流支援開始。支援を継続しながら、 空き店舗を拠点とし、障害を持つ親のネットワークづくりを計画中。

保護者・学校・地域の立場を中立に見て、感じたり実践してきたことを報告します。

☆障害児を持つ保護者

山田真由美氏

現在小学校4年生の障害児を持つ親。

障害は不幸ではない、不便なだけ。自分らしく生きていくため、サポートが必要なだけ。この子たちのことを知っていただき、共に生きていく方法を一緒に考えてもらえたらという願いを込め報告します。

☆障害児を持つ保護者

三浦しのぶ氏

養護学校高等部の子を持つ親。

多くの方に支えられ、この子と共に歩んできた道程を報告します。そしてこれから、地域とのかかわりをどうつないでいくか一緒に考えてください。

◇第3分科会◇

人として生きるために 今、子どもたちに大切なもの ~中学生の子育て体験から見える次代の親育て~ 子どもたちが異年齢のふれあいの中で、人への思いやりを育む機会について考え る。

【司会】

☆中学校教頭(南部中学校教頭)

河村 雅之氏

【話題提供】

☆中学校養護教諭

宫地 朝子氏

(南部中学校養護教論)

- ◎子育て体験から見える現代の子育てについて
- ・中学校の子育て体験の報告
- ・アンケートから見える問題点

☆中学生の保護者 鈴木 佳子氏(南部中学校保護者)

- ◎子どもに託す親の願い
- ・子どもたちが育つ過程での異年齢の関わりについて
- ・中学生の実態

☆小学校教諭

浅輪 郁代氏

(北小学校教諭)

- ◎親の願いや地域の期待に応じる学校づくり
- ・保護者との連携協力を重視した評価活動
- ・学びの学校づくり評議会

◇第4分科会◇

みんなの力が集まれば

~子どもにかかわるボランティアの連携~ 子どもに関わる支援団体のネットワークづくりについて考える。

【司会】

☆犬山市地域活動連絡協議会副会長

山田 順子氏

【話題提供】

☆大山市子供会育成連絡協議会 会長

丹羽美代子氏

- ◎現在の子ども会活動から見える課題について
- ・親も含めた地域の子育て状況
- ・子供会育成連絡協議会と単位子供会のそれぞれのあり方

☆小学校教諭

松山 昌司氏

- (北小学校教論)
- ◎町づくりに位置づけた学校経営
- ・地域社会への参加
- ・学校を核としての子どもにかかわる団体の連携

☆児童館館長

神田 裕子氏

- (犬山市中央児童館館長)
- ○地域に根ざした児童館運営・地域のお年寄りから学ぶ子育て支援のあり方
- ・児童館事業をとおしてボランティア組織の連携を考える。

教育改革を進めるにあたって

犬山市教育委員会 瀬見井 久

- 1. 教育の不易と流行
- 2. 不易をふまえた犬山の教育改革
- 3. 教育改革のすすめ方
- 4. 自分のまちの子どもは自分の手で育てる
- 5. 終りに

1. 教育の不易と流行

市場原理は時代と共に移り変わる流行にすぎない。 競争と評価では教育はよくならない?

○ 新しい政権はしばしば「教育百年の大計」を語りたがります。教育議論は百家争鳴。教育改革は百花繚乱(りょうらん)ですが、この国のかたちを決める教育改革の流れは、大きく二つになるかと思います。一つは、今、安部内閣が進めている教育再生会議の方向ともう一つは、犬山のすすめている教育改革です。

教育再生会議は国の積極介入と市場原理を導入することで、教育を競争と評価によって変えていこうという試みです。子どもに対しては、「全国学力・学習状況調査」を実施することで、子ども間の競争を促すことで学力向上をねらう。学校に対しては、外部評価を含めた学校評価制度を徹底させ、学校選択によって学校を変える。さらに、教職員に対しては、教職員評価で教師の資質向上を図る。極め付きは、教育バウチャ(利用券)制度の導入です。確かに既得権益を持っている側からの改革は困難です。最大の既得権益者は教師です。

しかし時代の趨勢だからといって教育に市場原理がなじまないことを理解しない人々の提言を安易に教育に持ち込み競争と評価でとりわけ義務教育の活性化を図ろうとするのはいささか短絡的で深い危惧を覚えます。

これまで、市場原理を軸とした構造改革は必然的に社会の格差を大きくしました。これを取り入れた国はどこにも格差が広がりました。

この格差社会の問題を、教育の分野に持ち込めば、これまで守られてきた教育機会の階層格差は確実に拡大します。教育で格差が進むと社会の基本に関わる問題をめぐって、判断を求められるときに判断を放棄する層が生じ、国の存立に関わることになります。お手本のイギリスでは、結果的に学校間、地域の間の「格差」を生み、学校の序列が固定し、基礎学力の底上げにもならなかったとの批判があります。

教育は次世代へつながるもので、やり直しの利かない分野であることを改めて肝に めいじたい。

教育には時代と共に移り変わる流行に対して時代を超えた不易が ある。学ぶ喜び、教える喜び、自ら学ぶ力は教育の不易です。

○ 本来、公教育の最も重要な課題は、すべての子どもに基礎的な学力を保障することであったはずです。今、公教育とりわけ義務教育に何が求められているのか、義務教育を本来のあるべき姿に引き戻すのにどうしたら良いか、義務教育を考えるとき大事なことは、教育にはそれぞれの立場によりいくつもの正義があり、そこで語られる正義は、その時代のその立場の正義でしかないことです。競争原理もその時代の一つの正義にすぎません。時代と共に移り変わってゆくいはば流行です。一方、教育とは「学び」を授ける活動で、教育制度は、たかだか百数年の歴史にすぎませんが、教育には、人類の歴史とともに教育の知恵として蓄積されてきた不易があります。学びの動機づけは時代を超えた不易があります。「学びて時に之(これ)を習ふ。亦(また)悦(よろこ)ばしからずや」もともと学びはそれ自体掛け値なしの喜びを与えてくれるもので、論語は学ぶ悦びについて孔子のはずむようなこの言葉から始まります。教育を蘇(よみがえ)らせるとは、何より、まず学ぶ喜び、教える喜びをどう蘇らせるかです。

義務教育は64万人の教員と十兆円の税金で4百万人を超える子どもに、教育を提供する高度に整備された巨大な教育システムです。教育の活性化とは「学ぶ喜び」「教える喜び」を教育システム全体にどう蘇らせるかです。一度思いつきで改革すれば、シムテムの歪みと機能低下の修復は至難のこととなります。

○ 学力における不易とは何か、教育は本来、生涯にわたって自ら学び続ける子ども

一人ひとりの姿勢、つまり自ら学ぶ力を育む教育が基本です。一番大事な学力は自ら学ぶ力で自己教育が基本です。自ら学ぶ力とは学ぶ子どもの主体的な営みで、学習は子どもの主体的な活動でなければなりません。学校は自ら学ぶ力を育む場、それを支援するのが教師の役割です。当然、学力の議論はまず自ら学ぶ力をどう育むかから始めるべきですが、自ら学ぶ力が教育改革の議論の狙上に載せられることはまずありません。教師主導の教え込む教育は学校制度ができてから生まれた一つの思想で、その歴史は百年有余です。それまでも人は、自分で必要と思うことは自分のやり方で、自ら学んできました。サルの子どもは親兄弟のしぐさを見よう見まねで学習します。これで過酷なジャングルの自然を生き抜く力が生まれるからです。

自ら学ぶ力が学力の不易です。

教育改革は教育の不易をふまえたものでなければならない

○ 教育改革には、市場原理によって教育を改革しようとする流行の流れと学ぶ喜び を動機づけに、子どもの自ら学ぶ力を育む不易の流れの二つあります。

教育は目の前の子どもに視点を置きながらも、10年単位百年単位を見通した文明的視点が重要です。流行ではなく教育の不易を踏まえないと、競争と評価の市場競争原理を通すだけで、期待通りの成果を上げるとは、とても思えません。むしろ危惧される弊害が多いのではないか。「公」重視の世の中となりました。しかし、乱れた規範を正すとは自らを律するもので、いたずらに縛ることではありません。大切なことは自ら学ぶ力を育み、自由で深い精神を培うことです。

2. 不易を踏まえた犬山の教育改革

学校の最も重要な役割は授業を通してすべての子どもの「学び」を保 証することです。

○ 不易を踏まえた犬山の教育改革で大事なことは、まず、学校の役割を明確にする ことです。学校が担えるのは広い意味での教育の一端でしかありません。学校の最も 重要な役割は授業を通して、すべての子どもの「学び」を保証すること、学校経営の 基本に学校の最も重要な役割は授業で、教師の役割は、生徒に質の高い授業を提供することが、きちっと位置づけられることです。そして改革は、「学びとは」を深く問い続けることで、教師や子どもの声がエネルギーとなって、学校内側から変えてゆく自己改革でなければなりません。学校の学びの回復です。

教育は子どもと教師の人格と人格のふれあいが基本です。 重要なことは礎となる「子ども像」「教師像」を明確にすることです。

- 次に教育は、「人格の完成」という理想のもとに営まれる壮大な活動です。子どもは学ぶ喜びを実感し、教師は教える喜びを感じ取るという内発的な動機づけに支えられた営みです。目の前の子どもを見つめ、子どもと向き合いながら行われる地道な「人づくり」です。子どもと教師との強い信頼関係に培われた人格と人格とのふれあいがあって、はじめて教育は成り立つのです。その際最も重要なことは、礎となる「子ども像」と「教師像」を明確にすることです。
- どんな子どもを育むかという「子ども像」を考えるにあたり、重要なのは「自ら 学ぶ力」です。自ら学ぶ力とは、「基礎的な学力を身につけ、家族や友達を大事にし、 地域を支え、自分の人生を大切にするとともに、生涯にわたって自ら学び続けようと する資質や能力」です。子どもの人格です。次に、そういう子どもを育むのには、ど ういう教師であったらいいかという教師像が重要となります。教師の資質向上を単な る能力の向上でなく、教師の全体像としてとらえることが重要です。

犬山のめざす子ども像を育むのに少人数学級は不可欠の教育環境です。

○ 子どもが「自ら学ぶ力」を身につけるには、子どもが授業に主体的に取り組む経験が欠かせません。それを可能にする教育環境の整備です。これまで、日本の授業風景は、一人の教師が黒板と教科書で教え込む一斉指導が主流でした。この授業の形は百年を超える公教育の歴史で揺るぎないモデルになりました。しかし、この受け身の授業では「自ら学ぶ力」をはぐくむことができません。大切なことは、子どもが主体となって取り組む「学びの授業」の実現です。「学びの授業」に欠かせないのが少人数学級です。少人数学級は教師が子ども一人ひとりの学習の様子に応じた多様な援助

を行うことができ、習得を高めます。習得が高まることで、学習への興味、関心が深まり、学習に主体的に取り組む可能性が高まり、「自ら学ぶ力」を育みます。教育実践の中で学習と生活を一体とする少人数学級は、子ども同士、教師と子どもの人間関係を築きやすく、個に応じた指導を容易にすることなどから、人格形成、学力保障に最も有効な教育環境であることを確信しました。

- 米国の初等中等教育への財政支出は国内総生産の5.3%、日本は3.5%で、その差は1.8ポイント。額にして約兆円の格差があります。日本のすべての公立小・中学校を30人学級にするに要する人件費は9千6百億円と資産されます。教育は未来への投資で、かつ最大の公共事業です。教育改革は、安易な市場原理の導入の前に、まず少人数学級など教育への思い切った国家投資から始めなければなりません。
- 教育基本法は人権の完成を目指すというゆるぎない理念を示しましたが、その人格が国に役立つ人材づくりにとって変わられようとしています。

改めてこのことについて再認識しておきたい。

犬山の教育に求められる教師像は教師自己の「自己改革」の積み重ね です。

○ 教師像で重要なことは、自ら学ぶ子ども育むのには、教える教師自身が自ら学ぶ力を備えていなければなりません。自ら学ぶ教師でなければならないということです。自ら学ぶ教師というのは、責任と権限を教育現場に与えることで、教育現場がその権限を行使して、自分の心ゆくまでの授業を作り上げること、それが教師として教える喜びの原点です。そういう授業を作りあげることのできる教育環境の整備が重要です。大山での教師の資質・能力の向上は、教師自身の自己評価や「同僚性」に基づく相互評価などにより、日々の授業改善の積み重ねです。この取り組みが教師の指導力向上に最も有効な手法です。教員評価制度によって資質の向上を図ることとはまったく対極にある考え方です。教員評価による教師の資質向上策は、教師の目線は校長なり教頭なり評価する側の方の目線にいきやすい。大事なのは、子どもに対する目線です。

犬山の選いたい学校像

○ 所詮教育は、煎じ詰めれば人が人を育てることで教師と子どもの関わり合いです。 関わり合いで最も大事なのは授業です。授業は教師の作品です。よりよい作品とする ことで、子どもの学ぶ意欲をどう育むか、もともと教育は、地味な土台をつくる仕事 で、特に奇をてらった方策はありません。犬山の教育改革は「私が生徒であったとし て、また教師であったとして、通いたい学校」を追い求めることで、学校を教師自ら の手で内側から変えてゆく自己改革です。犬山では、教師自らが日常の授業を振り返 り、継続的に授業改善の積み重ねを測る「自己改革」によって教師としての資質・能 力の向上を図ってきました。教師はもともと授業に工夫を凝らし、手応えを感じなが ら、教育を充実させていく意欲と情熱を秘めつついます。ここにどう火をつけるか、 教師の手による主体的な授業づくりを可能にする「学校の自立」が決め手です。

学校の自立は教師の自己改革を促し、授業作りや自己研修などを通して教師相互が 刺激し合い、質の高い授業を創造しようとする意識を高めます。

学校の自立に欠かせないことは、何をどう教えるかに関する教育課程と、どういうが級規模にするかの学級編制が、学校の創意工夫で可能になる教育環境の整備です。 犬山の教師の手による学校を内側から変える自己改革の試みは、市場競争原理の外圧が増せば増すほど、その対極にある試みとして一層その重みを増します。魅力ある授業の創造は、教師自らの課題であり、教師による授業の創造という文化を教育現場にどう定着させるのか、これが重要な関心事です。

文化と表現したのは、改革の取り組みが教育現場で当たり前の姿となる状況、すなわち文化が理想だからです。

3. 教育改革のすすめ方

改革は制度を変えることでなく授業を変え、教師を変え、学校変え、 地域の教育を変えることでなければなりません。

〇 改革、改革、改革と世の中改革ばやりです。市場原理の導入等、国主導の改革議論が耐えられない軽さで、独り歩きをしています。結果として、管理、数値目標、技

術論ばかりが横行しています。どちらもつぎはぎ対応で、改革の先にある「国のかた ち」が全く見えてきません。

問題は教育現場の実態との乖離があまりにも大きく、今回の教育再生会議での多分に精神訓話的な教育の在り方議論をみるにつけ、改めて日本の教育改革のすすめ方を変える必要性を痛感します。

教育改革は制度を変える「器の改革」にとどまっていてはいけません。改革でまず 当然やっておくべきことは、授業を変え、教師を変え、学校を変えることで、地域の 教育をどう変えるかということです。今教育改革で求められているのは、教育現場の 実態を踏まえた草の根的な改革論議です。机上の改革論議からは問題の核心が見えて きません。教育施策の混迷の大きな要因です。

それには教育現場の実態を踏まえた検証が不可欠で、徹底的に現場主義でなければなりません。

○ それには、これまでの制度のどこが問題か、実態把握を踏まえた検証が不可欠の はずです。そこでは冷静な実態分析と、実施に移された後の政策評価が不可欠です。 このリアリズムを忘れると改革は不毛となります。事例には事欠きません。

「ゆとり教育」は、三割教える内容を減らしたことがそれだけで問題になるわけではありません。「自ら学ぶ力」といった甘美で冗舌な言葉を軸に教育現場で実際に何が起きているか検証することなく、財政的裏付けも条件整備も不十分なまま事が進められ、学力低下問題を引き起こしました。今度は学力低下議論をかわすため、突如、学習指導要領を「教える最低基準」とし、その最低保障をどう手当するかに触れることなく、発展的学習を奨励し、教育現場に大きな混乱をもたらしました。

今回の教育再生会議での議論は、実態を踏まえた政策評価をフィードバックする発 想が極めて乏しく、またこれまでと同じ事をくり返しています。

極論すれば政策評価は問われることがないから、政策をどう実現するかは考慮に入れなくてよいという無責任な構図が読み取れます。

4. 自分のまちの子どもは自分の手で育てる

日本の教育制度は地方分権を基本としています。

- 教育基本法改正のあと、教育振興基本計画の策定。国、都道府県教委、市町村教委、学校の権限と責任の見直し、学習指導要領の改定作業等、法改定で国の教育に対する関与介入が強まることが予想されます。また、いじめ問題での国の現地調査は全く異例でした。改めて、教育の地方分権について再確認しておく必要があります。
- 日本の教育制度は当初より地方分権で、市町村が設置している学校は、市町村教委会が学校管理権(人事における内申権、教科書の採択、研修、教育課程)を持ち、その行使にあたって大きな裁量が与えられています。

市町村教委会はこの権限に基づいて、教育現場の学校づくりを支援し、主体的な創意工夫を引き出す重要な役割を任っています。

国・県にはこのような権限は一切ありません。

意外なほど明確に教育の地方自治を基本原理としています。

大事なのは、地方分権の制度を生かし切ることである。

- その気になれば、地方の教育は独自の展開が可能で、充分変えることができます。 なぜ教育が地方で変えられないか。制度を使いこなせない地方の主体性のない対応に あります。
- 各界各層で教育改革が議論を呼び、国も揺らいでいます。しかし、国がどんなに 揺らいでも、忘れてならない重要なことは、子どもに授業を通じてきちっと学びを保 障しなければならない責任は、学校の管理責任をもつ市町村教委にあることです。授 業を通じて子どもに学びをどう保障するのか、その対応が市町村教委に問われていま す。

教育の地方分権とは、市町村教委が学校の管理責任をいかに果たすかにつきます。 問題は、国が揺れる中で、学校管理責任をもつ市町村教委からの声が聞こえてこない ことです。国の揺らぎよりむしろこのことが問題で、ここに地方の教育の時代と言われながら、今一つ地方からの改革が進まない本当の原因があります。 教育は国の揺らぎの性にする時代ではありません。地方分権の制度を生かしきることが、改革のはじまりです。

○ しかし特に留意すべきことは、市町村教委会を押さえ込んで末端機関の取扱いを してきたのは他ならぬ国、都道府県教委会で、この切り換えが全く出来ないことにも 重大な責任があります。

5. 終りに

○ 教育はせんじ詰めれば、どんな国にするかの選択です。次の時代を問う重いものであることに、世の中が気付くのは「国のかたち」がおかしくなってからで、そうなってからでは取り返しがつきません。

〇ここ10年教育に対する改革案は市場原理を軸とした教育の本質が何であるかを深く考えたこともない人の提言によるところが大きい。やり直しの利かない教育だけに、安易な市場原理の導入に抵抗するだけの見識と気概が強く望まれます。

○ 犬山の改革は、改革の狙いと成果を検証しながら教育現場の地道な努力を積み重ねることで、国主導の教育文化に対して、新しい地方の価値観に基づく教育文化をつくり上げる試みで、実にプラグマテックな試みです。

教育委員会として当然やるべき事をやっていると言うほどの意味で、改革という 意識は全くありません。義務教育として守るべきぎりぎりのことを追い求めたにすぎ ません。犬山の教育改革が世の中に一石を投じたとすれば、当然やるべき事を世の中 がやっていないと言うことの証にすぎません。これは、教育に限らず世の中すべてに 言えることです。